

平成 26 年度 南城市デマンド交通導入効果検証委託業務

報 告 書



平成 27 年 3 月

沖縄県 南城市

目次

はじめに	業務概要	1
1	業務概要	1
1-1	業務目的	1
1-2	業務対象地区	1
2	実施方針	2
2-1	業務実施方針	2
2-2	業務の進め方	3
3	業務内容	4
3-1	実験計画の検討・整理	4
3-2	広報の実施	4
3-3	調査の実施	4
3-4	利用実態の把握	4
3-5	実証実験の評価	4
3-6	課題の整理と改善策（案）の検討	5
3-7	平成27年度デマンド交通運行実施計画（案）の策定	5
3-8	南城市地域公共交通会議の運営	5
第1章	実験計画の検討・整理	6
1	無償実験計画の整理	6
2	有償実験に向けた問題点と課題の整理	8
2-1	有償実験に向けた課題	8
2-2	課題に対する検討結果	9
3	有償実験計画の検討	13
3-1	運行計画の検討	13
3-2	運営体制の検討	17
第2章	広報の実施	18
1	無償実験のチラシ・ポスターの作成	18
1-1	広報計画の検討	18
1-2	広報物の作成	19
2	有償実験のチラシ・ポスターの作成	21
2-1	広報計画の検討	21
2-2	広報物の作成	22
第3章	調査の実施	26
1	無償実験の調査の実施	26
1-1	利用者アンケート（市民）の実施	27
1-2	利用者アンケート（観光客）の実施	36

1-3 主要施設ヒアリングの実施.....	45
2 有償実験の調査の実施.....	58
2-1 登録者アンケートの調査計画の検討.....	59
2-2 調査結果の集計.....	68
第4章 利用実態の把握.....	81
1 実施状況の整理.....	81
1-1 運行状況.....	81
1-2 運行経費.....	82
1-3 登録者数.....	83
2 利用状況の整理.....	85
2-1 利用者状況の概略.....	85
2-2 利用者の属性.....	88
2-3 「おでかけなんじい」利用での立ち寄り先.....	93
2-4 利用状況の変化のまとめ.....	100
第5章 実証実験の評価.....	101
1 デマンド交通の求められる役割からみた評価.....	101
1-1 公共交通空白地域・不便地域における路線バスの補完.....	102
1-2 既存の路線バス等と一体となった公共交通ネットワークの形成.....	103
1-3 持続可能な公共交通ネットワークの形成.....	105
1-4 南城市への観光需要の喚起.....	106
1-5 南城市の活性化に向けた外出支援.....	108
1-6 デマンド交通の求められる役割からみた実証実験の評価のまとめ.....	110
2 利用者の評価.....	111
2-1 市民の評価.....	111
2-2 観光客の評価.....	113
3 実証実験の評価のまとめ.....	114
第6章 課題の整理と改善策（案）の検討.....	115
1 課題の把握.....	115
2 他地区事例の収集整理.....	116
2-1 事例収集の概要.....	116
2-2 個別事例の概略.....	117
2-3 事例収集のまとめ.....	126
3 改善策（案）の検討.....	127
第7章 平成27年度デマンド交通運行実施計画（案）の策定.....	128
1 運行計画.....	128
1-1 概略.....	128
1-2 各項目の概略.....	129
2 平成27年度のデマンド交通の運営体制(案).....	131
3 その他.....	131

第8章 南城市地域公共交通会議の運営	132
1 第1回会議	132
1-1 議事次第	132
1-2 出席者	133
1-3 議事要旨	134
2 第2回会議	137
2-1 議事次第	137
2-2 出席者	138
2-3 議事要旨	139
3 第3回会議	142
3-1 議事次第	142
3-2 出席者	143
3-3 議事要旨	144
第9章 今後の課題	147

参考資料1：主要施設ヒアリング結果

参考資料2：「おでかけなんじい」の地域間の移動状況

はじめに 業務概要

1.業務概要

1-1.業務目的

南城市では平成 24 年度に「デマンド運行実施計画 (案)」が策定され、平成 25 年度より、デマンド交通の本格運行に向けた実証運行が無償で実施されている。平成 26 年度も引き続き前半に無償実験が行われ、後半は有償実験が行われており、実証運行による観光客、市民の利便性向上といった効果や、デマンド交通に対する需要、本格運用に向けた課題等の把握が求められている。

このような背景を踏まえ、本業務は、平成 26 年度のデマンドバス実証運行の効果検証及び本格運用に向けた課題把握を目的に実施され、業務では、効果把握のための調査や、実証運行 P R のための広報、実証運行計画の検討と評価を行う交通会議の運営を実施する。

1-2.業務対象地区

本業務は、デマンドバス実証運行が行われる南城市を対象に実施する。



図 1.業務対象地域

2. 実施方針

2-1. 業務実施方針

本業務は以下の3つの方針のもとで実施する。

方針1 登録者アンケート、主要施設ヒアリング、利用者アンケート（観光客・市民）等によるデマンドバスの効果と問題点の把握

デマンドバスのシステムで把握される利用状況データの他、登録者アンケートや主要施設ヒアリング、利用者アンケート(観光客・市民)により、デマンドバスの利用状況や、デマンドバスの乗り心地・待ち時間等の評価、観光客の満足度、市民の外出機会の変化等を把握し、デマンドバス実証運行の効果検証や、本格運用に向けた課題を把握する。

方針2 無償実験と有償実験の利用状況の比較によるニーズの分析

無償時の利用者は、移動に必要性が低くても無償であることから利用している方も多いことが想定される。一方、有償時は移動の必要性が高い方の利用に限られてくると考えられることから、無償時と有償時の利用状況を比較することで、移動の必要性の高いニーズの抽出などの分析を行う。

方針3 交通会議を通じた実証運行計画の検討、実証運行の評価、本格運行に向けた課題整理の実施

デマンド交通の本格実施に向けては、採算性の他、交通事業者をはじめとする関係者との合意形成が非常に重要となることから、実証運行の段階から関係者からなる交通会議において検討を進めることで、本格運行に向けた機運の醸成を図る。

2-2.業務の進め方

業務方針を踏まえ、本業務は以下の手順で進めた。

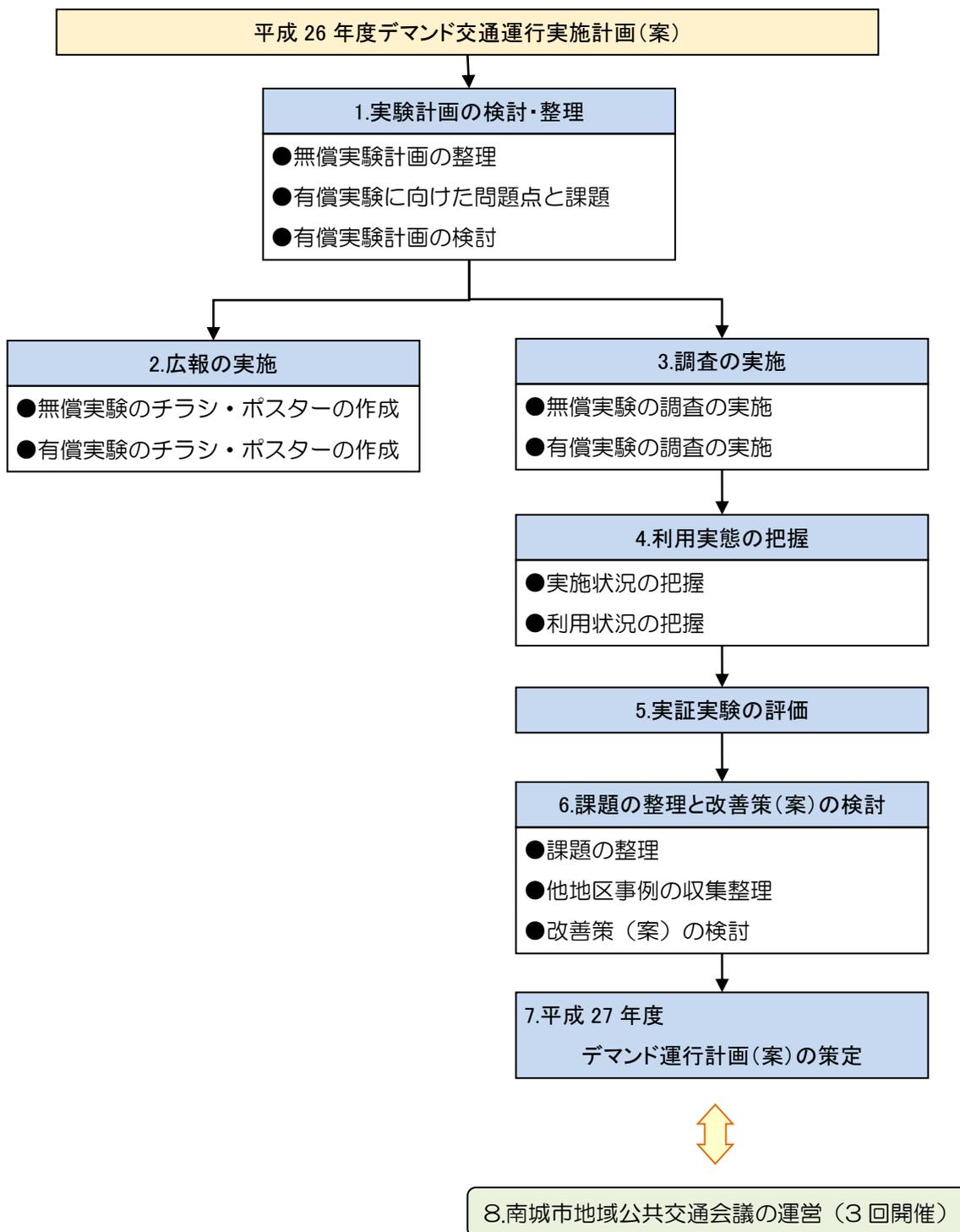


図 2.業務実施フロー

3.業務内容

3-1.実験計画の検討・整理

(1)無償実験計画の整理

昨年度検討された「平成 26 年度デマンド運行実証実験計画」をもとに、無償実験計画を整理した。

(2)有償実験に向けた問題点と課題の整理

無償実験の実施状況、利用状況や、過年度アンケートで得られた有償実験への意向を踏まえ、有償実験に向けた問題点と課題を整理した。

(3)有償実験計画の検討

(2) で整理した有償実験に向けた問題点と課題を踏まえ、有償実験計画を検討した。

3-2 広報の実施

(1)無償実験のチラシ・ポスターの作成

市民、観光客に無償実験を PR するためのチラシ・ポスターの原稿を作成した。

(2)有償実験のチラシ・ポスターの作成

市民、観光客に有償実験を PR するためのチラシ・ポスターの原稿を作成した。

3-3 調査の実施

(1)無償実験の調査の実施

無償実験における利用状況や利用者の評価を把握するため、利用者アンケート調査及び主要施設ヒアリングを実施した。

(2)有償実験の調査の実施

有償実験における利用状況や利用者の評価を把握するため、登録者アンケート調査を実施した。

3-4 利用実態の把握

(1)実施状況の整理

無償実験、有償実験における運行状況、経費、登録者数等をシステムデータや南城市貸与資料より整理した。

(2)利用状況の整理

システムデータや各種アンケート調査結果より、無償実験、有償実験の利用者数や利用者の属性、立ち寄り先等を整理した。

3-5 実証実験の評価

システムデータや、各種アンケート調査結果より、デマンド実証運行計画検討時に設定した評価の視点にしたがって、実証実験の評価を行った。

3-6 課題の整理と改善策(案)の検討

(1)課題の整理

3-5 で整理した評価結果等をふまえ、平成 27 年度の実証実験に向けた課題を整理した。

(2)他地区事例の収集整理

改善策検討の参考とするため、他地区事例の収集整理を行った。

(3)改善策(案)の検討

収集整理した他地区事例を参考に、改善策（案）の検討を行った。

3-7 平成 27 年度デマンド交通運行実施計画(案)の策定

3-6 で整理した改善策を踏まえ、平成 27 年度デマンド交通運行実施計画（案）を策定した。

3-8 .南城市地域公共交通会議の運営

デマンド実証運行計画の検討、評価、本格運用に向けた課題整理等を行うため、交通事業者、市民代表等からなる交通会議の運営を行った。

表 1.交通会議の概要

回数	日時	議題等
第 1 回	5 月 21 日	<ul style="list-style-type: none"> ●H25 実証運行結果報告 ●H26 の進め方 ●有償実験計画の素案について
第 2 回	10 月 31 日	<ul style="list-style-type: none"> ●無償実験実証状況報告 ●無償実験の評価について ●有償実験計画（案）について
第 3 回	3 月 5 日	<ul style="list-style-type: none"> ●実証実験の実施状況の中間報告 ●実証実験の利用状況の中間報告 ●平成 27 年度の有償実験事業の進め方（案）について

第1章 実験計画の検討・整理

1 無償実験計画の整理

昨年度検討された「平成 26 年度デマンド交通運行実施計画（案）」をもとに、無償実験の運行計画を整理した。

- 平成 26 年度も、平成 25 年度に引き続き、4 月 10 日（木）より、「おでかけなんじい」と「観光おまかせなんじい」を運行する。
- 無償実験の期間は、当初、平成 26 年 9 月 30 日までを予定していたが、有償実験の実施が 12 月中旬になることから、平成 26 年 12 月 8 日（月）まで延長して実施する。
- なお、「観光おまかせなんじい」は夏期の観光シーズンにおいても利用者数が伸びなかったため、10 月 1 日（水）より運行を休止した。

表 1-1.平成 26 年度無償実験計画の概要

項目	内容	備考
デマンドバスの運行範囲	久高島を除く南城市全域	
利用対象	南城市を訪れる観光客及び 65 才以上の南城市民	
利用料金	無料	
運行形態	①ドア to ドアを基本とする「おでかけなんじい」 ②路線定期運行の「観光おまかせなんじい」	「観光おまかせなんじい」は 10 月 1 日より運行休止
実験期間	平成 26 年 4 月 10 日（木）～平成 26 年 12 月 8 日（月）	
運行曜日	平日・休日の両方	
運行時間帯	8～21 時	
導入車両	10 人乗り 2 台、8 人乗り 3 台の計 5 台	10 月 1 日より 10 人乗り 1 台を減車
利用方法	観光客は登録なしで、南城市民は登録制で、利用したい便の 1 時間前までに電話にて予約	

表 1-2.「おでかけなんじい」と「観光おまかせなんじい」の概要

区分	おでかけなんじい	観光おまかせなんじい
運行形態	久高島を除く南城市内において、需要に応じてエリア内をドア to ドアで移動	ユインチホテルを起点に、決まったルート、乗降場所を定時に周遊
利用方法	出発30分前までに電話予約が必要。市民利用の場合は要予約	予約不要。ダイヤにあわせメインポイントで待機し、乗車。メインポイント又は寄り道ポイントで降車。
運行期間	平成26年4月10日 ～平成26年12月8日	平成26年4月10日 ～平成26年9月30日
運行時間帯、ダイヤ	8時～21時 ダイヤは8時台～20時台 (1時間 間隔便の計13便)	1日5便運行、ユインチホテル出発は、9:00、11:00、13:00、15:00、17:00
使用車両	10人乗り：1台 8人乗り：3台	10人乗り：1台



図 1-1.「観光おまかせなんじい」の周遊ルート

2 有償実験に向けた問題点と課題の整理

2-1 有償実験に向けた課題

有償実験の実施に向けては、以下の点が課題となった。

課題 1: 運賃設定及び運賃收受方法

昨年度の検討で、利用者の二ーズを踏まえると300円が妥当な運賃との結果になってはいるが、運賃300円の設定や、運賃收受方法について、地域公共交通会議で合意を得る必要があった。

課題 2: 車両台数

無償実験は、10人乗り2台、8人乗り3台の計5台で運行しているが、有償化により利用者数が大幅に減少することが想定されるため、適切な運行台数は何台であるかを想定する必要があった。

課題 3: 運営方法

無償実験は、運行、オペレーターの全てを「南城市シルバー人材センター」に委託していたが、有償化されることにより、運行にあたっては「一般乗合旅客自動車運送事業」の許可が必要となることから、無償実験とは別の枠組みでの運営方法の検討が必要となった。具体的には、どの範囲をどのように委託するのか、運行の委託先は何社にするのか、実験用の緑ナンバーの車両をどのように調達するのか等について検討する必要があった。

課題 4: 市民への周知

有償化にともない、これまで無料で利用していた方は運賃が必要になる一方で、65歳未満の方も利用できるようになることから、広く市民に実験方法の切り替えについて周知する必要があった。

2-2 課題に対する検討結果

(1) 運賃設定及び運賃收受方法

- 運賃設定については、平成 25 年度実施のアンケート調査で算定された支払意志額（登録者:267円、利用者 286円）を再整理するとともに、既存の公共交通の運賃との比較（バス初乗り運賃：160円、タクシー初乗り運賃:500円）により、地域公共交通会議の場において合意を得た。
- 運賃收受方法については、現金払いと、回数券・乗車券の事前購入とのメリット・デメリットを比較することで、現金で收受することとした。

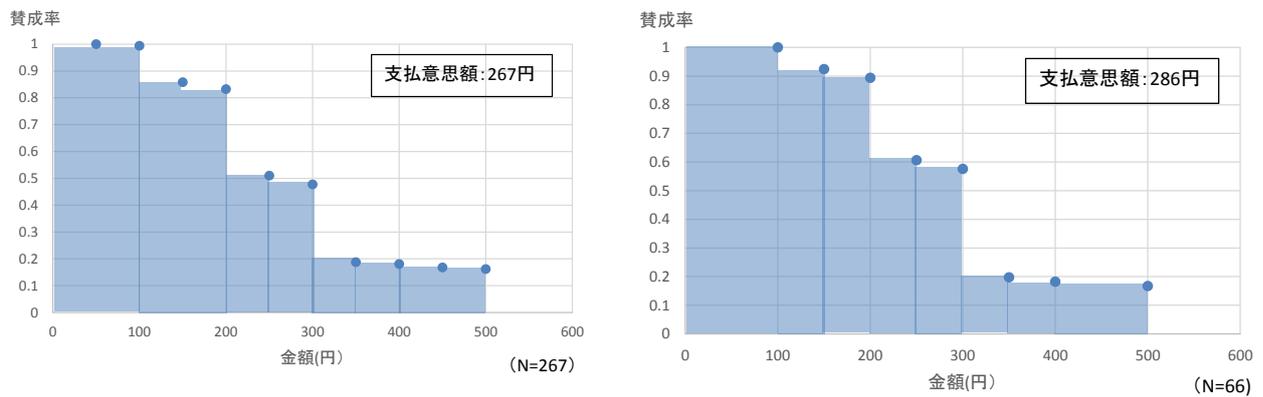


図 1-2.有償時の支払意志額(左:登録者アンケート、右:利用者アンケート)

表 1-3.運賃收受方法

手法	概略	メリット	デメリット
現金	利用毎に、利用者が運転手に現金で支払い	<ul style="list-style-type: none"> ●事前に回数券等を購入する必要がなく、利用しやすい ●発券手続きが不要 	<ul style="list-style-type: none"> ●運転手が現金を取り扱う必要がある
回数券・乗車券(事前購入)	利用者が事前に回数券を購入し、利用時に回数券で支払い	<ul style="list-style-type: none"> ●運転手が現金を取り扱わなくてよい 	<ul style="list-style-type: none"> ●事前の購入が必要 ●発券のための費用が生じる

(2)車両台数

- 無償実験の運行状況より、時間帯別の平均利用者数と、平均運行便数を整理した。
- 次に、平成 25 年度のアンケート結果で得られた運賃 300 円における利用意向（利用者が 41%に減少）を踏まえ、現在のピークである 15 時台の利用者数が、8 時台の利用者数のレベルに減少することを把握した。
- 無償実験期間中における 8 時台の運行便数をみてもと、4 台運行していれば、運行本数 95% の需要を満たすことが把握されたため、有償実験の車両台数を「おでかけなんじい」3 台、「観光おまかせなんじい」1 台の計 4 台と設定した。（実際には有償実験での「観光おまかせなんじい」の運行はなし）

～ 参考 有償実験の運行台数の算定について(1/2)～

H25 の登録者アンケートによると、料金 300 円で利用意向が 48%、運行頻度の変化が-14%（=現状の 86%の利用）であることから、300 円の有償化により $48\% \times 86\% = 41\%$ に利用者数が減少することが想定される。

下表は、無償実験期間中（4/10～8/14 のデータ欠損等を除く 125 日間）における時間帯別の平均利用者数、平均稼働台数、1 便あたりの平均利用者数等を示したものである。下表より、無償実験期間中でもっとも利用者数が多い時間帯は、15 時台の 9.8 人/h であることがわかるが、H25 アンケート調査結果より、有償時には、 $9.8 \text{ 人/h} \times 41\% = 4.0 \text{ 人/h}$ 程度に減少することが予測され、無償実験の 8 時台の利用状況（平均利用者数 4.6 人/h）と同じ水準となる。

有償時はピークの 15 時台の利用者数が 8 時台の利用者数まで減少すると予測

表 1-4.無償実験(4/10～8/14)における時間帯別の利用者数、稼働台数

時間帯	平均利用者数	平均稼働台数	1便あたりの平均利用者数	稼働台数別の構成比						累計					
				0台	1台	2台	3台	4台	5台	0台	1台	2台	3台	4台	5台
8時台	4.6	2.7	1.7	1%	18%	26%	29%	22%	5%	1%	18%	44%	73%	95%	100%
9時台	7.7	3.4	2.3	0%	5%	14%	30%	42%	10%	0%	5%	19%	49%	90%	100%
10時台	8.5	3.7	2.3	0%	2%	10%	25%	39%	24%	0%	2%	12%	37%	76%	100%
11時台	8.9	3.6	2.5	0%	2%	14%	23%	43%	18%	0%	2%	15%	38%	82%	100%
12時台	8.1	3.6	2.3	1%	8%	6%	28%	33%	25%	1%	9%	14%	42%	75%	100%
13時台	9.5	3.6	2.7	0%	2%	16%	25%	38%	20%	0%	2%	18%	42%	80%	100%
14時台	7.2	3.4	2.1	0%	10%	12%	26%	32%	20%	0%	10%	22%	48%	80%	100%
15時台	9.8	3.6	2.8	1%	1%	12%	28%	46%	13%	1%	2%	14%	42%	87%	100%
16時台	9.7	3.4	2.8	0%	4%	15%	29%	36%	16%	0%	4%	19%	48%	84%	100%
17時台	9.2	3.5	2.6	0%	1%	14%	32%	42%	11%	0%	1%	14%	46%	89%	100%
18時台	3.7	2.4	1.5	4%	17%	34%	27%	14%	4%	4%	21%	54%	82%	96%	100%
19時台	2.8	1.9	1.5	3%	30%	45%	17%	6%	0%	3%	33%	78%	94%	100%	100%
20時台	0.6	0.4	1.4	62%	34%	4%	0%	0%	0%	62%	96%	100%	100%	100%	100%
計	90.3	39.3	2.3												

～ 参考 有償実験の運行台数の算定について(2/2)～

下図は無償実験期間中 125 日間における 8 時台の運行台数の構成比と累計である。4 台稼働すれば、累計が 95%と 125 日間で 119 日の需要に対応出来ており、有償時でも 4 台運行すればピーク時の需要に概ね対応出来るといえる。よって、有償実験時は、「おでかけなんじい」3 台、「観光おまかせなんじい」1 台の計 4 台での対応が考えられる。

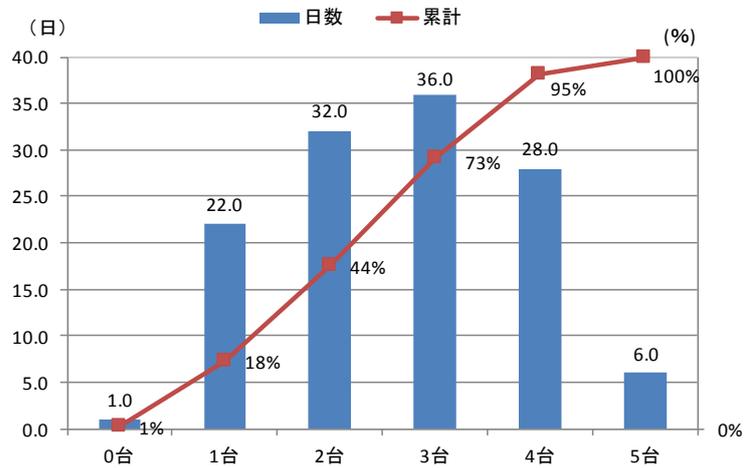


図 1-3. 無償実験の 8 時台における運行本数 (折れ線グラフは構成比の累計値)

(3) 運営方法

- 委託の範囲、運行の委託先、車両の調達について、それぞれのメリット・デメリットを比較することで、手法を選定した。
- 委託の範囲については、これまで得てきたノウハウを活用することを考慮し、「運行」と「オペレート」を別々に委託することとした。
- 運行の委託先については、期間が限定された実験という点を考慮し、運営が煩雑にならないようにするため、1社のみ委託することとした。
- 車両についても、実験での一時的な利用であることを考慮し、市からのリースを基本とすることとした。

表 1-5.有償実験の委託方法

区分	手法	メリット	デメリット
委託の範囲	運行・オペレートを一括で委託	●一体的に運営できる	●受託先の負担が大きい ●両方実施が条件となると委託先が限られる ●運賃収入を過小に報告できる余地がある
	運行・オペレートを別々に委託	●受託先の負担が小さい ●運行、オペレートにそれぞれ精通した組織が受託できる ●運賃収入を正確に把握しやすい	●運営主体がバラバラとなる
運行の委託先	1社	●効率的な運行が出来る	●特定の交通事業者のみが実験に関与することになる ●委託先に不測の事態が生じた場合の対応が難しい
	複数	●多くの交通事業者が実験に関与できる ●委託先に不測の事態が生じても対応しやすい	●運行の効率性が低下するおそれがある
車両	市からリース	●受託者の負担が小さい ●受託者が変わっても同一の車両で運行できる	●市の負担が大きくなると考えられる
	受託者が準備	●受託者が車両を所有していれば、活用でき経済的である	●受託者の負担が大きい ●受託者が変わると車両も変わる

3 有償実験計画の検討

3-1 運行計画の検討

- 平成26年度に検討した「デマンド交通運行実施計画（案）」、課題に対する検討結果を踏まえ、下表に示す内容で有償実験を実施した。

表 1-6.平成26年度デマンド交通の運行計画の概要

項目	内容	備考
利用対象	南城市民及び南城市を訪れる観光客で、一人で乗り降りできる方。 南城市民は登録が必要	
運行エリア	久高島を除く南城市全域	
運行形態	ドア to ドア方式の区域運行	
運賃	一人一律、1回300円	未就学児は無料
実験期間	平成26年12月10日 ～平成27年3月31日まで	年末年始(12/31 ～1/3は運休)
運行曜日	平日・休日の毎日	
運行時間	8～21時	8時台～20時台(1 時間 間隔便の計 13便)
予約方法	電話による予約制(各便30分前 までの事前予約)	8時の便は前日ま でに予約
予約時間	8～21時	
導入車両	10人乗り3台	南城市がリース契 約

(1)利用対象

- 南城市民及び南城市を訪れる観光客を利用対象とする。(福祉車両ではないため、ひとりで乗降できることが条件)
- 年齢制限はもうけない。

(2)運行エリア

- 久高島を除く南城市全域を運行エリアとする。
- 運行エリア内は細分せず、「おでかけなんじい」は全域を移動できるものとする。
- 運行エリア外の久高島との連絡は、安座真港での船との乗り継ぎ、市外との連絡は馬天入口バス停など市境のバス停で、路線バスとの乗り継ぎとなる。



図 1-4.デマンド交通の運行エリア

(3)運行形態

- 実証実験ではドア to ドア方式で区域運行の「おでかけなんじい」を運行する。
- なお、無償実験時に運行していた「観光おまかせなんじい」は、利用者数が少なく観光客も「おでかけなんじい」を利用していたことから、平成27年度も有償実験では運行しないこととする。

(4)運賃

- 「おでかけなんじい」の運賃は一律300円/回とする。
- 運賃の支払は、現金のみとし、乗車時に支払う。
- 未就学児は無料とする。

(5)実験期間

- 実験期間は、平成26年12月10日（水）～平成27年3月31日（火）の約3ヶ月半とする。

(6)運行曜日・時間帯

- 年末年始を除く、平日・休日の毎日運行する。
- 運行時間帯は、8～21時で、予約に応じて1時間毎に運行する。
- なお、台風接近等の荒天時は運休する。

表 1-7.「おでかけなんじい」の運行曜日・時間帯

項目	内容	備考
期間	平成26年12月10日～ 平成27年3月31日まで	年末年始（12/31～ 1/3は運休）
運行曜日	平日・休日	
運行時間	8～21時	8時台～20時台（1時 間 間隔便の計13便）

(7)予約方法及び予約時間

- 「おでかけなんじい」は予約制とし、予約はすべて利用者からの電話でのみ受け付ける。
- 予約時間は8時～21時で、出発の30分前まで受け付ける。（8時の便は、前日までに予約）

(8)導入車両

- 「おまかせなんじい」は、10人乗り3両で運行する。
- 車両は、リース車両を使用する。（南城市がリース契約）

なお、平成 25 年度から平成 28 年度のデマンドバスの運行の流れは、下図のように整理される。

時期		おでかけなんじい	観光おまかせなんじい
平成 25 年度	12 月	↑ 12/9	
	3 月		↑ 2/28
平成 26 年度	4 月	無償運行	無償運行
	9 月		↓ 9/30
	12 月	↓ 12/8	
	3 月	↑ 12/10 有償運行 (300 円) ↓ 3/31	
平成 27 年度	4 月	↑ 有償運行	
	3 月	↓ 有償運行	
平成 28 年度	4 月	↓ 本格運行 (予定)	

図 1-5.本格実施までのデマンドバスの運行の流れ

3-2 運営体制の検討

(1) 運営形態の概略

- デマンドバスのオペレートは、無償実験からの運用実績がある「南城市シルバー人材センター」に引き続き運営を委託する。
- デマンドバスの運行は、公募により交通事業者 1 者を選定し委託する。(公募プロポの結果、H26.9.4 に株式会社鏡原第一交通を第一優先契約交渉権者として選定、H26.10.31 契約)

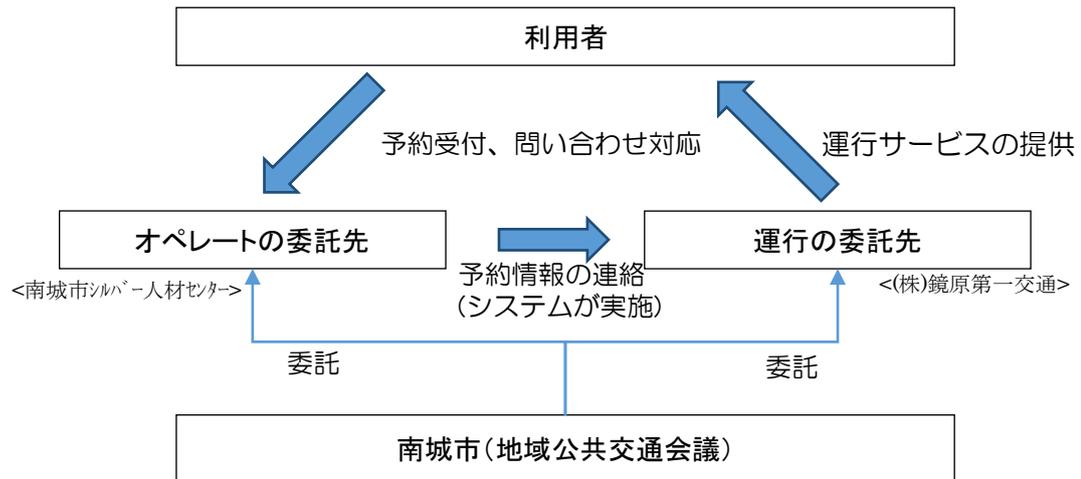


図 1-6.有償実験の運営形態

(2) デマンド交通のオペレート

- オペレータは利用者からの電話予約を受付、システム（南城市保有）に入力、配車（システムからドライバーに通知）を行う。
- 予約で満車となった場合は、次の便を案内する。
- また、利用者からの問い合わせやドライバーからの問い合わせについても対応する。

(3) デマンド交通の運行

1) 有償実験までの準備

- 有償実験までに委託先の交通事業者は、一般乗合旅客運送事業の申請を行う。「おでかけなんじい」は区域運行の許可が必要となる。
- 許可申請と並行して、ドライバーを対象に、南城市内の道路網、デマンドの車両で通行できない区間、車載器の利用方法等についての研修を行う。

2) 有償実験時の運行

- 「おでかけなんじい」は車載器の標示にしたがい運行する。
- また、乗車時には運賃の収受を行う。(運賃収入は、運行委託先の収入となる)

第2章 広報の実施

1 無償実験のチラシ・ポスターの作成

1-1 広報計画の検討

無償実験時は、観光施設等で「観光おまかせなんじい」の運行終了を告知するポスターと、市広報に掲載する無償から有償への切替の告知と無償での利用を促すことを目的とした広報データを作成した。

提供情報は、それぞれの目的を踏まえ、以下のように設定した。

表 2-1.無償実験での広報の掲載情報

広報媒体	掲載情報
ポスター (観光客向け)	<ul style="list-style-type: none"> ●観光客に「おでかけなんじい」の利用を促す文言 ●「観光おまかせなんじい」運行終了のお知らせ ●有償化のお知らせ 等
広報データ (市民向け、市 広報用)	<ul style="list-style-type: none"> ●有償化のお知らせ ●利用対象変更(65歳未満も利用可)のお知らせ ●無償での登録、利用を呼びかける文言 等

なお、観光客向けのポスター及び市広報用の広報はともにデータのみで作成である。

1-2 広報物の作成

(1) 観光客向けポスター

1-1 で検討した掲載情報にもとづき、観光客向けポスターのデータ(原稿)を作成した。

観光客のみなさまへ!

南城市内デマンドバスのご案内



「おでかけなんじい」に乗って

南城市内を満喫しちゃおう!!

「おでかけなんじい」とは?

南城市では、市内の移動に便利なデマンドバス「おでかけなんじい」が、実証運行中です!!
 南城市民のみなさまはもちろん、観光客のみなさまもご利用できます。
 事前の電話予約に応じて、乗り合い小型バスが1時間以内に、
 利用者が指定した場所までお迎えに行き、目的地までお送りします。
 (※貸切ではなく乗り合いです。)

【運行時間】8時台～20時台(1時間間隔便の計13便)
 【予約方法】30分前までに電話にて予約(8時台の便は、前日予約が必要です)

運行形態・料金変更のお知らせ

- 平成26年9月30日をもって「観光おまかせなんじい」の実証運行は終了し、10月1日からは「おでかけなんじい」のみの運行となります。
- 無償での実証運行は、平成26年12月8日をもって終了します。
 今後は、有償(300円、1人/1回の利用)でのご案内になります。

	9/30	12/8	12/中旬～	3/31
観光おまかせなんじい	無償運行	運行終了		
おでかけなんじい	無償運行	移行期間 運休	有償運行(300円)	



12/8(月)まで
無料運行なん!!



無償実証運行期限 ～平成26年12月8日(月)まで

有償実証運行期間 平成26年12月中旬～平成27年3月31日(火)まで

予約先 お問合せ

098-949-1235

イチニサンゴー!
 受付時間 午前8時～午後9時 ※年末年始(12月31日～1月3日)を除く毎日

おでかけなんじい受付センター(公益社団法人南城市シルバー人材センター内)

図 2-1.無償時の観光客向けのポスター

(2)市民向けチラシのデータ

1-1 で検討した掲載情報にもとづき、市広報誌用のデータ（原稿）を作成した。

南城市内デマンドバス 「おでかけなんじい」 変更のおしらせ




「利用料金」・「利用対象者」が変わります!

【利用料金】無償での実証運行は、平成26年12月8日をもって終了します。
 今後は、**有償(300円)**、1人/1回の利用)でのご案内になります。

【利用対象者】有償運行開始後は、1人で乗降できる方であれば**年齢に関係なく**
 ご利用できます。(未就学児のみでの乗車は出来ません)

<p>12/8</p> <p>無償運行</p> <p>65歳以上のご利用</p>	<p>12/ 中旬~</p> <p>運休</p> <p>移行期間</p>	<p>3/31</p> <p>有償運行(300円)</p> <p>年齢制限なし</p>
---	---	--

65歳以上で、まだ
利用したことが
ない方は、無償の
うちに登録して
乗ってみるなん!

【運行時間】8時台～20時台(1時間間隔便の計13便)
 【予約方法】30分前までに電話にて予約してください
 ※8時台の便は、前日予約が必要です

南城市デマンドバス「おでかけなんじい」とは?

市内のデマンドバス「おでかけなんじい」が、実証運行中です!!
 事前の電話予約に応じて、利用者の自宅まで乗合小型バスが
 迎えに行き、目的地までお送りします(市内に限る)。買い物、外食、
 イベントなどにご利用ください。(※貸切ではなく乗り合いです)



おでかけなんじい
キャラクター

無償実証運行期限 ～平成26年12月8日(月)まで

有償実証運行期間 平成26年12月中旬～平成27年3月31日(火)まで

お問合せ
お申込み

098-949-1235

(受付時間) 午前8時～午後9時 年末年始(12月31日～1月3日)を除く毎日

おでかけなんじい受付センター (公益社団法人南城市シルバー人材センター内)

図 2-2.無償時の市広報用誌データ

2 有償実験のチラシ・ポスターの作成

2-1 広報計画の検討

有償実験時は、観光施設等で「おでかけなんじい」の利用を促すチラシと、市民向けに無償実験が終了し、有償実験に切り替わったことを告知するチラシを作成した。提供情報は、それぞれの目的を踏まえ、以下のように設定した。

表 2-2.有償実験での広報の掲載情報

広報媒体	掲載情報
チラシ (観光客向け)	<ul style="list-style-type: none"> ●観光客に「おでかけなんじい」の利用を促す文言 ●南城市までのアクセス情報 ●南城市内の観光スポット 等
チラシ (市民向け)	<ul style="list-style-type: none"> ●有償化のお知らせ ●利用対象変更(65歳未満も利用可)のお知らせ ●利用方法と登録方法 等

なお、観光客向けのチラシは2,000部印刷(A3、両面、2つ折り)、市民向けのチラシは18,000部印刷(A4、両面、カラー)した。

2-2 広報物の作成

(1) 観光客向けチラシ

2-1 で検討した掲載情報にもとづき、観光客向けチラシを作成した。

観光客のみなさまへ!

南城市内乗合バスのご案内

「おでかけなんじい」 に乗って南城市 を満喫しちゃおう!!



南城市内乗合バス「おでかけなんじい」とは?

「おでかけなんじい」は、事前の電話予約に応じて、利用者が指定した南城市内の場所まで迎えに行き、南城市内の目的地までお送りする小型乗合バスです。南城市内での観光やイベント参加、買い物などにご利用ください。

※南城市を訪れる観光客のみなさまが対象です。
※移動は「南城市内」に限ります。

【予約方法】30分前までに電話にて予約(8時台の便は、前日予約が必要)
【運行時間】8時台～20時台(1時間 間隔便の計13便)
【利用料金】**300円**(お一人様1回のご利用につき)

ご利用方法

- 1 電話で予約
00ナンバーで
行きたいので
任意の時間に△△まで
迎えをお願ひします。
予約先
098-949-1235
- 2 予約場所へ乗車
おでかけなんじい
- 3 目的地へ移動
おでかけなんじい

お問合せ
予約先
098-949-1235

イチニサン コー! 予約受付中!! これからもよろしくなんじい

南城市の「なんじい」

平成26年12月10日(水)～
平成27年 3月31日(火)まで

実証運行期間

南城市までのアクセス

■ 路線バスをご利用の場合(朝晩バスターミナル発)	39	運賃(630円)
● エイデンホテル南城センター入口	41	運賃(630円)
● あびまサンビーチ(約55分)	38	運賃(760円)
● あびまサンビーチ(約60分)	38	運賃(810円)
● おきなわワールド文化王国 玉泉洞(約60分)	54	運賃(560円)
● おきなわワールド文化王国 玉泉洞前	83	運賃(560円)

南城市までのアクセス



お問合せ
予約先
098-949-1235

イチニサン コー! 予約受付中!! これからもよろしくなんじい

南城市の「なんじい」

平成26年12月10日(水)～
平成27年 3月31日(火)まで

実証運行期間

図 2-3.有償時の観光客向けのチラシ(おもて面)



図 2-4.有償時の観光客向けのチラシ(なか面)

(2)市民向けチラシ

2-1 で検討した掲載情報にもとづき、市民向けチラシを作成した。

南城市民のみなさまへ!

南城市内乗合バス

「おでかけなんじい」

変更のおしらせ




「利用料金」・「利用対象者」が変わります!

【利用料金】無償での実証運行は、平成26年12月8日をもって終了しました。
12月10日からは、**有償(300円、1人/1回の利用)**でのご案内になります。

【利用対象者】有償運行開始後は、1人で乗降できる方であれば**年齢に関係なく**
ご利用できます。(未就学児のみでの乗車は出来ません)

12/8	12/10	3/31
無償運行	運休	有償運行(300円)
65歳以上のご利用	移行期間	年齢制限なし

ご利用は
事前登録が
必要なん!!



【運行時間】8時台～20時台(1時間間隔便の計13便)
【予約方法】30分前までに電話にて予約してください
※8時台の便は、前日予約が必要です

南城市内乗合バス「おでかけなんじい」とは?

市内の乗合バス「おでかけなんじい」が、実証運行中です!!
事前の電話予約に応じて、利用者の自宅まで乗合小型バスが
迎えに行き、目的地までお送りします(市内に限る)。買い物、外食、
イベントなどにご利用ください。(※貸切ではなく乗り合いです)

無償実証運行期限▶平成26年12月8日(月)まで《運行終了しました》

有償実証運行期間▶平成26年12月10日(水)～平成27年3月31日(火)まで

お問合せ
お申込み

098-949-1235

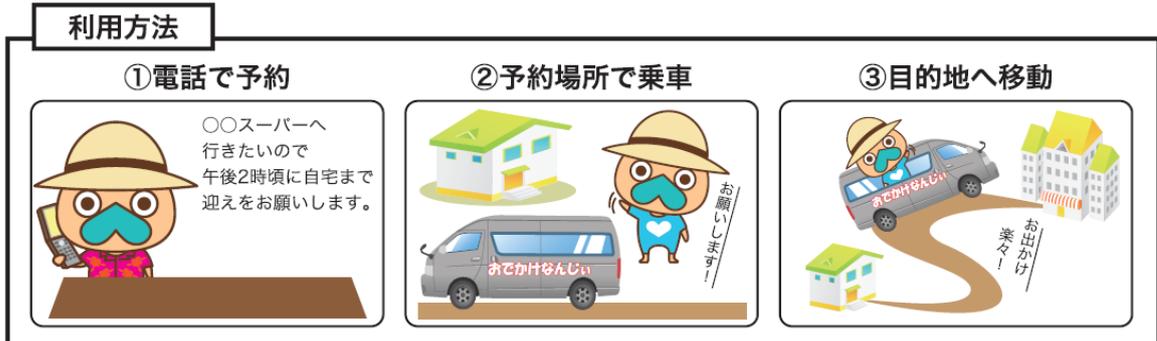
(受付時間) 午前8時～午後9時 年末年始(12月31日～1月3日)を除く毎日

おでかけなんじい受付センター (公益社団法人南城市シルバー人材センター内)

図 2-5.有償時の市民向けのチラシ(おもて面)

「おでかけなんじい」有償実証運行期間 平成26年12月10日～平成27年3月31日

有償でのご利用に変わります（300円 / 回） 年齢に関係なくご利用できます！！



【予約方法】事前に電話にて予約が必要です（乗車予定の30分前までに）
※未就学児のみの予約および乗車はできません

【利用料金】1人300円 / 1回のご利用

【支払方法】乗車時に、現金にて支払い

利用にあたっては、事前登録が必要です

※南城市への観光客は登録不要です

【登録対象】南城市にお住まいの方で一人で乗降できる方

【申込場所】（南城市シルバー人材センター・政策調整課〔玉城庁舎〕・

南城市役所市民課窓口〔玉城庁舎・大里庁舎・佐敷出張所・知念出張所〕



住所	南城市			
電話番号	() -			
利用者 ①	氏名(ふりがな)	生年月日	携帯電話	よく行く場所
	()	西暦(年) 月 日(歳)	- -	
利用者 ②	氏名(ふりがな)	生年月日	携帯電話	よく行く場所
	()	西暦(年) 月 日(歳)	- -	

南城市内乗合バス「おでかけなんじい」実証運行について

平成25年12月より65歳以上の方を対象に実証実験を行っていましたが、このたび、年齢に関係なく利用できるようになりました。小型バスが自宅まで迎えに行き、市内の目的地までお送りする「デマンドバス」と呼ばれる交通サービスを運行しております。

「おでかけなんじい」でこれまで以上に買い物や外出を楽しんでいただき、「南城市がチャームポイントで日本一元気なまち」になれるようめざしていきます。

図 2-6.有償時の市民向けのチラシ(うら面)

第3章 調査の実施

1 無償実験の調査の実施

- 平成 26 年度の無償実験では、これまであまり取得できていない観光客に重点を置いた調査を実施した。
- 具体的には、「おでかけなんじい」及び「観光おまかせなんじい」利用者への車内での「利用者アンケート調査」と、観光関連施設を対象とした「ヒアリング調査」により把握した。

表 3-1.各種調査の実施スケジュール

区分	H25 無償実験 (H25.12～H26.3)	H26 無償実験 (H26.4～H26.12)	H26 有償実験 (H26.12～H27.3)
利用者アンケート(市民)	随時実施	随時実施	平成 27 年度 実施予定
利用者アンケート(観光客)	随時実施	随時実施	平成 27 年度 実施予定
登録者アンケート	H26.3 実施	—	H27.2～3 実施
ヒアリング調査	H25.3 実施 (医療機関・スーパー等)	H26.9～10 実施 (主に観光関係施設)	平成 27 年度 実施予定

1-1 利用者アンケート(市民)の実施

(1)調査計画の検討

- 「おでかけなんじい」の利用状況を把握するため、車内にて利用者を対象としたアンケート調査を行った。(調査はデマンドを運行している南城市シルバー人材センターが実施)
- 利用目的、満足度等は、平成25年度の調査で傾向が把握できていることから削除し、デマンド導入後の変化についての質問を追加した。

表 3-2.利用者アンケート(市民)の概要

項目	内容
調査対象	「おでかけなんじい」利用者
調査実施時期	平成26年9月
調査方法	車内で留め置き配布(配布回収は南城市シルバー人材センターが実施)
把握項目	<ul style="list-style-type: none"> ●属性(性別・年齢・居住地) ●デマンド導入後の変化 ●自由意見 等

表 3-3.利用者アンケート(市民)の調査項目

質問	H25 無償実験 (H25.12～ H26.3)	H26 無償実験 (H26.4～ H26.12)
属性(性別、年齢、居住地域、運転免許の有無)	—	冒頭に質問
普段、よく面倒みてくれる方、同居の有無、クルマ所有の有無	—	問1
「おでかけなんじい」利用の目的	問1	—
利用の目的地、南城市外の場合は降車場所、降車場所からの移動手段も記入	問2	—
「おでかけなんじい」がなかった場合の外出の有無と、外出した場合の移動手段	問3	—
「おでかけなんじい」利用の満足度	問4	—
改善して欲しい点	問5	—
「おでかけなんじい」の必要性、必要な場合は利用頻度の意向	問6	—
「おでかけなんじい」に支払ってもよい運賃	問7	—
有償時にあるとよいサービス	—	問2
平成25年12月以降の外出回数の変化	—	問3
デマンド導入後の変化	—	問4
自由意見	問8	問5

南城市にお住まいの方へ

★★ アンケートにご協力ください ★★

はじめに、あなたご自身について教えてください

性別（男・女）

年齢（64歳以下・65～69歳・70～74歳・75歳以上）

お住まいの地域（大里・玉城・佐敷・知念）

運転免許（持っている・持っていたが返納した・持っていない）

お名前

問 1. 普段、よく面倒をみてくれる方と同居の有無、クルマの保有状況について教えてください(それぞれに○)

【よく面倒をみてくれる方】

- 1.親 2.配偶者 3.兄弟 4.息子 5.娘 6.義理の息子 7.義理の娘
7.孫 8.特にいない 9. その他(友人など)

【普段よく面倒をみてくれる方と一緒に住んでいますか？】

（住んでいる・住んでいない・近所に住んでいる）

【普段よく面倒をみてくれる方はクルマを持っていますか？】

（持っている・持っていない）

問 2. 有料時に、どのようなサービスがあると、デマンドバスを利用しやすくなると思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 1.デマンドバスの回数券や定期券の発行
2.デマンドバスでの来店によるスーパーの割引サービス
3.デマンドバス利用による飲食店の割引サービス
4.デマンドバス利用によるその他施設利用の割引サービス
5.その他の内容()

裏面にお進みください

(2)調査結果の集計

1)属性

①性別・年齢

- 利用者アンケート(市民)回答者の性別は、女性の比率が85%と高くなっている。
- 年代は「75歳以上」が44%と最も多く、次いで「70～74歳」27%と70歳以上の方が71%を占めている。

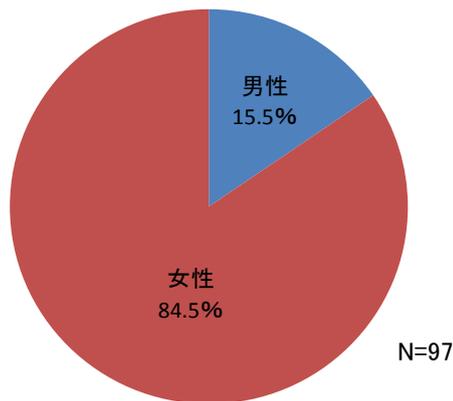


図 3-1.回答者の性別(市民)

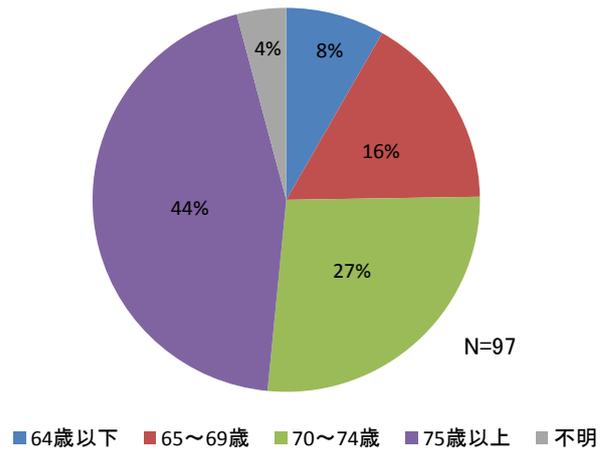


図 3-2.回答者の年代(市民)

②居住地

- 利用者アンケート(市民)回答者の居住地は、「知念」28%、「佐敷」が27%、「玉城」26%、「大里」13%の順に多くなっている。

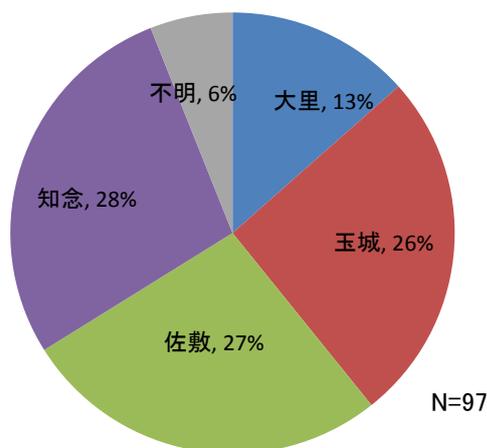


図 3-3.回答者の居住地(市民)

③運転免許の保有状況

●利用者アンケート(市民)回答者の運転免許の保有状況をみると、「持っている」が13%、「持っていたが返納した」の7%をあわせても、免許を保有したことがある方は20%であり、多くの方が免許を保有したことがない状況となっている。

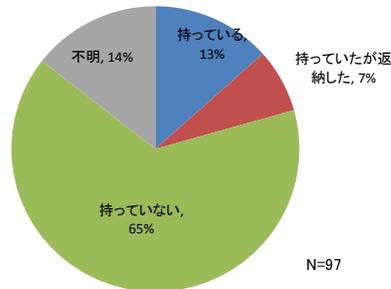
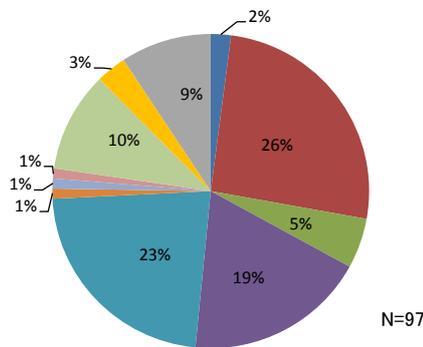


図 3-4. 回答者の運転免許の保有状況(市民)

④普段面倒を見てくれる方

●普段よく面倒を見てくれる方の内訳は、「配偶者」が26%と最も多く、次いで「娘」23%、「息子」19%の順に多くなっている。
 ●普段よく面倒を見てくれる方の67%はクルマを所有している。
 ●普段よく面倒を見てくれる方との同居率は、平均で51%であり、「義理の息子」、「義理の娘」、「孫」は100%、「配偶者」は80%と同居率が高くなっている。



■親 ■配偶者 ■兄弟 ■息子 ■娘 ■義理の息子
 ■義理の娘 ■孫 ■特にないない ■その他 ■不明

図 3-5. 普段よく面倒を見てくれる方

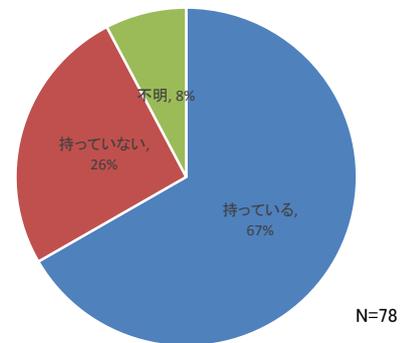


図 3-6. 普段よく面倒を見てくれる方のクルマの所有状況

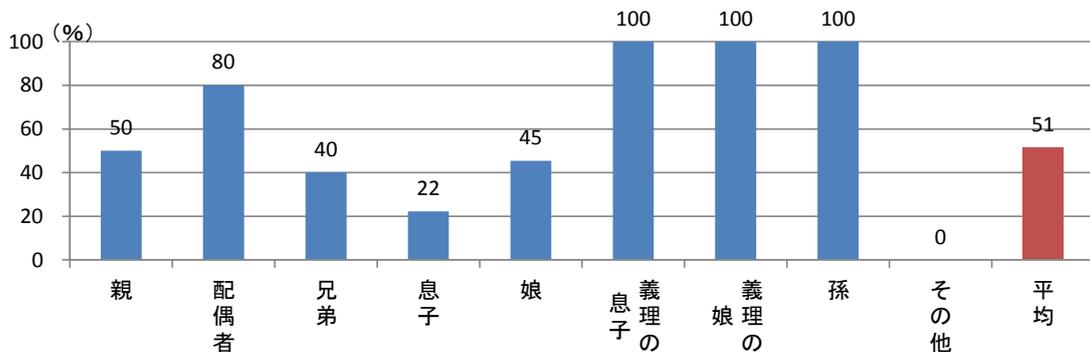


図 3-7. 普段よく面倒を見てくれる方との同居の有無

2) デマンド導入後の変化

① 外出機会の変化

- デマンド導入後の外出回数は、増加したと回答した方が60%を占めており、デマンド交通による外出促進効果がうかがえる。
- 外出機会の変化があった方の外出頻度の変化をみると、導入前の6.5回/月に対し、導入後は14.1回/月へと2.2倍に増加している。
- 男女とも、デマンド導入で外出機会が増えた方は6割と同じであるが、導入後の外出頻度は女性が14.8回/月と多くなっている。
- 年代別では、年代が高くなるほど外出頻度が高くなる傾向があり、導入後の70歳以上の方の外出頻度は11回/月を超えている。

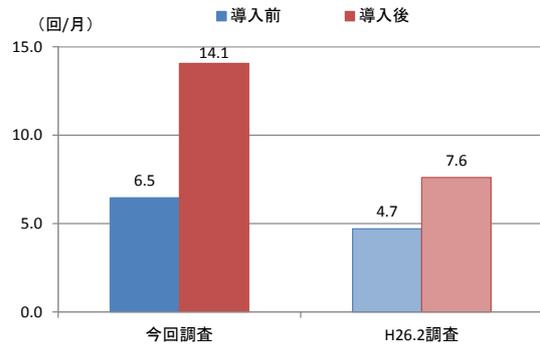
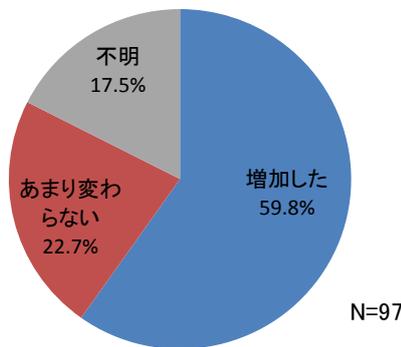


図 3-8. デマンド導入後の外出機会の変化の有無と外出頻度

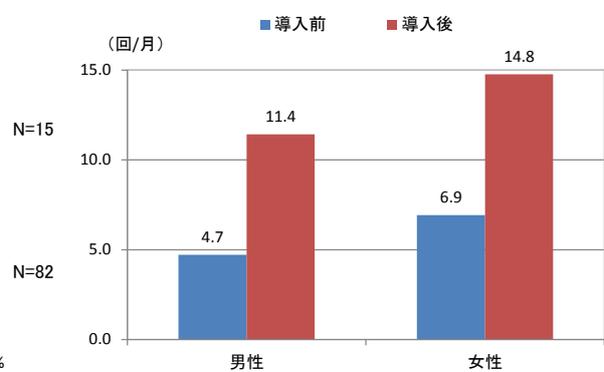
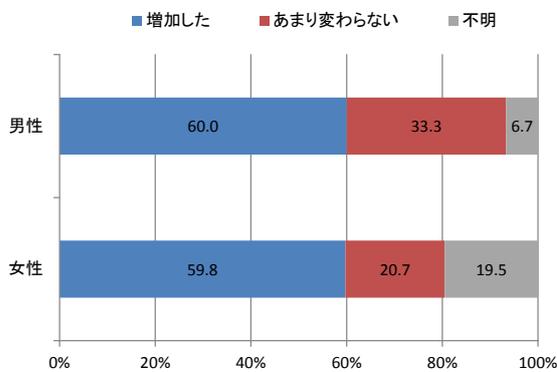


図 3-9. 男女別のデマンド導入後の外出機会の変化の有無と外出回数

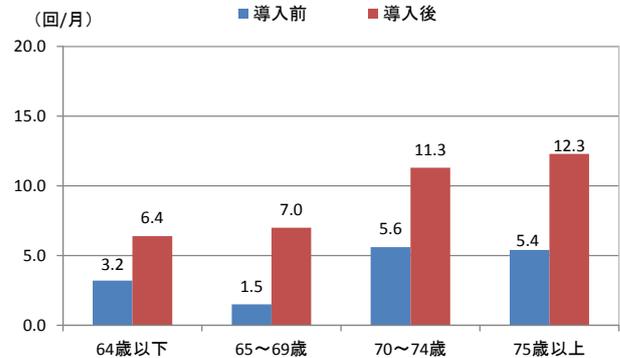
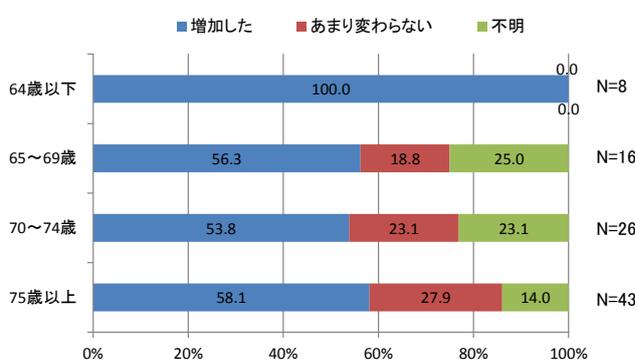


図 3-10. 年代別のデマンド導入後の外出機会の変化の有無と外出回数

●普段よく面倒見てくれる方との同居の有無別では、同居、別居ともデマンド導入前後で外出頻度が2倍に増加している。

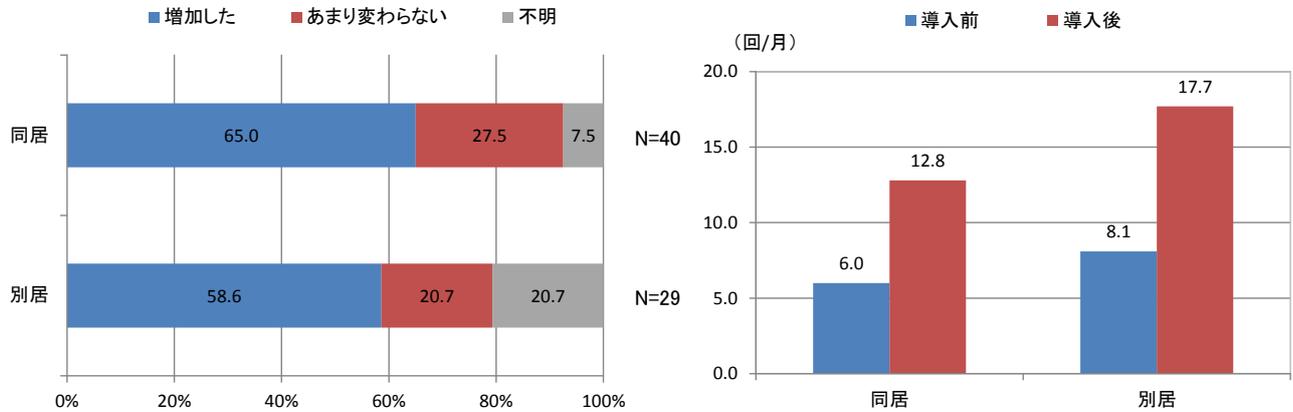


図 3-11. 普段よく面倒を見てくれる方との同居の有無別の外出機会の変化と外出回数

②日常生活における変化

●デマンド導入後の日常生活の変化をみると、「送迎なしで家族などに気をつかわなくてすむ」が58%と最も多く、次いで「南城市内で買い物をする機会が増えた」53%、「早めに病院でみてもらう機会が増えた」43%、「友人・知人と話す機会が増えた」39%の順で多くなっている。

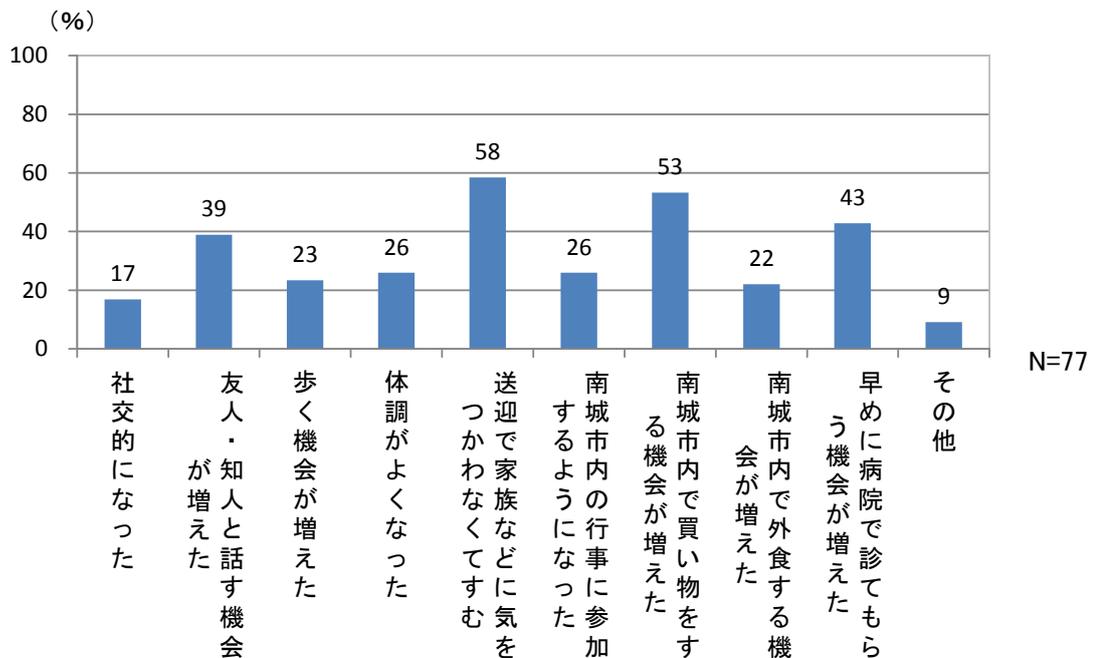


図 3-12. デマンド導入後の日常生活での変化(複数回答)

- 年代別では、「64 歳以下」、「75 歳以上」で「送迎で家族などに気をつかわなくてすむ」が 56～75%と半数以上の方が変化を感じている。
- また、年代が高くなるにつれ「友人・知人と話す機会が増えた」、「体調がよくなった」、「早めに病院でみてもらう機会が増えた」と回答する方が多くなっている。
- 普段よく面倒をみてくれる方との同居の有無別では、同居している方は「送迎で家族に気を使わなくてすむ」、「社会的になった」、「南城市内の行事に参加する機会が増えた」という方が別居の方より多くなっており、外出に気を使わずにすむことで、外出機会が増えていることがうかがえる。

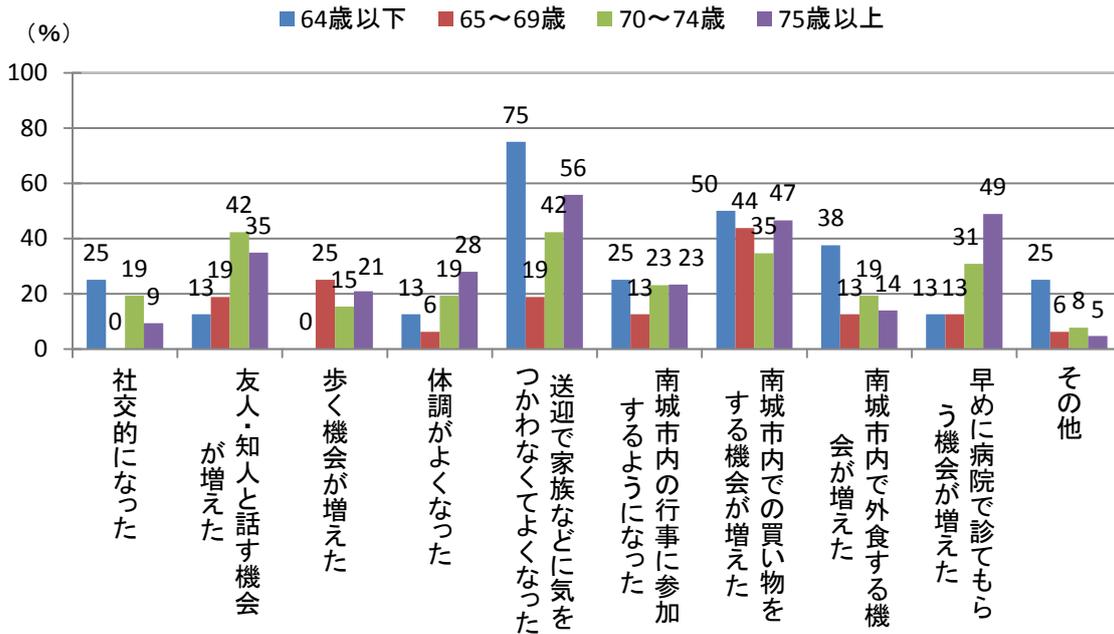


図 3-13.年代別のデマンド導入後の日常生活での変化(複数回答)

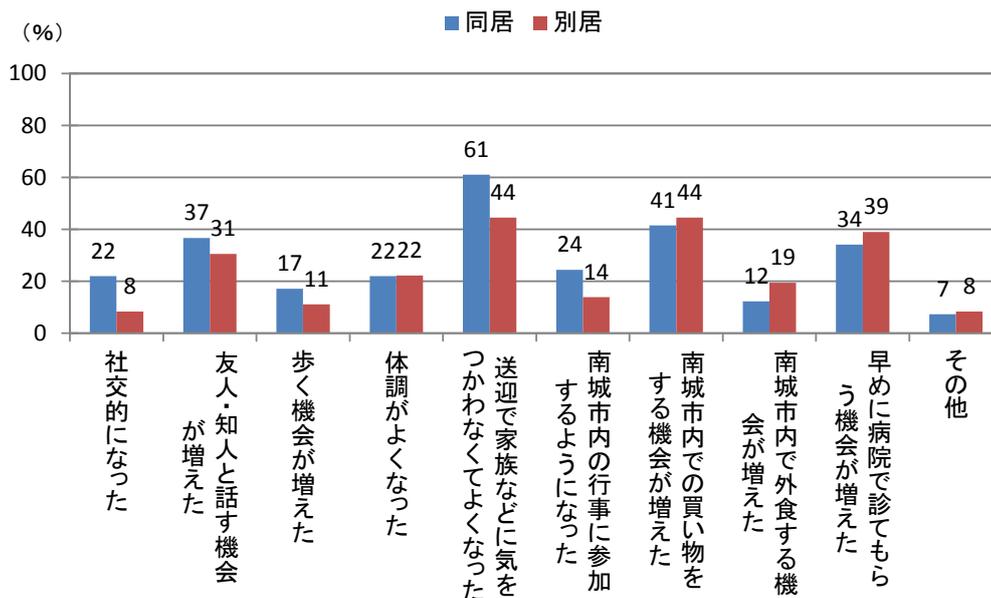


図 3-14.普段よく面倒をみてくれる方との同居の有無別の日常生活での変化(複数回答)

3)有償実験時に望まれるサービス

- 有償実験時に望まれるサービスは、「デマンドバスの回数券や定期券の発行」が80%と多くなっている。
- 自由回答では、割引サービスや、運行間隔の短縮などの要望があげられている。

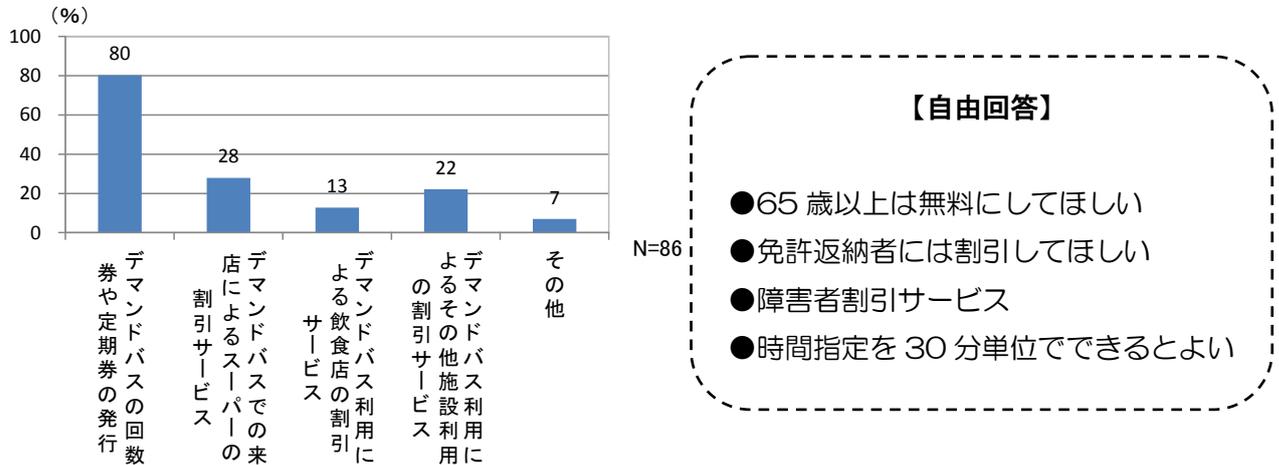


図 3-15.有償実験時に望まれるサービス(複数回答)

4)デマンド交通への感想・要望等

- デマンド交通への感想として「助かりました」、「継続してほしい」などの意見が寄せられている。

- 【自由回答】**

 - 助かりました (5)
 - 継続してほしい (5)
 - 今後も利用したい
 - 路線バスの本数が少ないので便利になった
 - 有償後は路線バスの運賃と比較して利用する
 - 通院で助かっている
 - 仕事で利用している
 - 入院中の夫の食事の世話に利用しており助かっている
 - 免許証を返納したお年寄りも多いので、これからますます大事になると思う
 - バス代くらいは払いたい

1-2 利用者アンケート(観光客)の実施

(1)調査計画の検討

- 観光客の「観光おまかせなんじい」、「おでかけなんじい」の利用状況や、南城市観光の実態を継続的に把握するため、車内にてアンケート調査を行った。
- 南城市までの交通手段、観光の満足度、立ち寄り先等は、これまでの調査で傾向が把握できていることから削除し、有償時、本格運行時の広報活動の参考にするため、情報収集状況の他、有償時利用の有無等の質問を追加した。

表 3-4.利用者アンケート(観光客)の概要

項目	内容
調査対象	「観光おまかせなんじい」、「おでかけなんじい」の利用者
調査実施時期	平成 26 年 9 月
調査方法	車内で留め置き配布（配布回収は南城市シルバー人材センターが実施）
把握項目	<ul style="list-style-type: none"> ●居住地 ●南城市の来訪状況（来訪回数、来訪目的、滞在日数、移動手段） ●デマンドバスがなかった場合の来訪状況 ●有償時の利用意向 ●自由回答 等

表 3-5.利用者アンケート(観光客)の調査項目

質問	H25 無償実験 (H25.12~H26.3)	H26 無償実験 (H26.4~H26.12)	備考
住所	問 1	問 1	
同行者数	—	問 2	
沖縄本島への来訪回数	問 2	—	
南城市への来訪回数	問 3	—	
南城市への来訪目的	問 4	—	
南城市での滞在日数と宿泊先	問 5	問 3	
南城市来訪時に参考にした情報媒体	—	問 4	
南城市来訪の検討時期	—	問 5	
南城市までの交通手段	問 6	—	
南城市内観光の満足度	問 7	—	
南城市再来訪意向	問 8	—	
「観光おまかせなんじい」、「おでかけなんじい」の認知媒体	問 9	問 6	
デマンドバスがなかった場合の南城市訪問の有無	問 10	—	
デマンドバス認知時の行程見直しの可能性	—	問 7	
デマンドバスの利用回数と訪問先	問 11	—	
デマンドバス利用の満足度	問 12	—	
有償時(300円)の利用の有無	—	問 8	
「観光おまかせなんじい」、「おでかけなんじい」の1回あたり、1日あたりの支払意思額	問 13	問 9	H26 調査は1日あたりのみ把握
自由回答	問 14	問 10	

問 5. 今回の旅行で、南城市への来訪を検討した時期をお聞かせください

1. 沖縄旅行を計画する時点で、すでに検討していた。
2. 沖縄滞在中に来訪を検討した
検討場所: 空港・ホテル・移動中・その他()
検討時: 南城市来訪 日前・当日)
3. その他()

以下の質問は、本日ご利用の「観光おまかせなんじい」、「おでかけなんじい」についてうかがいます。

問 6. 「観光おまかせなんじい」「おでかけなんじい」を何で知りましたか

1. 南城市・観光協会等のHP
2. 観光施設のチラシ・ポスター
3. 宿泊先のチラシ・ポスター
4. 友人・知人等のクチコミ
5. その他()

問 7. 南城市に来訪する前に「観光おまかせなんじい」「おでかけなんじい」を知っていたら、観光の行程を見直していましたか。

1. 南城市来訪前に知っていた。
2. 特に変更や見直しはしなかったと思う。
3. 少し南城市での立ち寄りを増やしたと思う。
(追加したかった寄り先:)
4. 大幅に南城市での立ち寄りを増やしたと思う。
(追加したかった寄り先:)

問 8. もし1人1回につき300円の運賃がかかれば、利用していましたか。

1. 利用していたと思う
2. 利用しなかったと思う

問 9. もし「観光おまかせなんじい」、「おでかけなんじい」の両方を利用できる一日乗車券(フリーパス)があれば、いくらまでなら利用しますか。

一日乗車券 円までなら利用する

問 10. 最後に、感想や要望等ありましたらお聞かせください。

()



(2)調査結果の集計

1)属性

①居住地

●「観光おまかせなんじい」の利用者の居住地をみてみると、平成25年度の無償実験(冬期)では、98%を県外居住者が占め、県内居住者は2%にすぎなかったが、平成26年度の無償実験(夏期)では県内居住者の割合が22%と大幅に増加している。

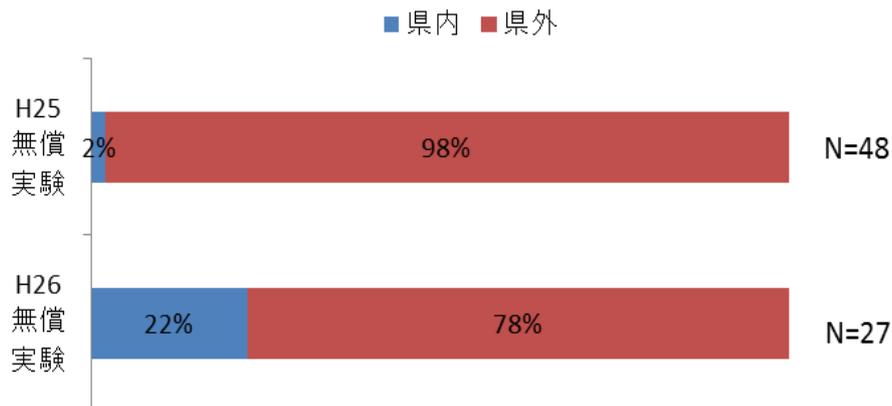


図 3-16.回答者の居住地(観光客)

②同行者数

- 観光客の同行者数は、「2人」が45%と半数近くを占め、「1人」の22%とあわせると約7割の方は2人以下と少ない人数での乗車が多くなっている。
- 全体的には少人数での乗車が多くなっているが、一方で、「6人」以上のグループも2割を占めている。
- 同行者の内訳をみてみると、「友人」が67%と最も多くなっている。

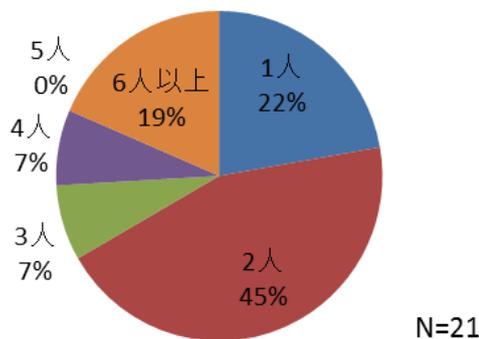


図 3-17.観光客の同行者数

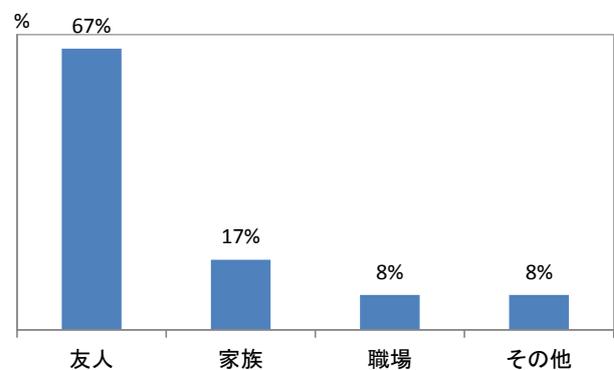


図 3-18.観光客の同行者の内訳

2)南城市来訪状況

①今回の宿泊日数と南城市の滞在日数

- 観光客の南城市の滞在日数は、県内居住者の利用が多くなったこともあり、「日帰り」の割合がH25の実証実験の36%に対し、52%と大幅に増加している。
- H25の無償実験では、「市内」での宿泊が42%を占めていたが、H26の無償実験では30%に減少している。

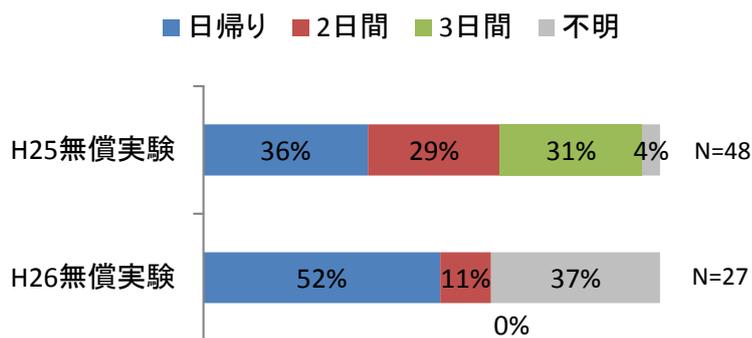


図 3-19.観光客の南城市滞在日数

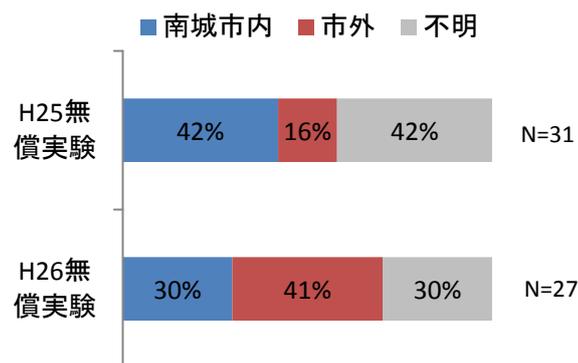


図 3-20.観光客の宿泊先

②南城市観光の際の情報源

- 南城市観光の際に参考にした情報源としては、「観光・旅行雑誌」が41%と最も多く、その他では「家族・知人等のクチコミ」22%、「観光施設のHP」「観光案内所のチラシ・スタッフ等」が19%と多くなっている。

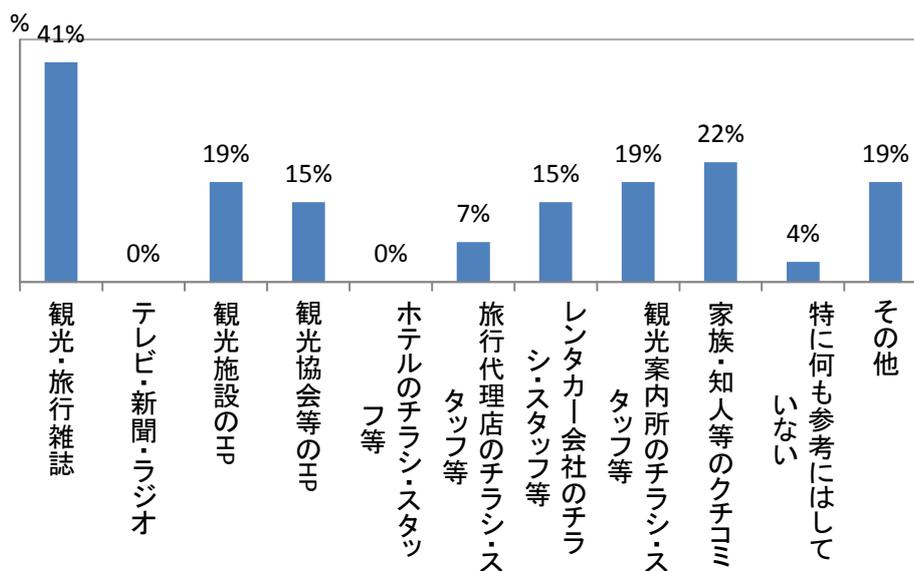


図 3-21.南城市観光の際の情報源(複数回答)

③南城市訪問の検討時期

●南城市訪問を検討した時期は、「沖縄旅行計画時点」が67%と7割近くを占めており、多くの方が沖縄来訪前に南城市への来訪を検討していることがわかる。

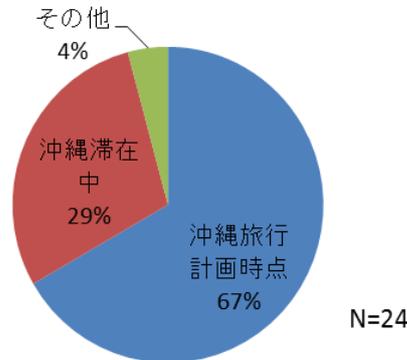


図 3-22.南城市来訪の検討時期

3)デマンド交通について

①デマンド交通の認知媒体

●「観光おまかせなんじい」及び「おでかけなんじい」の認知媒体としては、H25 無償実験、H26 無償実験ともに「観光施設のチラシ・ポスター」が最も多く、H26 無償実験では37%の方が参考に使っている。

●H25 無償実験と比べると、H26 無償実験では「南城市・観光協会等のHP」、「宿泊先のチラシ・ポスター」、「友人・知人等のクチコミ」とも増加している。

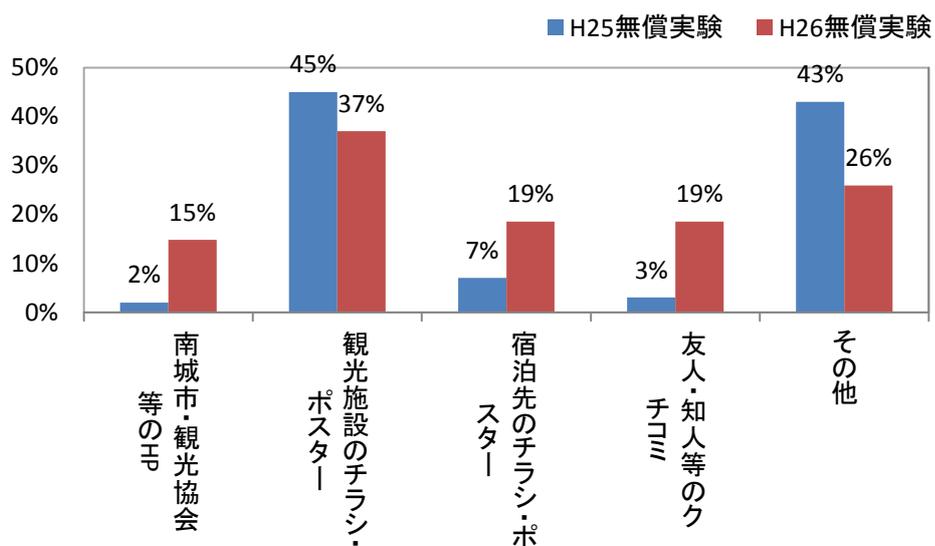


図 3-23.デマンド交通の認知媒体(複数回答)

②南城市来訪前のデマンド認知時の行程見直しの可能性

- 南城市来訪前にデマンド交通を知っていた場合の行程見直しの可能性について、31%の方は「少し南城市での立ち寄りを増やしたと思う」、23%の方は「大幅に南城市での立ち寄りを増やしたと思う」と回答しており、あわせて54%の方は来訪前にデマンドバスを認知することで、南城市内での立ち寄りが増えた可能性があることを示唆している。
- 具体的に追加で立ち寄りたかった場所としては、5人の方が「ビーチ」、3人の方が「玉泉洞」と回答している。
- なお、19%の方は「南城市来訪前に知っていた」と回答している。

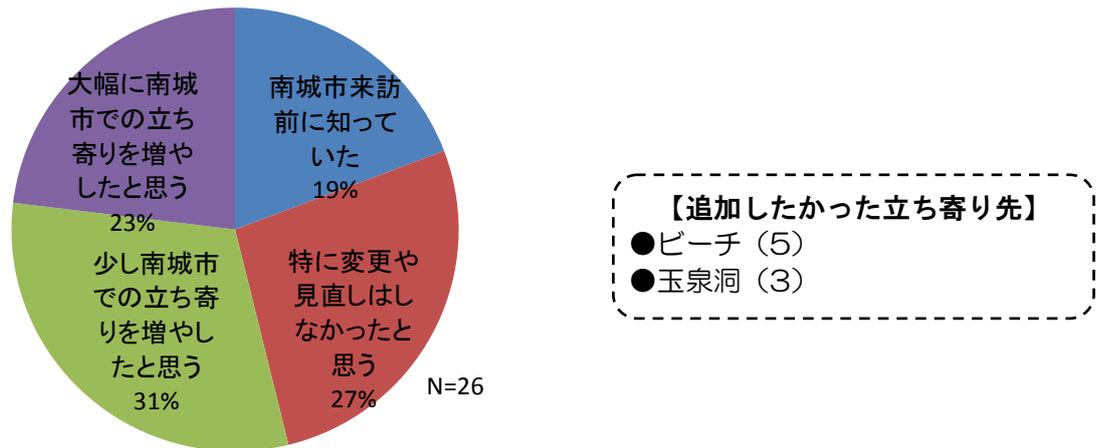


図 3-24.南城市来訪前のデマンド認知時の行程見直しの可能性

4)有償時の意向

①有償だった場合の利用の有無

- もし、デマンド交通が1人1回につき300円の運賃がかかっていれば、利用しましたかという問に対し、92%の方は「利用していたと思う」と回答しており、有償時においても観光客は高い利用意向があることが確認された。

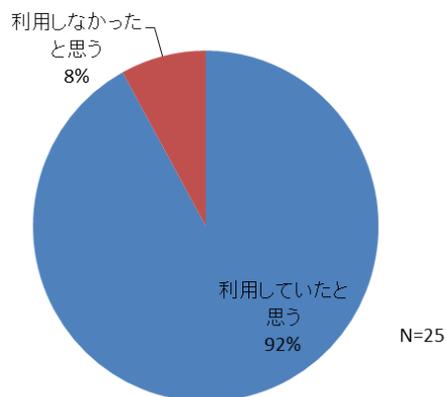


図 3-25.運賃 300 円時の利用意向

②1 日乗車券に支払ってもよい運賃

- デマンド交通の1日乗車券に支払ってもよい運賃は、H26無償実験では「1,000円以下」が73%と最も多くなっている。
- H25無償実験に比べると「1,000円以下」の割合が48%から73%へと25%増加している。

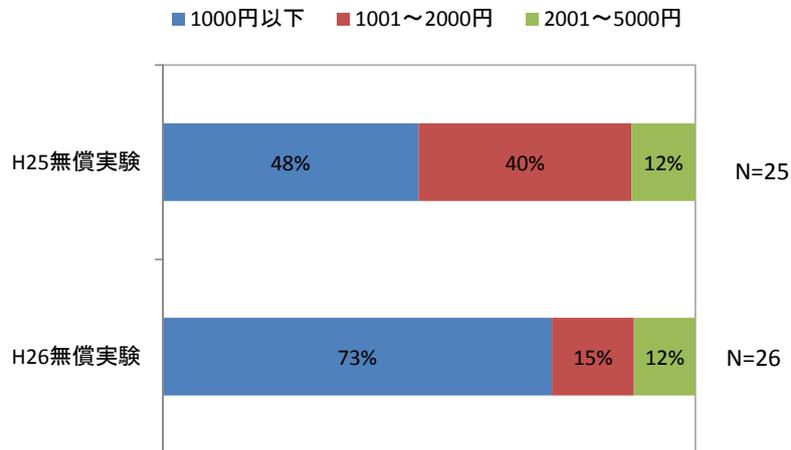


図 3-26.1 日乗車券に支払ってもよい運賃

5) デマンド交通への意見・要望等

- 自由意見では「移動手段がないのでとても助かった」、「無料でとてもありがたい」といった意見が多く寄せられた。

【自由回答】

- 移動手段がないのでとても助かった (3)
- 無料でとてもありがたい (3)
- 那覇市までの乗り換え案内もしてくれ助かった
- これからも続けてほしい
- とても便利なので、観光客にPRすればもっと利用すると思う
- 30分単位で予約できるので助かる

1-3 主要施設ヒアリングの実施

(1) 調査計画の検討

- 「観光おまかせなんじい」、「おでかけなんじい」導入による観光面での効果を把握するため、観光関係施設を対象としたヒアリング調査を実施した。
- 調査対象は、H25 無償実験時の観光客の立ち寄り状況を参考に設定した。
- 調査では、観光客のデマンドの認知度や、利用者の声、施設からみたメリットなどを把握した。

表 3-6.主要施設ヒアリング調査の概要

項目	内容
調査対象	南城市内の主な観光関連施設 【観光施設】 ●がんじゅう駅南城・地域物産館 ●おきなわワールド文化王国・玉泉洞 ●カフェくるくま 【宿泊施設】 ●ユインチホテル南城 ●民宿海坐 【スーパー】 ●アトール大里 ●イオンタウン南城
調査実施時期	平成 26 年 10 月
調査方法	調査員による聞き取り調査
把握項目	●南城市を訪れる観光客の回遊パターン、南城市までの交通手段 ●観光客から寄せられる南城市の交通に関する要望 ●観光客のデマンドバスの認知状況 ●デマンドバス導入後の変化（施設利用者数の増加、曜日・時間帯別の来訪者数の変化 等） ●デマンドバス利用の観光客の声 ●デマンドバス導入による施設側のメリット ●デマンドバスとの連携の可能性 等

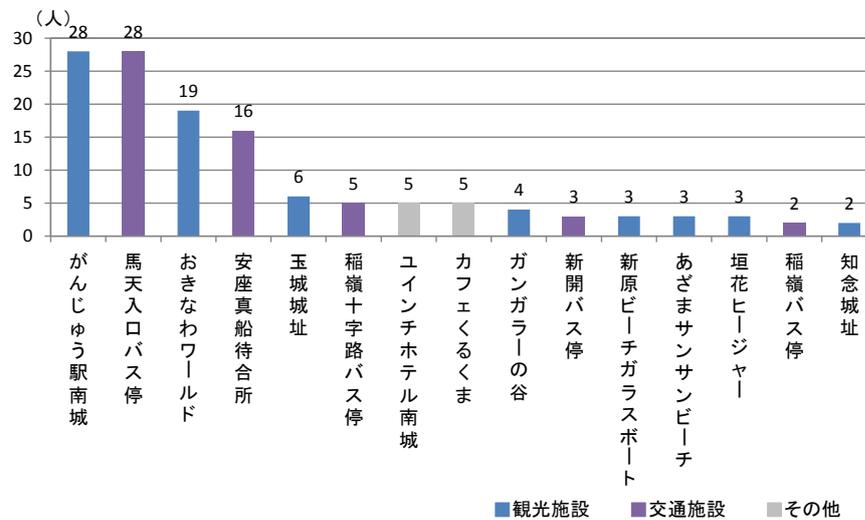


図 3-27.観光客の主な立ち寄り先(H25 無償実験)

表 3-7.主要施設ヒアリングの把握項目

区分	質問	設問対象		
		観光施設	宿泊施設	スーパー
問 A	観光客の南城市回遊状況	問 1	問 1	—
問 B	観光客のアクセス手段	問 2	問 2	—
問 C	観光客から寄せられる交通への要望	問 3	問 3	—
問 D	施設のピーク、オフピークの来訪状況	問 4	問 4	—
問 E	予約時期	—	問 5	—
問 F-1	チェックイン・アウトの時間帯	—	問 6	—
問 F-2	利用者が多い時間帯	—	問 7	—
問 G	観光客のデマンド認知度	問 5	問 8	—
問 H-1	デマンド導入後の施設利用者の変化	問 6	問 9	—
問 H-2	デマンド導入後の店舗利用者の変化	—	—	問 1
問 I	デマンド利用の観光客の感想・要望	問 7	問 10	問 2
問 J	デマンド導入の施設のメリット	問 8	問 11	問 3
問 K	有償運行時に予想される影響	—	—	問 4
問 L	本格運行時の連携意向	問 9	問 12	問 5
問 M	本格運行時の運賃負担の可能性	—	—	問 6
問 N	自由意見	問 10	問 13	問 7

デマンドバス利用に関するヒアリング調査

はじめに、南城市を訪れる観光客についてうかがいます。

問 A.南城市（貴施設）を訪れる観光客の南城市内での主な立ち寄り先や、回遊パターンを教えてください。

例：斎場御嶽からおきなわワールドや、ニライ・カナイ橋に行く方が多い。

問 B.貴施設を訪れる観光客の南城市までの交通手段のおおよその割合を教えてください。

レンタカー	<input type="text"/>	%	マイカー	<input type="text"/>	%	観光バス	<input type="text"/>	%
路線バス	<input type="text"/>	%	その他二輪車等	<input type="text"/>	%	計 100%		

問 C.南城市内の交通や、市外への交通について観光客から寄せられる要望などがありましたら、教えてください。

問 D.貴施設の利用者数のピークの時期とオフピークの時期、及びそれぞれの時期利用状況について教えてください。

例：ピークは、7-9月、GW、オフピークは1-2月。ピーク時は、オフピーク時の2倍の利用がある。ピーク時は夕方以降でもお客様が多い。

問 E.ピークとオフピークで、それぞれどのくらい前くらいから予約が入りますか。※宿泊施設のみ

例：ピーク時は、早い方で半年ぐらい前から入り、1ヶ月前ぐらいでほぼ予約が固まる。オフピーク時は、2-3週間前の予約が多い。

問F-1.どの時間帯にチェックイン、チェックアウトされる方が多いですか。また、一泊のみと連泊される方では、チェックイン、チェックアウトされる時間に違いは見られますか。

問F-2.どの時間帯に貴施設を利用される方が多いですか。平日・休日や季節、イベント時などで特徴がありましたら、あわせてお教えてください。

つづいて、現在、無償実験として運行している「観光おまかせなんじい」、「おでかけなんじい」についてうかがいます。

問G.観光客の「観光おまかせなんじい」、「おでかけなんじい」の認知状況について教えてください。

1. ほとんどの方が知らない 2. 一部の方が知っている 3. 多くの方が知っている。

【観光客の認知状況についてお気づきの点】

問H-1.「観光おまかせなんじい」、「おでかけなんじい」の導入後、貴施設の利用者数や利用状況に変化はありましたか。

- ① 平日の利用（GW、夏休み期間中を除く）

1.とても増えた（3割以上） 2.やや増えた（1～2割） 3.変わらない

変化が大きい時間帯・・・（ ）時頃 ～（ ）時頃

【お気づきの点】

② 休日の利用（GW、夏休み期間中を除く）

1.とても増えた（3割以上） 2.やや増えた（1～2割） 3.変わらない

変化が大きい時間帯・・・（ ）時頃 ～（ ）時頃

【お気づきの点】

③ GW・夏休み期間中の利用

1.とても増えた（3割以上） 2.やや増えた（1～2割） 3.変わらない

変化が大きい時間帯・・・（ ）時頃 ～（ ）時頃

【お気づきの点】

問H-2.「観光おまかせなんじい」（平成25年12月9日～平成26年9月30日まで）、「おでかけなんじい」（平成25年12月9日～）が、運行されていますが、来店するお客様について何か変化はありましたか。

- 1. グループでの来店が多くなった 2. まとめ買いをする方が多くなった
- 3. 遠方からのお客様が多くなった 4. リピーターが増えた
- 5. 特に変化はみられない

問I.「観光おまかせなんじい」、「おでかけなんじい」ご利用の観光客から利用しての感想や要望の他、お問い合わせ等がありましたら、教えてください。

問J. 貴施設からみて「観光おまかせなんじい」、「おでかけなんじい」が導入されたことで、メリットはありましたか。

1. とてもメリットがあった 2. ややメリットがあった 3. あまりメリットはなかった

【具体的な内容】

問K. 平成26年12月中旬より、「おでかけなんじい」が、無償運行から有償運行になる予定です（「観光おまかせなんじい」は、運行終了）。有償運行になることで、来店者や売上など貴店舗への影響はあると思いますか。

【具体的な内容】 例) 来店者は減少するが、まとめ買いは増える可能性がある など

問L. 「観光おまかせなんじい」、「おでかけなんじい」が本格運行となった場合、貴施設では利用者への割引サービスの提供など連携した取組を行う可能性はありますか。

- ① 貴施設のHPでの「観光おまかせなんじい」などのPR、貴施設での「観光おまかせなんじい」等のポスター掲示、チラシ配布

1. 可能性はあると思う 2. 可能性はないと思う 3. どちらともいえない

【連携のための条件等】

② 貴施設内での「観光おまかせなんじい」の乗降スペースの確保

1.可能性はあると思う 2.可能性はないと思う 3.どちらともいえない

【連携のための条件等】

③ 「観光おまかせなんじい」などの利用者への割引サービスの付与

1.可能性はあると思う 2.可能性はないと思う 3.どちらともいえない

【連携のための条件等】

④ 「観光おまかせなんじい」等の1日乗車券と貴施設での買い物券などがセットとなったチケットの販売

1.可能性はあると思う 2.可能性はないと思う 3.どちらともいえない

【連携のための条件等】

⑤ 「観光おまかせなんじい」などの車内・車外や、観光マップなどへの貴施設の広告掲載

1.可能性はあると思う 2.可能性はないと思う 3.どちらともいえない

【連携のための条件等】

- ⑥ 「観光おまかせなんじい」などへの運行費用の一部負担（「観光おまかせなんじい」の利用者数に応じた負担や、毎月一定の負担金等）

1.可能性はあると思う 2.可能性はないと思う 3.どちらともいえない

【連携のための条件等】

問 M. どのような形態であれば、お客様のデマンドバスの運賃を負担する可能性があると思いますか。項目ごとに教えてください。

- ① 往復分の運賃（600 円）を負担する

1.可能性はあると思う 2.可能性はないと思う 3.どちらともいえない

【負担のための条件・内容等】

- ② 片道分の運賃（300 円）を負担する

1.可能性はあると思う 2.可能性はないと思う 3.どちらともいえない

【負担のための条件・内容等】

- ③ 一定額以上の買い物をしたお客様への、デマンドバスの乗車券やデマンドバスの割引券の進呈。

1.可能性はあると思う 2.可能性はないと思う 3.どちらともいえない

【負担のための条件・内容等】 例) 5,000 円以上購入したお客様に、片道分の乗車券進呈

④ その他

【負担のための条件・内容等】

問し、最後に「観光おまかせなんじい」及び「おでかけなんじい」について要望やお気づきの点等ありましたら、おきかせください。

== ご協力ありがとうございました ==

(2)調査結果の集計

主要施設ヒアリングの実施結果を以下に整理した。なお、個別施設毎のヒアリング結果は巻末の参考資料に添付している。

1)観光客の来訪・回遊状況

- 観光客の南城市内の回遊は、おきなわワールド、斎場御嶽、ニライ・カナイ橋などが多くなっている。
- 観光客の南城市までのアクセス手段は、レンタカー、マイカーでの来訪が多くなっている。
- 市内の主要観光地へのバスでのアクセス方法や、市外では空港へのアクセス方法の問い合わせが多くなっている。

表 3-8.観光客の来訪・回遊に関するヒアリング結果

把握項目	観光施設	宿泊施設
市内の回遊状況	<ul style="list-style-type: none"> ●おきなわワールド～斎場御嶽が多い（直行バスがない） ●ニライ・カナイ橋、知念城跡、斎場御嶽 	<ul style="list-style-type: none"> ●斎場御嶽、がんじゅう駅、久高島、おきなわワールド、ニライ・カナイ橋、知念岬公園、垣花樋川、玉城城跡、奥武島
アクセス手段	<ul style="list-style-type: none"> ●レンタカー75%、観光バス20% ●レンタカー50%、マイカー40% 	<ul style="list-style-type: none"> ●マイカー50%、レンタカー20%、観光バス20% ●レンタカー80%、路線バス20%
交通への要望	<ul style="list-style-type: none"> ●空港～おきなわワールドへのアクセスの問い合わせが多い ●バスでの空港、ニライ・カナイ橋、おきなわワールドへの行き方の問い合わせが多い 	<ul style="list-style-type: none"> ●空港～ホテルの交通手段の問い合わせが多い ●市外の読谷や美ら海水族館までのバスを聞かれることがある

2) 観光施設の利用状況

- ピークはGW、7～9月、オフピークは冬期や6月が多くなっている。
- 宿泊施設の予約は、ピークで半年～1年前が多くなっている。

表 3-9. 観光客の観光施設の利用状況に関するヒアリング結果

把握項目	観光施設	宿泊施設
ピーク・オフピーク	<ul style="list-style-type: none"> ●10～3月は団体客、7～9月はファミリー、若年層が多い ●オフピークは4～6月（GW除く） ●通年で大きな差はない 	<ul style="list-style-type: none"> ●ピークは7～9月（個人、ファミリー）、10～11月（修学旅行、団体）、オフピークは6月 ●ピークは7～9月、GW、オフピークは12～2月
予約時期	—	<ul style="list-style-type: none"> ●ピーク時は1年前から、オフピークはバラツキがある ●ピークは半年前から、1～2ヶ月前で満室になることもある ●オフピークは2～3ヶ月前が多い
利用時間帯	—	<ul style="list-style-type: none"> ●平日は18～19時、休日は15～18時のチェックインが多い ●チェックアウトは10～11時が多い ●一泊の方は15～16時、連泊の方は18時意向のチェックインが多い

3) デマンドによる変化

- 観光客にデマンドバスはほとんど知られていない状況となっている。
- 観光施設では利用者数の変化等のメリットはみられないが、スーパーではグループや遠方からの来店が増えた、客単価が増えたなどの変化、メリットがみられる。
- 一部の宿泊施設では、利用者数の増加や、送迎の手間が軽減されたなどのメリットがみられる。

表 3-10. デマンドによる変化に関するヒアリング結果

把握項目	観光施設	宿泊施設	スーパー
観光客の認知度	●ほとんどの観光客が知らない	●ほとんどの方が知らない	—
施設・店舗利用者の変化	●特に変化なし	●特に変化なし ●やや増えた(1~2割)、	●グループでの来店が多くなった ●遠方(知念・佐敷)からのお客様が増えた
利用者のデマンドバスへの感想	●事前にデマンドバスを知っていたかという方がいた	●「観光おまかせなんじい」が時間通りに運行していないことがあり、運行しているかという問い合わせがあった ●ドライバーが地元の方で親しみやすかったという方がいた ●30分単位の運行だと利用しやすい ●夕食で飲食店を利用するには最終便が早い。タクシーで帰る方も多い	●予約しているバスが店舗のどこかで待機しているかわからないことがある ●携帯電話を持っていない高齢者も多く、帰りの予約方法の問い合わせが多かった
施設へのメリット	●特になし	●たまにデマンドバスを利用して来るお客様をみた ●とてもメリットがあった(運転できない少人数のお客様はとても助かっている。施設としてもお客様の送迎の手間が軽減された)	●女性のグループでの来店がやや多くなった ●遠方からの新規のお客様が増え、ケース買いや家電製品等の大型商品の購入が増えるなど客単価が上昇した

4)本格運行に向けた施設の意向

- 観光施設、宿泊施設、スーパーともに本格運行時のデマンドバス利用者の割引サービスなど連携の可能性が確認された。
- 運賃の負担については、一部の観光施設は可能性があるとは回答しているが、宿泊施設、スーパーは可能性が低い。
- なお、連携にあたってはデマンドバス利用を確認出来る券などが必要という意見が寄せられている。
- 自由意見では、PR 不足、300 円の料金は高いといった意見が寄せられている。

表 3-11.本格運行に向けた施設の意向に関するヒアリング結果

把握項目	観光施設	宿泊施設	スーパー
有償運行時に予想される影響	—	—	●一時的にお客様が減少すると予想している
連携意向	<ul style="list-style-type: none"> ●市から依頼があれば広報の協力可能性はある ●「おでかけなんじい」利用が確認出来れば入場料割引の可能性はある ●すでに店内でデマンドバス案内をしている 	<ul style="list-style-type: none"> ●ホテル独自のプランのようにデマンドバス利用とセットの割引企画ができる可能性はある。デマンドバス利用がわかるものがあればよい ●デマンドバス利用の方はプレゼントの進呈などできると思う 	<ul style="list-style-type: none"> ●費用対効果でデマンドバス利用者への割引や、割引クーポンなどの可能性はある ●各テナントでポイント増量や値引きなどの特典付与の可能性はある
運賃負担の可能性	<ul style="list-style-type: none"> ●集客につながるのであれば運行費用の一部負担の可能性もある ●コストがかかるので検討が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●費用負担の可能性はない 	<ul style="list-style-type: none"> ●デマンドバス以外で来店する方との公平を保つため、費用負担は慎重に考える ●デマンドバス以外で来店する方もいるので可能性はない
自由意見	<ul style="list-style-type: none"> ●空港の案内所など南城市来訪前のPRがあるとよい。 ●観光客 1 回 300 円は負担ではないが、市民には負担だと思ふ ●南部の他市町村と連携して共同運行した方が利用者に便利 ●空港～南城市の運行があると集客につながる 	<ul style="list-style-type: none"> ●宣伝不足 ●携帯電話番号の確認などオペレータの対応を統一してほしい ●デマンドバスの現在地がわかると安心して待てる 	<ul style="list-style-type: none"> ●有償になっても、行きはデマンドバスで、帰りは店舗のバスで案内でき、メリットがあると思う。 ●有償化はよいが、300 円は高い気がする。 ●有償化の事前周知をしないとクレームがくる可能性がある ●12 月はお歳暮の時期になるので有償運行は早めに再開した方がよい

2 有償実験の調査の実施

- 平成 26 年度の有償実験では、有償化に伴う具体的な変化や、変化要因を把握するため、登録者アンケートを実施した。

表 3-12.各種調査の実施スケジュール(再掲)

区分	H25 無償実験 (H25.12~H26.3)	H26 無償実験 (H26.4~H26.12)	H26 有償実験 (H26.12~H27.3)
利用者アンケート(市民)	随時実施	随時実施	平成 27 年度 実施予定
利用者アンケート(観光客)	随時実施	随時実施	平成 27 年度 実施予定
登録者アンケート	H26.3 実施	—	H27.2~3 実施
ヒアリング調査	H25.3 実施 (医療機関・スーパー等)	H26.9~10 実施 (主に観光関係施設)	平成 27 年度 実施予定

2-1 登録者アンケートの調査計画の検討

- 無償実験から有償実験への切り替えに伴う、市民の「おでかけなんじい」の利用状況の変化や、その要因、有償実験の評価や要望等を把握するため、デマンドバスに登録している市民を対象としたアンケート調査を、郵送配布、回収で実施した。

表 3-13.登録者アンケートの概要

項目	内容
調査対象	デマンドバス登録者
調査実施時期	平成27年2月下旬～3月中旬
調査方法	郵送配布、郵送回収
配布回収	1706票配布、657票回収（回収率38.5%）
把握項目	<ul style="list-style-type: none"> ●属性（性別・年齢・住所・免許の有無等） ●無償時・有償時の利用状況 ●無償時からの変化 ●有償化の評価 ●要望 等

表 3-14.登録者アンケートの調査項目

問	設問	目的との対応						回答者			
		①	②	③	④	⑤	⑥	利用 なし	無償の み利用	有償の み利用	両方 利用
1	性別	●						●	●	●	●
2	年齢	●		●				●	●	●	●
3	住所	●						●	●	●	●
4	運転免許保有	●						●	●	●	●
5	面倒をみてくれる人との同居の有無等			●	●			●	●	●	●
6	登録理由	●						●	●	●	●
7	利用の有無	●						●	●	●	●
8	有償時に利用していない理由		●	●					●		
9	無償時に利用していない理由		●	●						●	
10	利用していない理由	●						●			
11	有償時の利用頻度	●									●
12	他の公共交通機関との乗り継ぎ	●				●					●
13	有償時の外出頻度の変化	●	●	●							●
14	市内(目的別)・市外での利用機会の 変化		●	●	●	●					●*
15	利用が減った理由		●	●	●						●*
16	おでかけなんじいの満足度	●					●			●	●
17	おでかけなんじいへの要望等	●					●			●	●
18	今後の利用意向	●					●	●	●	●	●
19	運賃に対する意向						●	●	●	●	●
20	利用しやすくするためのサービス						●	●	●	●	●
21	感想・意見						●	●	●	●	●

※条件により回答

目的①: 昨年度と同じ項目で無償実験と比較検証

目的②: 無償時と有償時の利用頻度の変化要因の把握

目的③: 年代別の利用状況の変化の比較分析

目的④: 有償時の移動手段の転換又は外出とりやめ状況の把握

目的⑤: 公共交通との乗り継ぎ状況の変化の把握

目的⑥: 実験計画の改善に向けた利用者の評価の把握

「おでかけなんじい」に関するアンケート

はじめに、あなた自身についてお聞かせください

問1. 性別を教えてください。

1. 男性 2. 女性

問2. 年齢を教えてください。

歳

問3. お住まいを教えてください（地区名まで、番地は記入不要です）。

【記入例】（佐敷・玉城・知念・大里） 行政区名 **大里グリーンタウン**

（佐敷・玉城・知念・大里） 行政区名

問4. 運転免許の保有状況を教えてください。

1. 運転免許を持っている 2. 運転免許を持っていない

問5. 65歳以上の方にうかがいます。普段、よく面倒をみてくれる方と同居の有無、クルマの保有状況について教えてください（それぞれに○）。

【よく面倒をみてくれる方】

1. 親 2. 配偶者 3. 兄弟 4. 息子 5. 娘
6. 義理の息子 7. 義理の娘 8. 孫 9. 特にいない
10. その他（ ）

【普段よく面倒をみてくれる方と一緒に住んでいますか？】

1. 住んでいる 2. 住んでいない 3. 近所に住んでいる

【普段よく面倒をみてくれる方はクルマを持っていますか？】

1. 持っている 2. 持っていない

「おでかけなんじい」の登録・利用状況についてうかがいます

問6. 「おでかけなんじい」に登録した理由を教えてください。(当てはまる番号すべてに○)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. 外出するのに困っていたから | 2. 便利そうだから |
| 3. おもしろそうだったから | 4. 家族がすすめてくれたから |
| 5. 区長がすすめてくれたから | 6. 友人・知人がすすめてくれたから |
| 7. 知らないうちに登録されていた | 8. 特に理由はない |
| 9. その他 () | |

問7. これまでに「おでかけなんじい」を利用したことはありますか。(当てはまる番号ひとつに○)

1. 無料時、有料時(300円)の両方で利用したことがある → 問11へ(4ページ)
2. 無料時のみ利用したことがある → 問8へ
3. 有料(300円)になってから利用したことがある → 問9へ
4. 「おでかけなんじい」を利用したことはない → 問10へ(4ページ)

問8. 無料時のみ利用した方にうかがいます。有料になってから利用していない理由を教えてください。 ※この設問を回答して、問18(7ページ)へお進みください

1. 料金(300円)が高いから
 2. 有料になってから、「おでかけなんじい」を利用して出かける機会がないから
 3. 路線バスのほうが安いから
 4. タクシーを割り勘で利用したほうが安いから
 5. 有料であれば、タクシーを利用したほうが便利だから
 6. その他 ()
- ⇒ 問18へ(7ページ)

問9. 有料になってから利用した方にうかがいます。無料時に利用しなかった理由を教えてください。 ※この設問を回答して、問16(6ページ)へお進みください

1. 無料時は「おでかけなんじい」を知らなかった
 2. 無料時は、「おでかけなんじい」を利用して出かける機会がなかった
 3. 無料だったので、利用を遠慮していた
 4. 65歳未満だったので、利用できなかった
 5. その他 ()
- ⇒ 問16へ(6ページ)

問 10. 「おでかけなんじい」を利用していない理由を教えてください。(当てはまる番号すべてに○) ※この設問を回答して、問 18 (7 ページ) へお進みください

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1. 自分で運転できる | 2. 家族・知人が送迎してくれる |
| 3. 路線バスを利用している | 4. タクシーを利用している |
| 5. 外出する機会があまりない | 6. 予約の方法がよくわからない |
| 7. 予約するのが面倒 | 8. 予約通りに来るか不安 |
| 9. 時間が読めずスケジュールがたてにくい | 10. 知らない人と同乗するのが不安 |
| 11. その他 (|) |

⇒ 問 18 へ(7 ページ)

有料時の「おでかけなんじい」の利用状況についてうかがいます

問 11. 「おでかけなんじい」の有料時の利用頻度を教えてください。(もっとも当てはまる番号に○)

- | | | |
|--------------------|------------------|---------------|
| 1. 週に 3 回以上利用 | 2. 週に 1~2 回利用 | 3. 月に 1~2 回利用 |
| 4. 2~3 ヶ月に、1~2 回利用 | 5. これまでに 1 回のみ利用 | |

問 12. 有料になってから「おでかけなんじい」と他の公共交通機関を乗り継いだり、片道のみ「おでかけなんじい」を利用することはありますか。(当てはまる番号すべてに○)

1. 行き帰りのどちらかは、路線バスを利用
2. 行き帰りのどちらかは、タクシーを利用
3. 行き帰りのどちらかは、クルマ(家族・知人等の送迎)を利用
4. 最寄りバス停まで「おでかけなんじい」、バス停から市内の目的地まで路線バス利用
(最寄りバス停名:)
5. 最寄りバス停まで「おでかけなんじい」、バス停から市外の目的地まで路線バス利用
(最寄りバス停名:) (市外の目的地:)
6. 久高島のフェリー・高速船と「おでかけなんじい」の乗り継ぎ利用
7. 乗り継いだり、「おでかけなんじい」の片道のみ利用はない
8. その他 ()

「おでかけなんじい」有料後の変化についてうかがいます

問 13. 「おでかけなんじい」が有料になってから、外出する回数に変化はありましたか。

- | | | | | | |
|-------------|---|-------------|------|---|------------------|
| 1. 増加した | → | 無料時の外出回数 (約 | 回/月) | } | → 問16へ
(6ページ) |
| | | 有料後の外出回数 (約 | 回/月) | | |
| 2. あまり変わらない | → | 普段の外出回数 (約 | 回/月) | } | → 問14へ |
| 3. 減少した | → | 無料時の外出回数 (約 | 回/月) | | |
| | | 有料後の外出回数 (約 | 回/月) | | |

問 14. 外出が減少した方におうかがいします。有料化以降、どのような利用目的で「おでかけなんじい」の利用機会が減りましたか。市内への移動は利用目的ごとに教えてください。(当てはまる項目に✓をつける)

利用頻度 利用目的		あまり 変わらない	やや減った (2~3割減)	大幅に減っ た(5割減)	全く利用 しなくなった	この目的 で利用し ていない
		市内の 移動	買い物	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
習い事	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
イベント参加	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
食事・飲食	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
知人訪問	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
市外への移動		<input type="checkbox"/>				

問 15. 「おでかけなんじい」の利用が減った理由を、利用目的ごとに教えてください。利用が減った項目のみ回答してください。(当てはまる項目に✓をつける)

利用頻度 利用目的		家族や知人 に送迎して もらうよう なったから	タクシーで 移動する ようになった から	路線バスで 移動する ようになった から	「おでかけ なんじい」の 利用を減らし た分、外出を しなくなった から	有料・無料に 関係なく、出 かける必要が なかったから
		市内の 移動	買い物	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
習い事	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
イベント参加	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
食事・飲食	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
知人訪問	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
市外への移動		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

「おでかけなんじい」に対する評価・要望についてうかがいます

問 16. 「おでかけなんじい」利用の満足度を項目ごとに教えてください。（当てはまる項目に✓をつける）

項目	とても満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	とても不満
予約のしやすさ	<input type="checkbox"/>				
待ち時間	<input type="checkbox"/>				
運行時間帯（8～21時）	<input type="checkbox"/>				
車両の乗り心地	<input type="checkbox"/>				
目的地までの所要時間	<input type="checkbox"/>				
予約のオペレータの対応	<input type="checkbox"/>				
ドライバーの対応	<input type="checkbox"/>				
運賃	<input type="checkbox"/>				

問 17. 具体的に改善してほしい点があれば教えてください。

「おでかけなんじい」の利用意向についてうかがいます

問 18. 今後、「おでかけなんじい」を利用する機会が増えると思いますか。

- | | | |
|--------------|-------------|--------------|
| 1. とても増えると思う | 2. やや増えると思う | 3. どちらともいえない |
| 4. やや減ると思う | 5. とても減ると思う | 6. 今後も利用しない |

問 19. 現在、「おでかけなんじい」の運賃は、300 円となっていますが、適切だと思われませんか。

- | | | |
|------------|------------|--------------|
| 1. 安いと思う | 2. やや安いと思う | 3. ちょうどよいと思う |
| 4. やや高いと思う | 5. 高いと思う | |

→ 適切と思う運賃

円

問 20. どのようなサービスがあると、今後も「おでかけなんじい」を利用しやすくなると思いますか。(当てはまる番号すべてに○)

1. 1 日乗車券などがある
2. 回数券や定期券の発行
3. 「おでかけなんじい」での来店によるスーパーの割引サービス
4. 「おでかけなんじい」利用による飲食店の割引サービス
5. 「おでかけなんじい」利用によるその他施設利用の割引サービス
6. その他

最後に「おでかけなんじい」についてご意見などをうかがいます

問 21. 「おでかけなんじい」を利用したの感想や、ご意見等がありましたらお聞かせください。

== ご協力ありがとうございました ==

ご記入いただいたアンケート調査票は、3月13日（金）までに、同封の返信用封筒にて送付願います。

2-2 調査結果の集計

(1) 属性

1) 性別・年齢

- 登録者の男女比は、3：7で女性の比率が高い。
- 年代は、無償時の利用対象であった65歳以上が87%と9割近くを占め、65歳以上では、「75～79歳」が25%、「70～74歳」20%と構成比が高い。

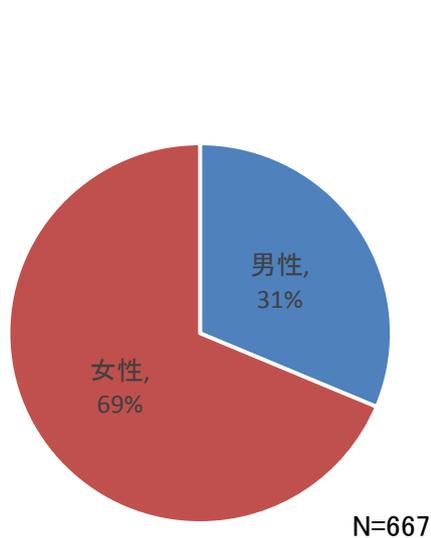


図 3-28.回答者の性別(登録者)

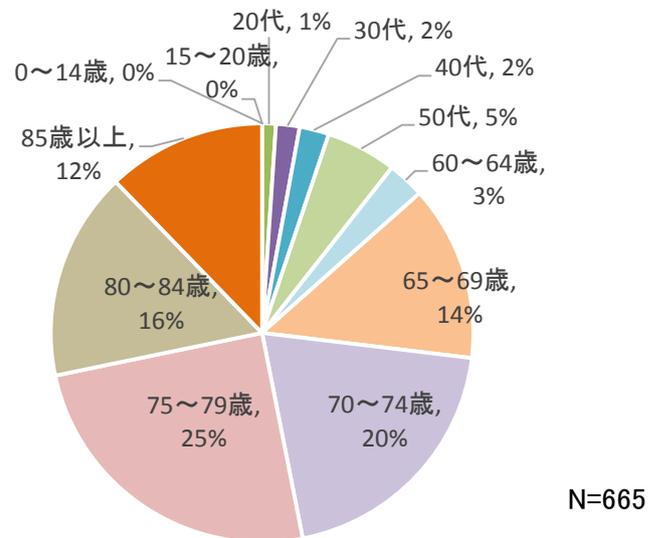


図 3-29.回答者の年齢(登録者)

2) 居住地

- 登録者の居住地は「佐敷」32%、「玉城」28%、「知念」21%、「大里」19%の順になっている。

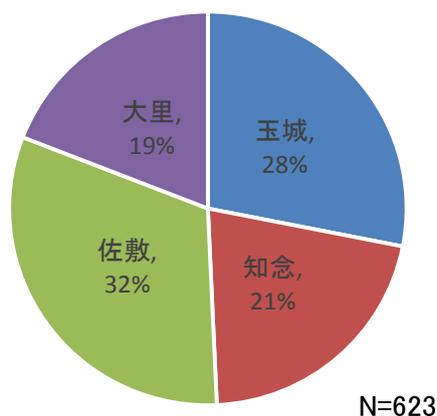


図 3-30.回答者の居住地(登録者)

3) 運転免許の保有状況

- 登録者の44%が運転免許を保有、56%が保有していない状況であり、やや保有していない方の割合が高い。

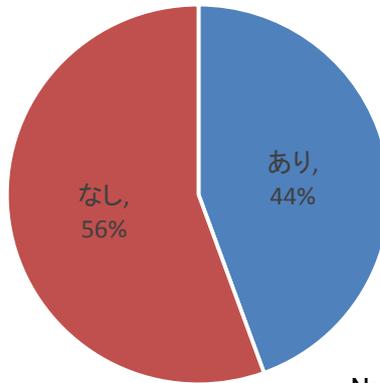


図 3-31. 回答者の運転免許の保有状況(登録者)

4) 普段よく面倒をみてくれる方

- 65歳以上の方を対象に、普段よく面倒をみてくれるに方について聞いたところ、41%の方が「配偶者」、34%の方が「息子」、28%の方が「娘」という回答結果になった。
- 普段よく面倒をみてくれる方と、67%は「同居」、9%は「近所に住んでいる」という状況であり、また、普段よく面倒をみてくれる方の88%はクルマを保有している。

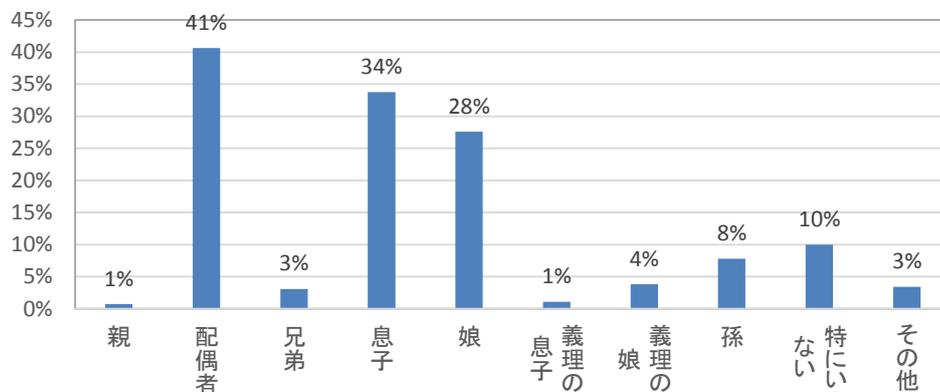


図 3-32. 普段よく面倒をみてくれる方(登録者、65歳以上、複数回答)

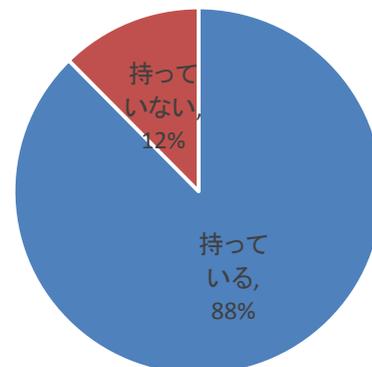
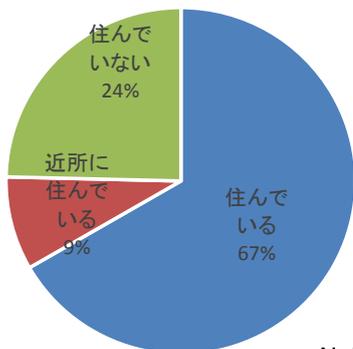


図 3-33. 普段よく面倒をみてくれる方との同居の有無 図 3-34. 普段よく面倒をみてくれる方の運転免許の有無

(2)「おでかけなんじい」の登録・利用状況

1)登録理由

- 「おでかけなんじい」の登録理由として、「外出するのに困っていたから」、「便利そうだから」が37%と最も多く、次いで「友人・知人がすすめてくれたから」28%、「家族がすすめてくれたから」13%とまわりのすすめで登録した方も多い。
- 「その他」では、「運転できなくなることを考えて」といった念のためにあらかじめ登録している方も多くみられる。

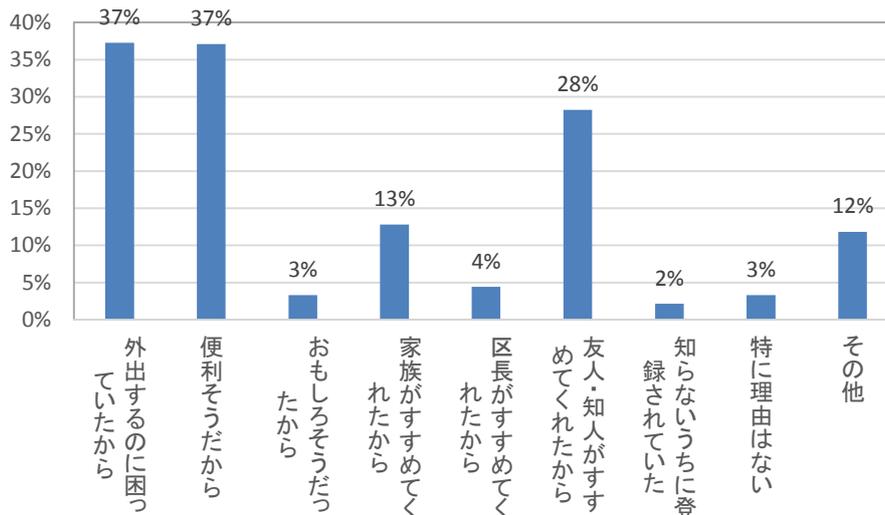
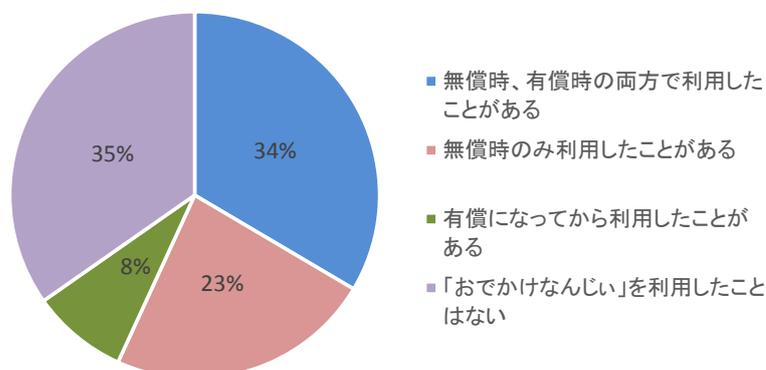


図 3-35.「おでかなじい」の登録理由(複数回答)

2)これまでの「おでかけなんじい」の利用の有無

- 35%の方は、「『おでかけなんじい』は利用したことがない」と回答しており、登録者への利用促進に向けた取り組みも必要な状況がうかがえる。
- 利用した方では、「無償時、有償時の両方で利用したことがある」が34%と多く、「無償時のみ利用したことがある」23%、「有償になってから利用したことがある」8%の順になっている。
- 無償時の利用割合は、56%、有償時の利用割合は42%と無償時の利用割合が14%高くなっている。

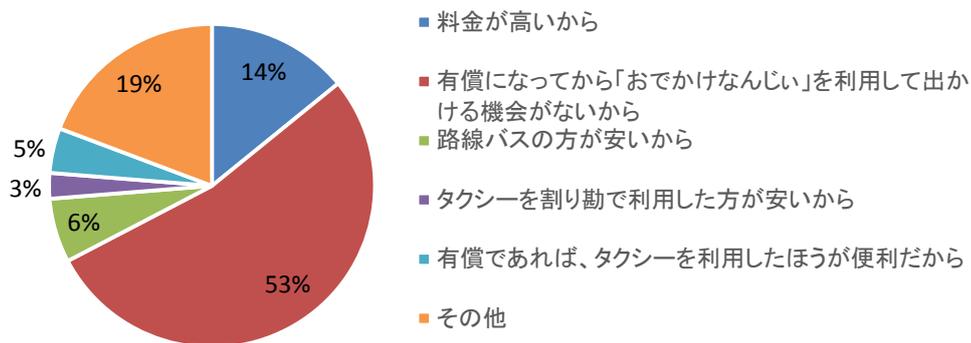


N=653

図 3-36.「おでかなじい」の利用の有無

3)有償時に利用していない理由

- 有償時に利用していない理由として、53%の方は「有償になって『おでかけなんじい』を利用して出かける機会がないから」をあげている。
- 14%の方は「料金が高いから」、6%の方は「路線バスの方が安いから」、3%の方は「タクシーを割り勘で利用した方が安いから」とあわせて23%の方は、「おでかけなんじい」の料金の高さを理由に利用していない。
- 「その他」の理由としては、「自分で運転するから」、「送迎してもらうから」という理由が多くなっており、有償化により外出を取り止めてはいないが、クルマの運転・送迎で対応している状況がうかがえる。

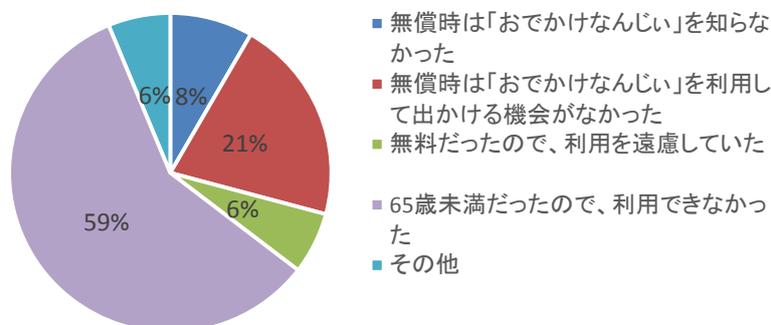


N=156

図 3-37.有料時に「おでかなじい」を利用していない理由

4)無償時に利用しなかった理由

- 無償時に「おでかけなんじい」を利用しなかった理由として、59%の方は「65歳未満だったので、利用できなかった」をあげており、条件に適合していなかったことが最も多い理由となっている。
- 無償時に利用条件を満たしていた方の中では「無償時は『おでかけなんじい』を利用して出かける機会がなかった」が21%と最も多くなっている。



N=48

図 3-38.無料時に「おでかなじい」を利用しなかった理由

5)「おでけなんじい」を利用していない理由

- 「おでけなんじい」を利用していない理由として、56%の方は「自分で運転できる」、30%の方は「家族・知人が送迎してくれる」と回答しており、多くの方は、クルマの運転・送迎があるため利用していない状況となっている。
- 数は少ないが、「タクシーを利用している」7%、「路線バスを利用している」5%と公共交通利用が理由で、利用していない方もいる。
- 一方、「時間が読めずスケジュールが立てにくい」が11%、「予約の方法がよくわからない」、「予約通りに来るか不安」7%、「予約するのが面倒」5%、「知らない人と同乗するのが不安」3%と数は多くはないが、デマンドバス利用のデメリットや不安が利用しない理由としてあげられている。

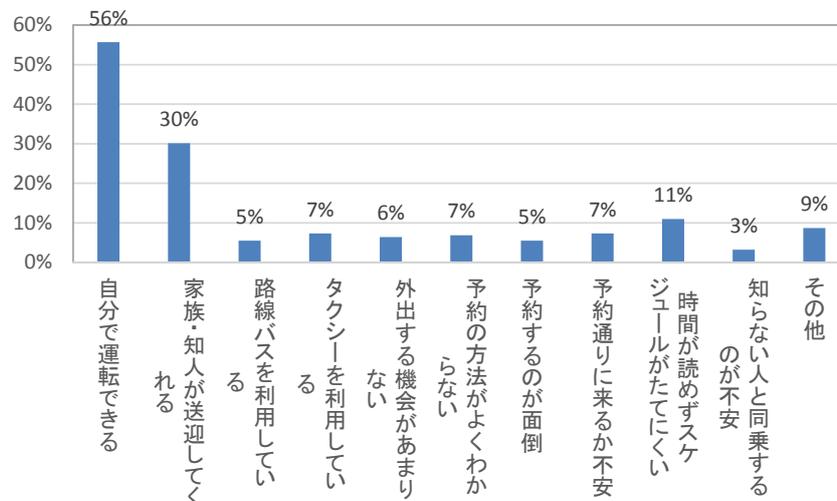
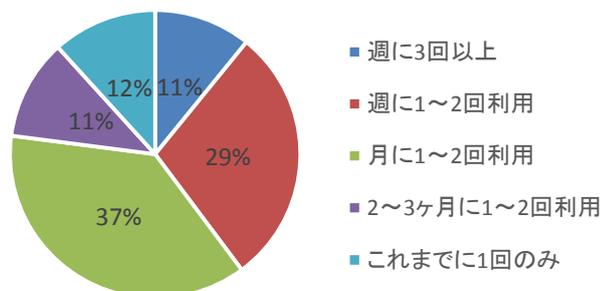


図 3-39.「おでけなんじい」を利用していない理由(複数回答)

(3)有償時の「おでけなんじい」の利用状況

1)有償時の利用頻度

- 有償時の「おでけなんじい」の利用頻度としては、「月に1~2回利用」が37%と最も多く、次いで「週に1~2回利用」29%、「週に3回以上」、「2~3ヶ月に1~2回利用」11%の順となっている。
- 「これまでに1回のみ」の方は12%であり、約9割の方は複数回利用していただいている。



N=231

図 3-40.有償時の「おでけなんじい」の利用頻度(複数回答)

2)他の交通機関との乗り継ぎ利用

- 有償時の他の交通機関との乗り継ぎ状況は、「行き帰りのどちらかは、クルマ（送迎）を利用」が40%と最も多く、次いで、「行き帰りのどちらかは、路線バスを利用」が32%、「最寄りバス停まで『おでかけなんじい』、バス停から市外の目的地まで路線バス利用」26%、「行き帰りのどちらかは、タクシーを利用」23%と、多くの方が他のクルマの送迎以外にも、路線バスや、タクシーと乗り継いで「おでかけなんじい」を利用している。
- 一方、「乗り継いだり、『おでかけなんじい』の片道のみ利用はない」は9%と少ない。
- 市外の乗り継ぎに利用するバス停は、「馬天入口バス停」が13件と多く、市外の目的地としては、「南風原町」44%、「那覇市」39%、「与那原町」17%の構成比になっている。

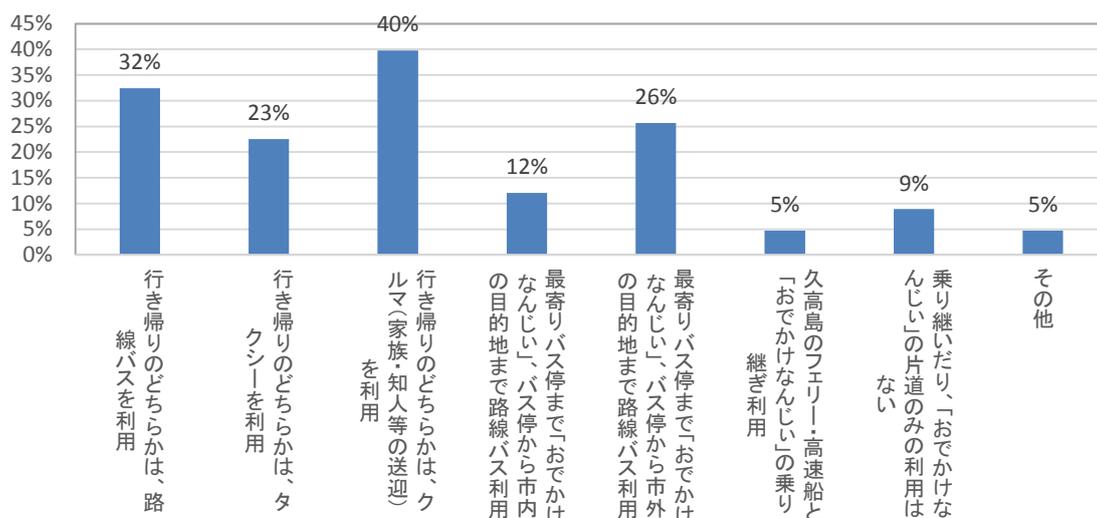


図 3-41.他の公共交通機関との乗り継ぎ利用(複数回答)

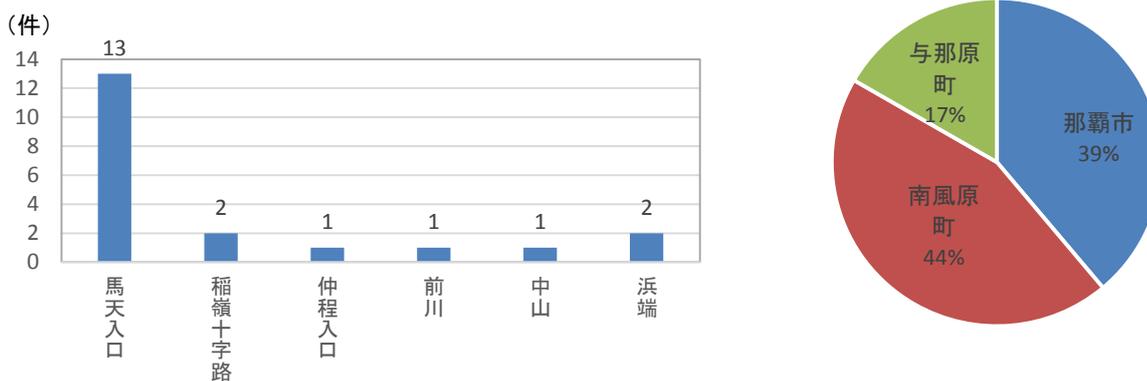
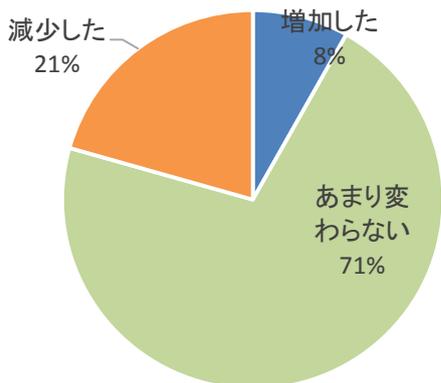


図 3-42.市外への乗り継ぎに利用するバス停と行き先

(4)有償化による変化

1)外出回数の変化

- 有償化後の外出回数の変化は、71%の方が「あまり変わらない」、8%の方が「増加した」と回答している一方で、21%の方は「減少した」と回答しており、有償化による影響がみられる。
- 有償化で外出回数が減少した方の外出頻度をみると、無償時の 5.7 回/月から有償時は 2.5 回/月へとほぼ半減しており、影響が大きい。



N=233

図 3-43.有償化後の外出回数の変化

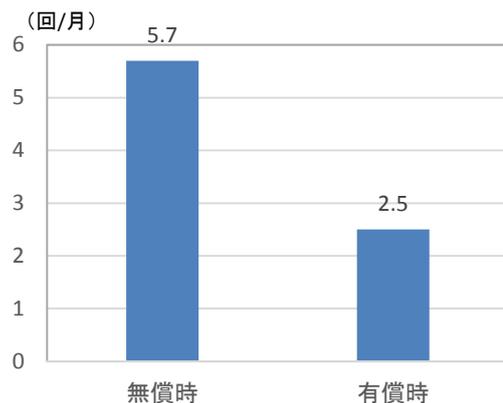


図 3-44.外出回数が減少した方の外出頻度の変化

2)「おでかけなんじい」の利用が減った外出目的

- 有償化により、「イベント参加」、「市外への移動」は、「大幅に減った (5 割減)」、「全く利用しなくなった」と回答した方の割合が、6 割を超えており、有償化による影響が大きい。

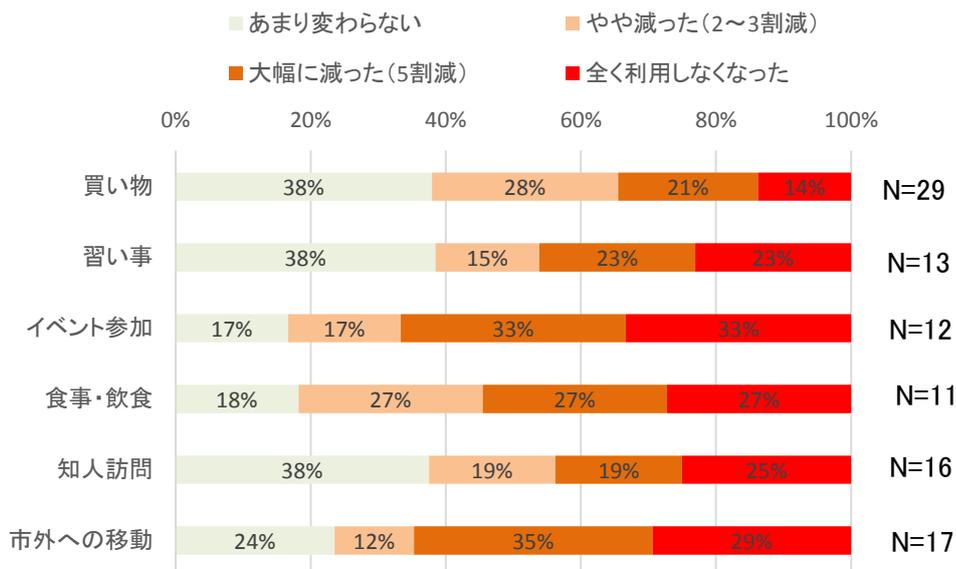


図 3-45.有償化による目的別の「おでかけなんじい」の利用回数の変化

3)「おでかけなんじい」の利用が減った理由

- 有償化により、「おでかけなんじい」の利用が減った理由としては、「家族や知人に送迎してもらうようになったから」という回答が多く、特に、「買い物」、「習い事」、「イベント参加」、「食事・飲食」、「知人訪問」は理由の過半数を占めている。
- 一方、市外への移動は、送迎を理由にする方は29%と少なく、「路線バスで移動するようになったから」が41%と多い。
- 有償化により移動そのものをとりやめるケースもみられ、「知人訪問」では40%の方が、「買い物」、「イベント参加」では25%の方が「『おでかけなんじい』の利用を減らした分、外出をしなくなったから」と回答している。

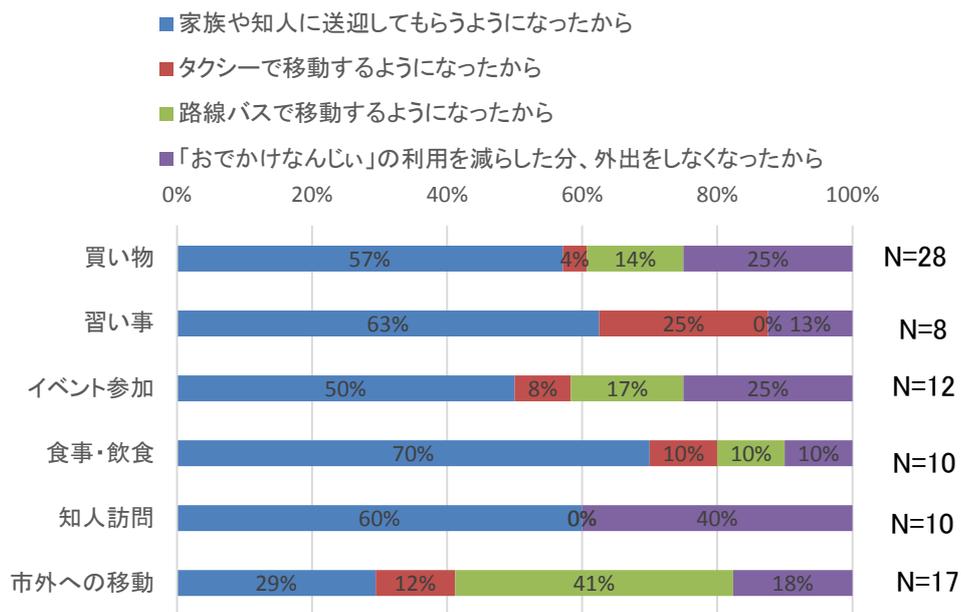


図 3-46.有償化により「おでかけなんじい」の利用が減った理由

(5)「おでかけなんじ」に対する評価・要望

- 「おでかけなんじ」の満足度は、全体的に「とても満足」、「やや満足」と回答している方が多く、満足度は概ね高い。
- ただし、「待ち時間」や「運賃」については、10%の以上の方が「とても不満」または「やや不満」と回答しており、他の項目に比べ、満足度が低くなっている。

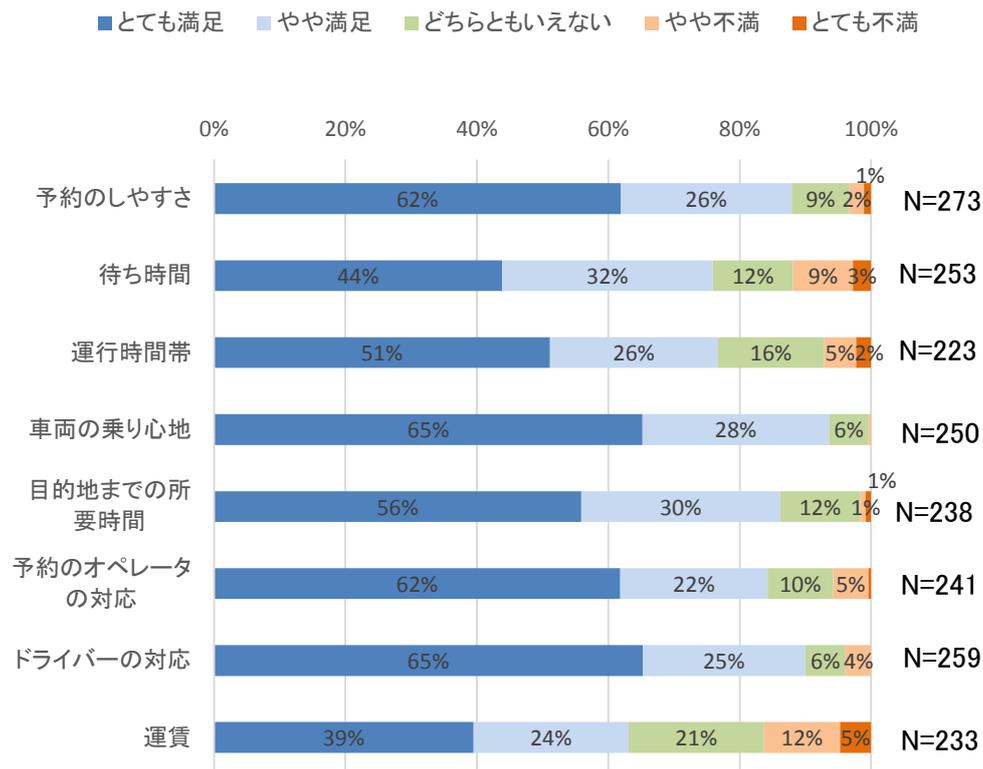


図 3-47.「おでかけなんじ」の満足度

- 「予約のしやすさに」については、予約なしでの乗車や、定時での運行などデマンドバス以外の運行を求める意見や、予約時間の間隔短縮を求める意見などが寄せられている。
- 「待ち時間」については、30分単位での運行を求める意見が39件と多く、その他では、待ち時間がわかるようにしてほしいという要望もある。
- 「運行時間帯」については、22時、23時まで運行してほしいという意見が16件と多い。
- 「目的地までの所要時間」については、予約時間に遅れないでほしいという意見が8件寄せられている。
- 「ドライバーの対応」については、対応が悪い、運転が荒いといった意見が13件、ドライバーが道を覚えていないといった意見が6件寄せられている。
- 「運賃」については、近い距離でも料金が均一であることに対する不満が51件と多く、無料化や値下げを求める意見も寄せられている。

【具体的な要望】

<予約のしやすさ>

- ・自宅までではなくても良いので、予約しなくても同じ方向なら乗せてもらえるようにしてほしい。(3)
- ・時間を決めてバス停を通過してほしい。(3)
- ・急な予約でも空席がある場合は対応してほしい(2)
- ・タクシーのように呼んだらすぐ来てほしい。(2)
- ・1時間毎の予約しかできないので利用しづらい。(2)

<待ち時間>

- ・本数を増やして待ち時間を短くしてほしい。30分単位などで運行してもらいたい。(39)
- ・待ち時間が分かるようにしてほしい。(10)

<運行時間帯>

- ・22時、23時頃まで夜の運行時間を長くしてほしい。(16)
- ・朝早い時間も運行してほしい。

<車両の乗り心地>

- ・誰もが利用しやすいように底床で、後ろからワンステップで乗り、前から降りる方式でお洒落なバスが良いと思う。
- ・足の悪い人が多いので踏み台も準備してもらえたらと思う。
- ・南城市の案内や宣伝、お知らせ等の音声など車内に流すと良い。

<目的地までの所要時間>

- ・予約時間に遅れないでほしい。目的地に到着したい時間までに到着しない。(8)
- ・バスの位置情報がスマホなどにメールで届くなどしてくれれば便利。

<予約オペレーターの対応>

- ・オペレーターとドライバーのやりとりをスムーズに行ってほしい。(2)

<ドライバーの対応>

- ・ドライバーの対応が悪い、親切にしてほしい、運転が荒い、指導してほしい。(13)
- ・ドライバーが道を覚えていない。(6)
- ・乗降の際手助けが必要。(荷物やドアの開閉など)(3)

<運賃>

- ・遠い距離近い距離が300円というのが不満。安くしてほしい。(51)
- ・また無料乗車にしてほしい。(9)
- ・往復600円は高い。(年金生活なので苦しい)(6)

(6)「おでかけなんじ」の今後の利用意向

1)今後の利用機会

- 今後の「おでかけなんじ」の利用意向は、「どちらともいえない」という方が43%と多いものの、「とても増えると思う」13%、「やや増えると思う」34%と47%の方が増加意向を示している。
- 一方、「とても減ると思う」2%、「今後の利用しない」5%と利用意向がない方もいる。

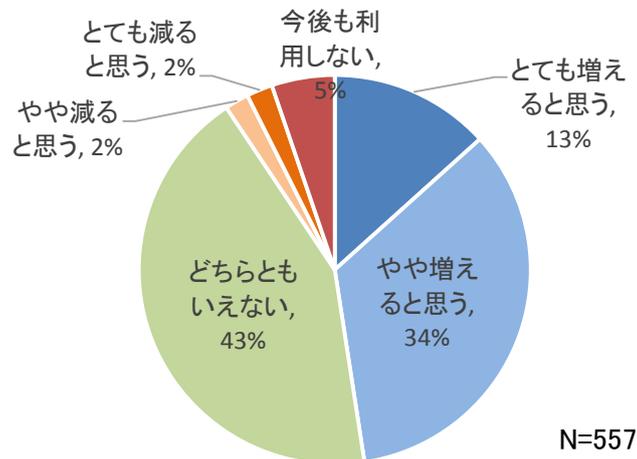


図 3-48.「おでかけなんじ」の今後の利用意向

2)運賃に対する意向

- 現在の300円の運賃に対して、「どちらともいえない」という方が54%と多いものの、「やや高いと思う」22%、「高いと思う」8%と30%の方は、高く感じている。
- 高く感じている方の適切と思われる運賃は、平均で182円となっている。

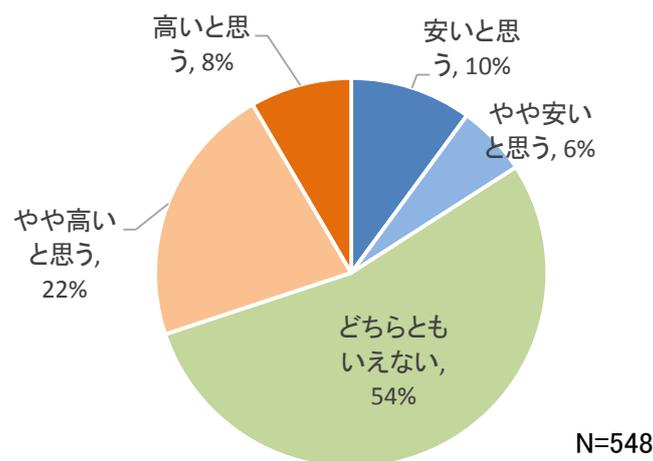


図 3-49.運賃に対する意向

3)利用促進のためのサービス

- 「おでかけなんじい」を利用しやすくするためのサービスとして、「回数券や定期券の発行」を52%の方があげており、その他では『「おでかけなんじい」での来店によるスーパーの割引サービス』が35%、「1日乗車券などがある」26%の順に多くなっている。
- 回数券については、料金割引とのセットでの導入を求める意見が8件寄せられている。
- その他では、団体割引の導入について15件、家族割引・夫婦割引の導入について3件の意見が寄せられている他、料金受領印が押せるカードの導入（料金支払いのトラブル回避のため）や、路線バス同様に、障害者手帳提示者への料金半額等の要望があげられている。

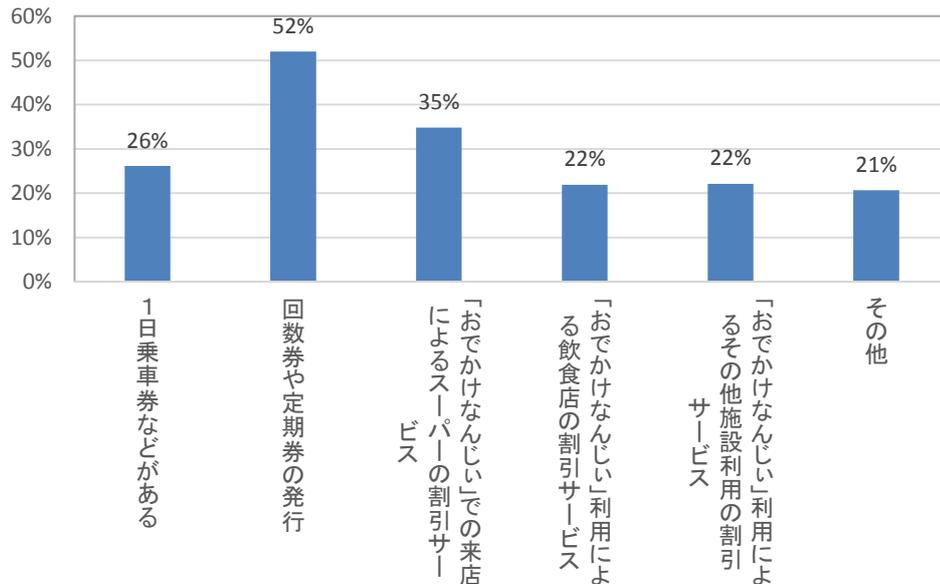


図 3-50.利用促進のためのサービス

【具体的な要望】

<回数券や定期券の発行>

- ・回数券や定期券をチケット割引制（3,000円で11枚とか）にしてほしい。（8）

<「おでかけなんじい」での来店によるスーパーの割引サービス>

- ・Aコープの割引券。

<「おでかけなんじい」利用による他施設利用の割引サービス>

- ・ユインチホテルなど各施設の割引券やサービス券があると良い。（4）

<その他>

- ・団体割引をつかってほしい。（15）
- ・家族割引、夫婦割引があれば良い。（3）
- ・24時間インターネットで予約と予約の状況が確認できる。メール、HP等での予約申し込み可能。（2）
- ・料金支払いでドライバーとトラブルがあったため、受け取り印が押せるスタンプカードがあればよい。（2）
- ・障害者手帳を持っている人の半額制（バスは半額）にすると良い。
- ・空港行きのタクシー割引

(7)自由意見

- その他に自由意見として、とても便利、助かっていますといった好意的な感想や、高齢者にはよい制度、満足しているといった評価、長期運行して欲しい、隣接市町村まで運行して欲しいといった要望などが寄せられている。

＜感想＞

- ・とても便利。助かっています。感謝しています。(58)
- ・ドライバーさんやオペレーターさんが親切だった。(丁寧な電話対応、荷物を家まで運んでくれる、乗り下りを手伝ってくれる等)(23)
- ・外出するのが楽になった。楽しみになった。(9)
- ・乗り心地が良い。(6)
- ・お客さん同士のふれあいが増えて乗るのが楽しい。(3)
- ・運転手が制服、制帽になったのは良い印象。好感が持てる。

＜評価＞

- ・高齢者にとっては良い制度だと思う。(17)
- ・すべて満足しています。(15)
- ・家の前まで送ってくれるサービスが良い。(4)
- ・運行時間帯以外は大変満足しています。(3)
- ・利用方法、内容がわかりづらい。(2)
- ・1日の予定を計画立てて動くとなかなか利用しづらい。
- ・年齢制限がないので利用しやすい。

＜要望＞

- ・長期運行してほしい。(44)
- ・隣接市町村まで運行して欲しい。(43)
- ・人数が少ない時は小さいバスにしたら良いのでは。(3)
- ・これまで母が何度も利用しているルートで、事故が多いという理由で手前の国道で降ろされたことがあり、約200mの急な坂を徒歩で登る羽目になった。目的地まで送るといふ条件なので、きちんと対応して欲しい。
- ・どの程度の障害までなら乗っていいかわからないので教えて欲しい。

＜今後の利用意向＞

- ・今後、機会があれば(免許がなくなったあと)積極的に利用したい。(33)

＜その他＞

- ・利用したことがない(22)
- ・広報不足。高齢者向けにTVやチラシ、説明会等でのPRが必要(10)
- ・市外から市内へは主に、既存のバス会社へ任せ、市内については「おでかけなんじい」が受け持つ、その接点(ターミナル)を明確にすべきだと思う。
- ・介助が必要な人(車椅子も)は乗れないので、なかなか利用できない。(3)

第4章 利用実態の把握

1 実施状況の整理

1-1 運行状況

- 「おでかけなんじい」の1日あたりの平均運行便数は、H25 無償実験の28 便/日から、H26 無償実験期間中は徐々に増加し、期間中の平均運行便数は40 便/日まで増加している。(1日13時間帯運行していることから、1時間あたりに直すと3.1 便/時)
- しかし、H26.12月10日からの有償実験以降は、運行本数は減少し、1日あたり29 便/日(1時間あたり2.2 便/時)とH25 無償実験時と同じくらいの運行本数に減少している。
- 時間帯別の平均運行便数をみると、すべての時間帯でH26 無償実験の便数が多くなっている。
- H26 無償実験とH26 有償実験を比較すると、9時台~10時台の朝、12時から4時台の昼の時間帯は有償時の運行便数が1.0 便/時以上少なくなっている。

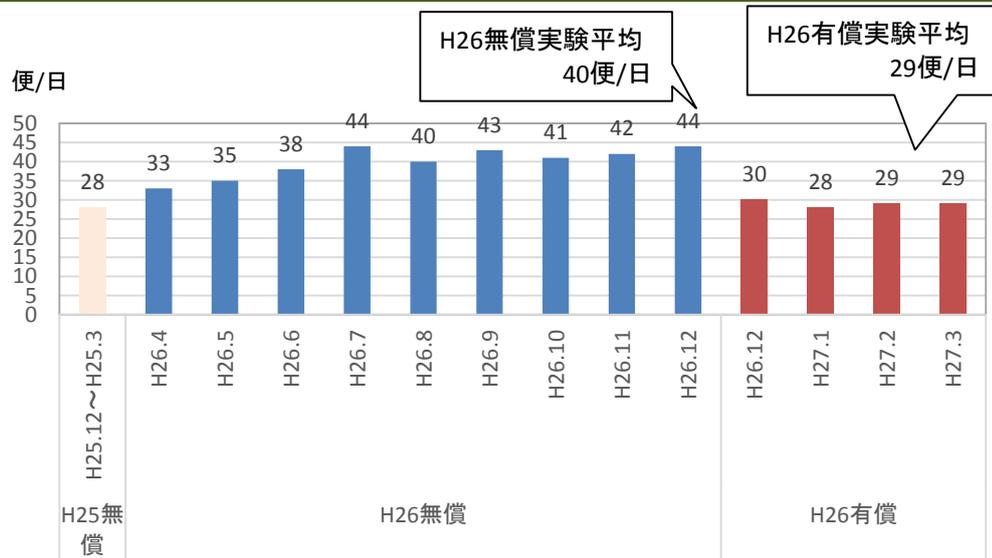


図 4-1.平均運行便数の推移

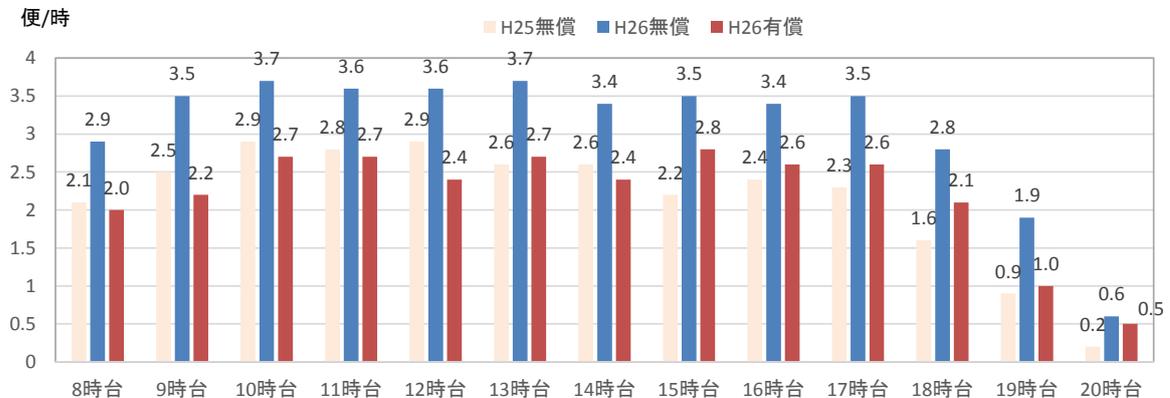


図 4-2.時間帯別の平均運行便数

1-2 運行経費

- 実証実験に要する1ヶ月あたりの運行経費は、H26.2(無償実験)の約270万円/月から、利用が伸びてきたH26.9(無償実験)には約350万円/月へと増加したが、有償化に伴う利用者の減少もあり、H27.1には約280万円/月へと減少した。
- H27.1における運行経費の内訳をみると、「運転手人件費」が46%、「オペレータ人件費」が21%と人件費が運行経費の67%を占めている。
- その他では「車両リース料」が15%、「ガソリン代」が13%を占めている。

表 4-1. デマンド交通の運行経費の推移

区分	費目	運行経費(千円)		
		H26.2(無償実験、5台運行)	H26.9(無償実験、5台運行)	H27.1(有償実験、3台運行)
運行便数		31 便/日	43 便/日	28 便/日
固定費	システム使用料	74	75	75
	車両リース料	583	531	415
	通信運搬費	55	60	55
	オペレータ人件費	592	693	609
	運転手人件費	999	1,530	1,319
	小計	2,303	2,889	2,473
変動費	ガソリン代	364	643	361
	小計	364	643	361
計		2,667	3,532	2,834

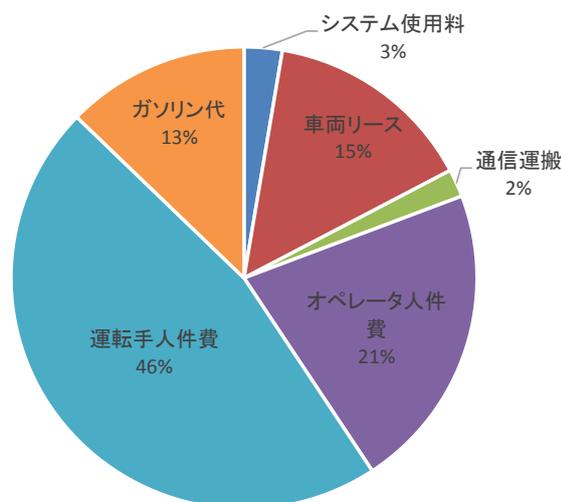
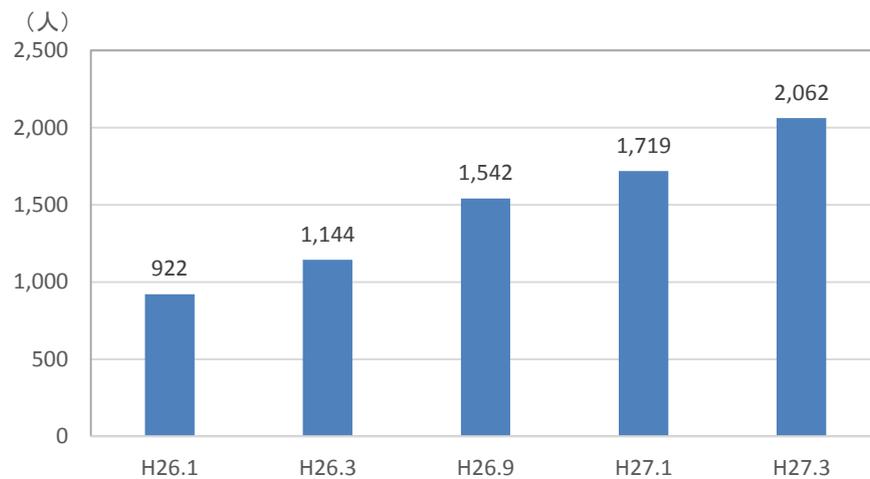


図 4-3. H27.1における運行経費の内訳

1-3 登録者数

●登録者数は、平成26年1月の922人から平成26年3月には1,144人と1,000人を超え、H27.3には、2,062人と1年間で918人（80%）増加している。（※ただし、個人と団体の両方で登録されるなど複数で登録されている方もいる。H27.3では200人の方が複数登録※と考えられる。）

※個人での登録に加え、団体の代表者が既に登録しているの知らずに申し込むなどして同一人物が複数登録されているケースがある。



※登録者数は、一人で複数登録されている方も含まれます。

図 4-4.登録者数の推移(複数登録含む)

- なお、重複を除いた2月初旬の65歳以上の純登録者数は1,484人とみられ、65歳以上人口に占める登録割合は、16%となっている。
- 登録割合は、行政区でバラツキが大きく、数%の行政区もあれば、「大里ニュータウン」では40%以上、「仲村渠」、「山里」、「富祖崎」30%以上の高い登録割合になっている。
- なお、65歳未満の登録者数は204人で、登録率は0.7%である。

表 4-2.行政区別のデマンド交通登録状況

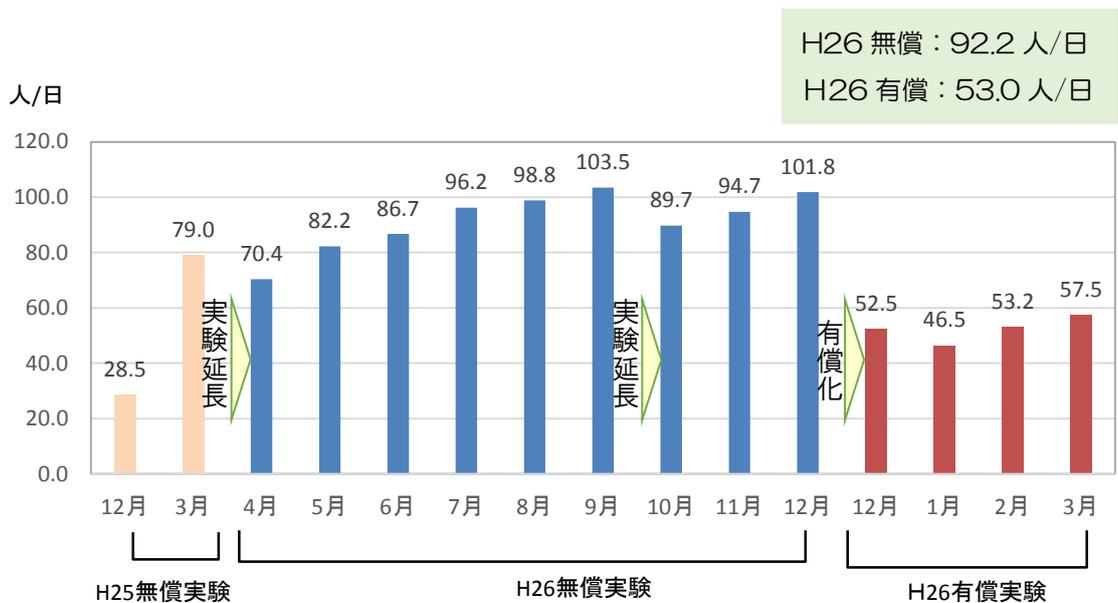
	65歳以上人口	登録者数	登録率	備考		65歳以上人口	登録者数	登録率	備考
玉城地域	親慶原	302	77	25.5%	佐敷地域	津波古	649	70	10.8%
	垣花	111	24	21.6%		小谷	159	13	8.2%
	仲村渠	72	24	33.3%		新里	205	20	9.8%
	百名	200	44	22.0%		兼久	101	19	18.8%
	新原	70	12	17.1%		佐敷	203	38	18.7%
	玉城	46	3	6.5%		手登根	207	50	24.2%
	中山	71	12	16.9%		伊原	78	17	21.8%
	奥武	261	12	4.6%		屋比久	106	24	22.6%
	志堅原	94	9	9.6%		外間	46	3	6.5%
	堀川	135	27	20.0%		富祖崎	119	39	32.8%
	富里	84	14	16.7%		仲伊保	153	31	20.3%
	富山	92	12	13.0%		新開	293	80	27.3%
	屋嘉部	99	9	9.1%					
	糸数	150	33	22.0%					
	喜良原	172	8	4.7%					
	船越	247	52	21.1%					
	愛地	144	8	5.6%					
前川	252	20	7.9%						
小計	2,602	400	15.4%						
知念地域	志喜屋	207	59	28.5%	小計	2,319	404	17.4%	
	山里	67	21	31.3%	西原	35	6	17.1%	
	具志堅	60	11	18.3%	南風原	74	9	12.2%	
	知念	195	28	14.4%	平良	77	4	5.2%	
	吉富	49	6	12.2%	嶺井	133	15	11.3%	
	久手堅	86	7	8.1%	嶺井団地	90	0	0.0%	
	安座真	151	36	23.8%	古堅	93	15	16.1%	
	知名	204	60	29.4%	福原	103	2	1.9%	
	海野	155	24	15.5%	島袋	107	28	26.2%	
	久原	99	11	11.1%	当間	130	16	12.3%	
	久高	89	20	22.5%	仲程	119	22	18.5%	
	小計	1,362	283	20.8%	高宮城	64	5	7.8%	
					銭又	53	2	3.8%	
					平川	93	1	1.1%	
				稲嶺	172	16	9.3%		
				大里グリーンタウン	568	74	13.0%		
				目取真	150	23	15.3%		
				湧福国	127	22	17.3%		
				大城	161	36	22.4%		
				稲福	148	3	2.0%		
				真境名	56	9	16.1%		
				大里団地	29	0	0.0%		
				大里第二団地	12	1	8.3%		
				大里ニュータウン	29	12	41.4%		
				第二グリーンタウン	22	0	0.0%		
				小計	2,645	321	12.1%		
				つきしろ	255	76	29.8%		
				計	9,183	1,484	16.2%		

2 利用状況の整理

2-1 利用者状況の概略

(1) 利用者数の推移

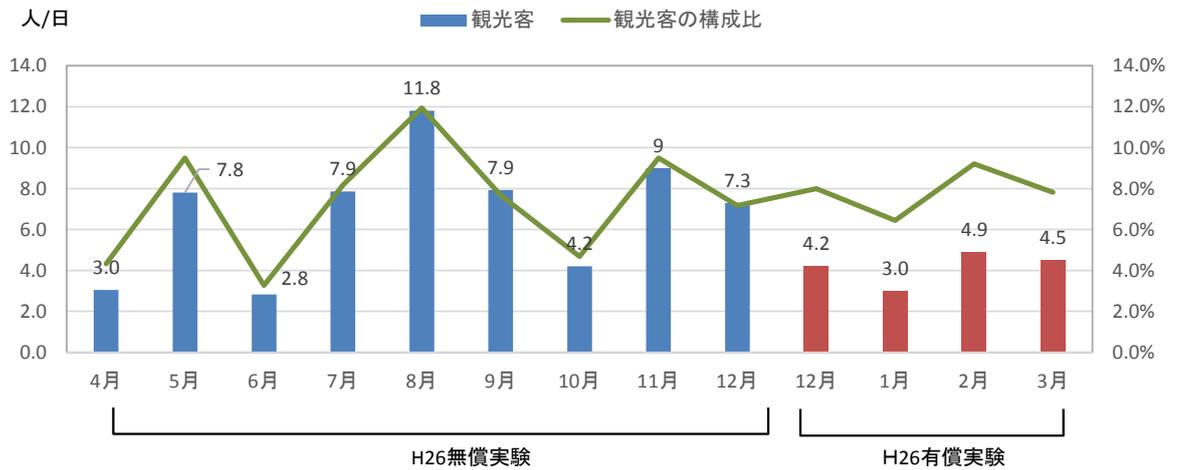
- 「おでかけなんじい」の利用者数は、平成25年度12月の実験開始時の28.5人/日から平成25年度3月には79.0人/日へと増加、平成26年度になっても利用者数は概ね増加傾向を示し、平成26年度12月では101.8人/日まで増加した。
- 平成26年度12月からの有償化により、「おでかけなんじい」の利用者は大幅に減少、有償化後は1月以降利用者数が増加しているものの、平成26年度3月の利用者数は57.5人/日と、平成26年度12月の約半分となっている。
- H26無償実験とH26有償実験の期間中の平均利用者数は、それぞれ92.2人/日、53.0人/日であり、有償化に伴い利用者数が57%に減少(43%減)している。
- なお、無償実験の実験期間延長直後の平成26年度4月、平成26年度10月は、前月に比べ利用者数が減少しており、実験期間延長時の広報に工夫が必要だと考えられる。



データ：システムデータ

図 4-5.「おでかけなんじい」の日平均利用者数の推移

- 観光客の「おでかけなんじい」の日平均利用者数の推移をみると、月による変動が非常に大きく、H26無償実験期間中では、最小は6月の2.8人/日に対し、最大は、8月の11.8人/日と8.0人/日、4.2倍の大きな差がある。
- 観光客の利用者数の変動に応じて、デマンド利用者数に占める観光客の割合も変動している。

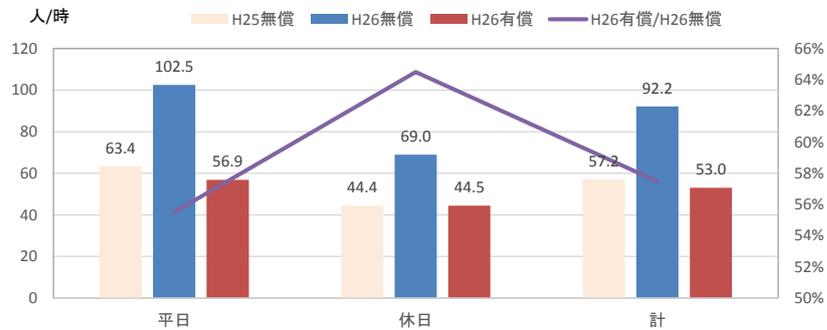


データ:システムデータ

図 4-6.「おでかけなんじい」の観光客の日平均利用者数の推移

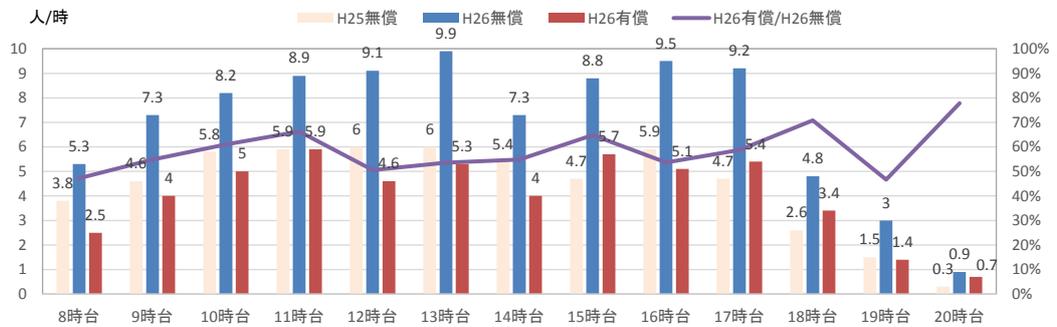
(2)平日休日別・時間帯別利用状況

- 平日の利用状況をみると、H26 無償は 102.5 人/日の利用があったのが、H26 有償では 56.9 人/日と 45.6 人/日、44%減と大幅に減少している。
- 休日もH26 無償の 69.0 人/日から H26 有償は 44.5 人日へと 24.5 人/日、36%減少している。
- H26 無償の平休比（休日/平日）は 0.67 に対し、H26 有償は 0.78 と平日と休日の利用者数の差が小さくなっている。
- 時間帯別では H26 無償に比べ、H26 有償は全時間帯で利用者数が減少しているが、特に 8 時台、12 時台の朝昼は半分以下と大きく減少している。
- 平日と休日の時間帯別利用状況をみると、平日は利用時間が午前・午後に分散しているのに対し、休日は午前と夕方 17 時台に偏っている。



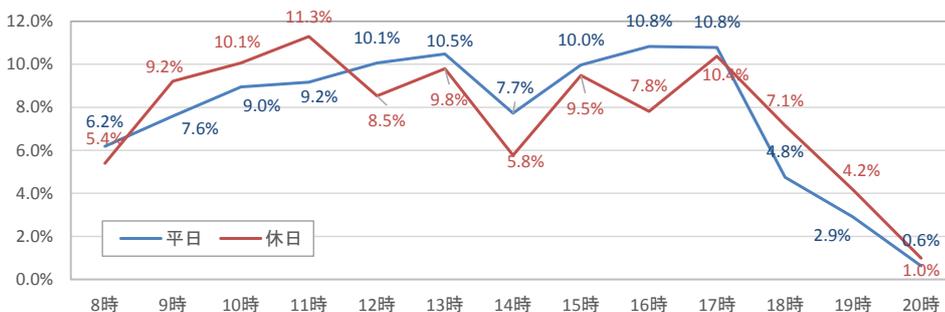
データ:システムデータ

図 4-7.平日・休日別の「おでかけなんじい」の日平均利用者数



データ:システムデータ

図 4-8.時間帯別の「おでかけなんじい」の日平均利用者数



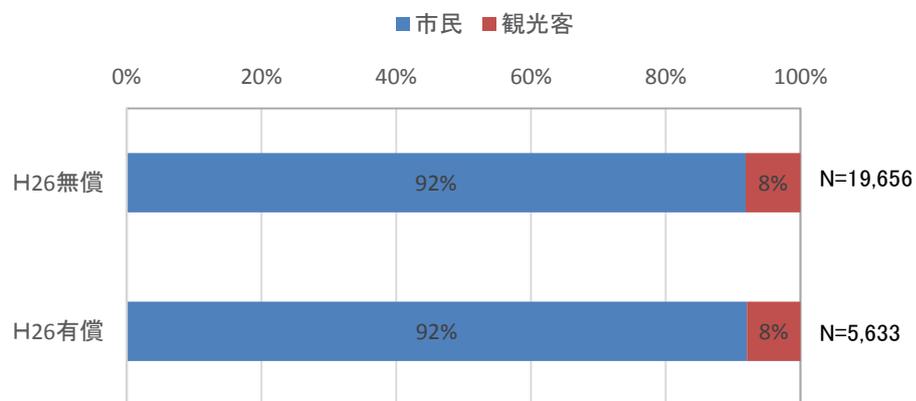
データ:システムデータ

図 4-9.平日・休日別の「おでかけなんじい」の時間帯別利用者数の構成比

2-2 利用者の属性

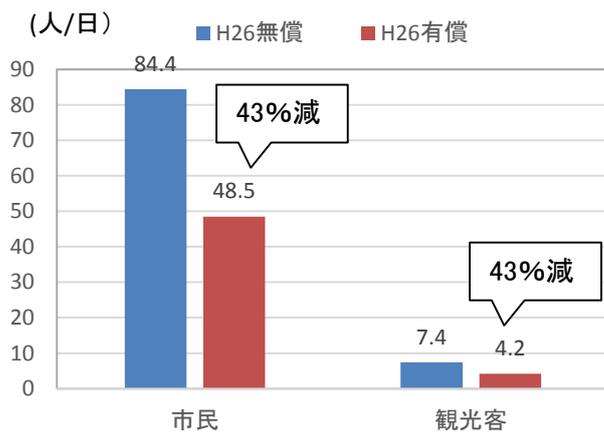
(1) 市民・観光客の内訳

- H26 無償実験では、市民 18,058 人、観光客 1,588 人の計 19,656 人が、H26 有償実験では市民 5,185 人、観光客 448 人の計 5,633 人が「おでかけなんじい」を利用した。（ただし、H26 無償実験では H26.6 に一部データが欠損している期間がある）
- H26 無償実験、H26 有償実験の市民の構成比は 92%、観光客の構成比は 8%と同じであり、有償化により市民、観光客ともに 43%利用者数が減少している。
- なお、アンケートで推計した運賃 300 円における利用者数の予測は 43 人/日であり、実績は 53 人/日と予測をやや上回る水準で推移している。



データ:システムデータ

図 4-10.「おでかけなんじい」利用者の市民・観光客の構成比



データ:システムデータ

図 4-11.市民・観光客の「おでかけなんじい」の利用者数の変化

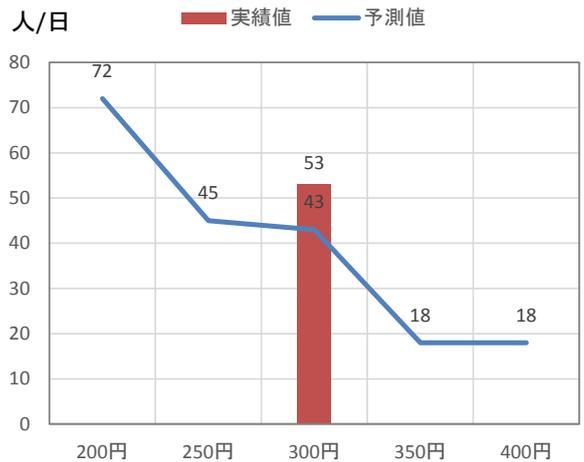


図 4-12.当初予測との比較

(2) 市民利用者の属性

1) 性別

- 実証実験利用者（市民）の男女比は、H26 無償実験、H26 有償実験ともに、2：8 で女性の割合が非常に高くなっている。
- 時間帯別の利用状況をみると、女性は 11～13 時、15 時～17 時台の構成比が 10%以上と利用時間帯が午前、午後に分散しているのに対し、男性は 8 時台、又は夕方の 17 時、18 時台の利用が多くなっている。
- 利用者数は少ないが、男性の 19 時台、20 時台は有償化で年齢制限がなくなったことにより無償時より利用者数が多くなっており、飲食目的での利用が多いと思われる。

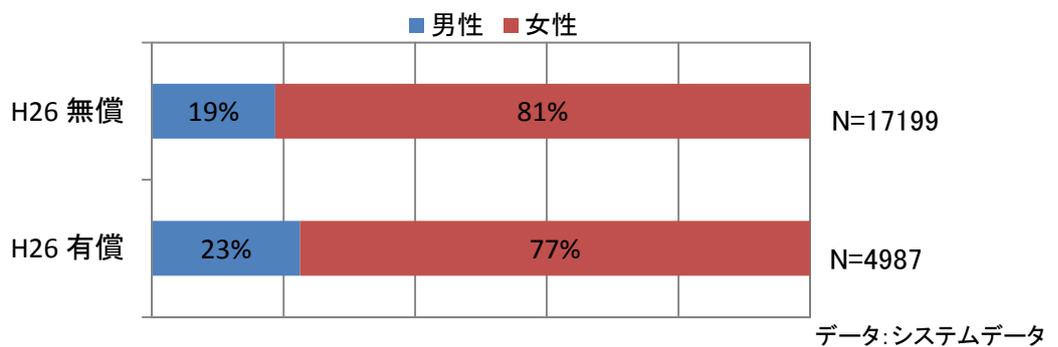


図 4-13.「おでかけなんじい」利用者の性別(市民)

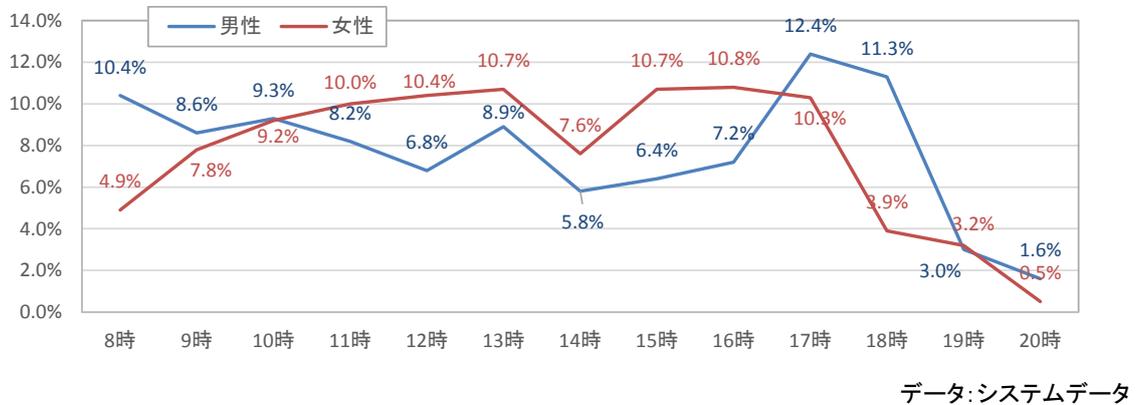


図 4-14.男女別の「おでかけなんじい」利用の時間帯別構成比(市民)

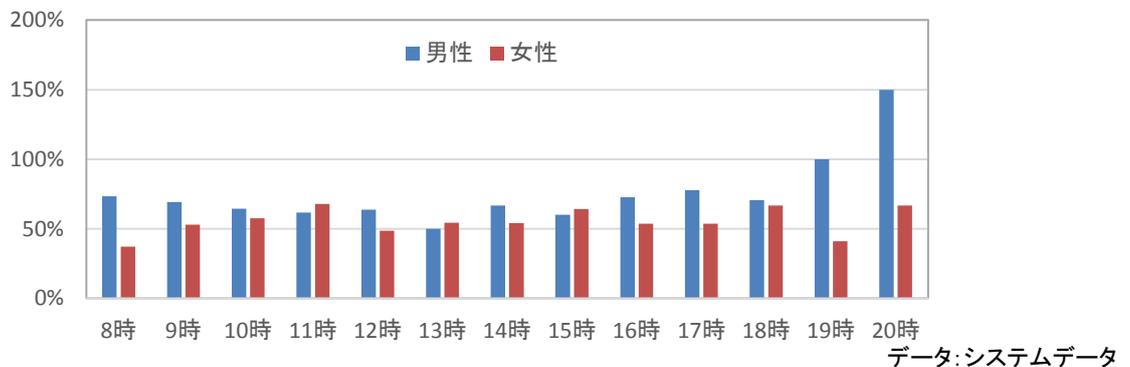
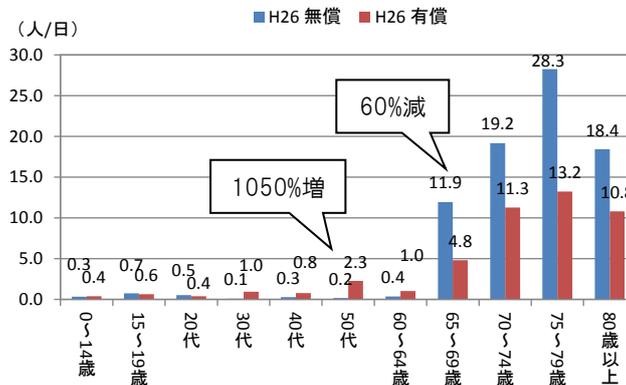


図 4-15.男女別の無償時に対する有償時の時間帯別利用者数の割合(市民)

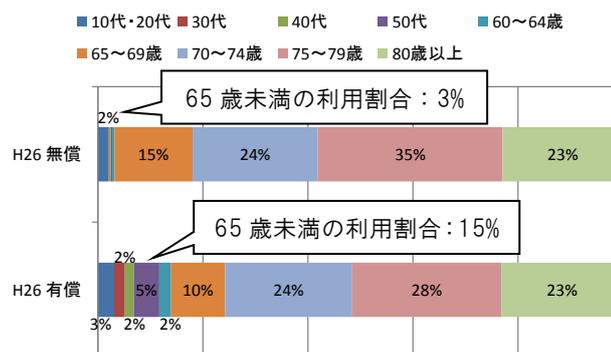
2)年齢

- H26 無償実験、H26 有償実験ともに、「75～79 歳」の利用が最も多くなっているが、有償化により利用者数はほぼ半減している。
- 65 歳以上の利用者数は大きく減少、特に「65～69 歳」は 60%減と減少幅が大きくなっている。
- 有償化により久高島在住以外の 65 歳未満の方も登録できるようになったことで、30 歳以上の利用が増加、特に「50 代」は 1,050%増と 12 倍に増加しているが、全体に占める割合は 5%にとどまっている。
- 65 歳未満の利用割合は、H26 無償実験の 3%から H26 有償実験では 15%に増加している。
- 年代別の利用時間をみると、「～29 歳」は 16 時台、「30～64 歳」、「65～74 歳」は 17 時台の利用が最も多い。
- 一方、利用者の半数を占める「75 歳～」の年代は、9 時台～17 時台と利用が多い時間帯が分散している。



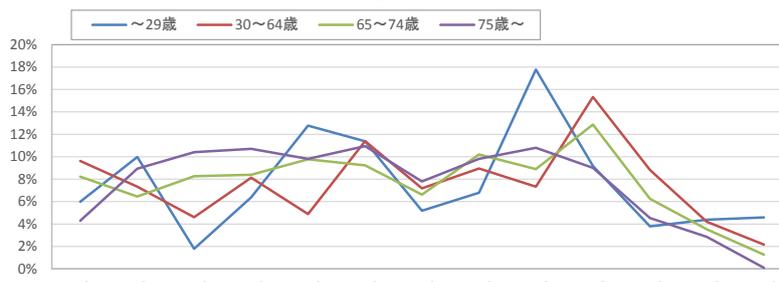
データ:システムデータ

図 4-16.「おでかけなんじい」利用者の年代別の利用者数の変化(市民)



データ:システムデータ

図 4-17.「おでかけなんじい」利用者の年代構成の変化(市民)



データ:システムデータ

図 4-18.年代別の「おでかけなんじい」の利用時間の構成比(市民)

3)地域別の利用者数

地域別に「おでかけなんじい」の利用状況を把握するため、自宅が出発地となっている利用者の移動を対象に、自宅所在地を「玉城」、「知念」、「佐敷」、「大里」、「つきしろ」の地域区分で整理した。

- 「つきしろ」地域以外はH26 無償から利用者数が減少、特に「玉城」地域はH26 無償の10.0人/日からH26 有償は4.6人/日、「佐敷」地域は9.6人/日から4.1人/日へとそれぞれ54%、57%減少している。
- この結果、地域別利用者の構成比は、「玉城」、「佐敷」、「知念」、「大里」、「つきしろ」の順から、H26 有償では、「知念」、「玉城」、「佐敷」、「大里」、「つきしろ」と大きく変化している。

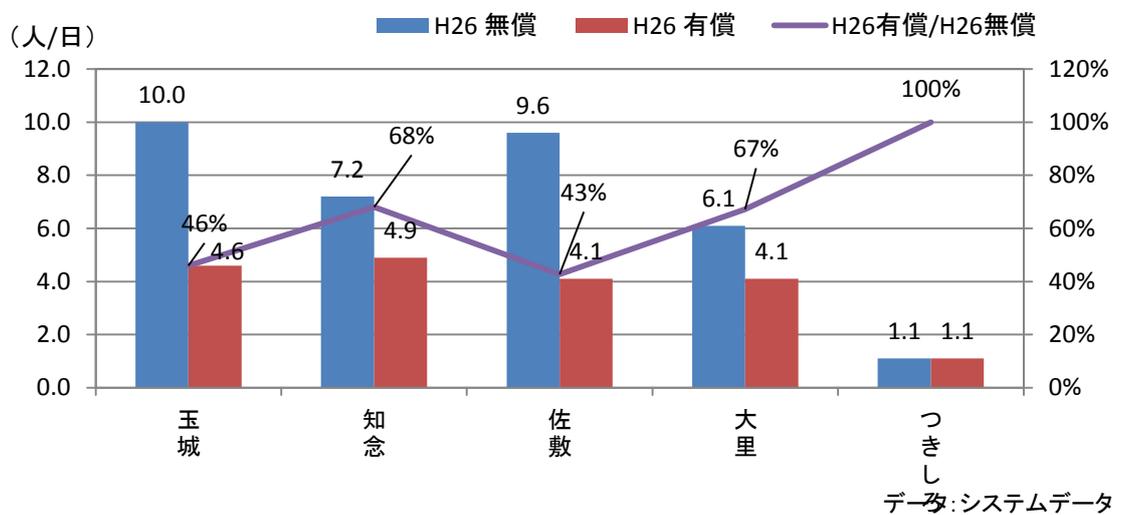


図 4-19.地域別の「おでかけなんじい」利用者数の変化(市民、自宅出発)

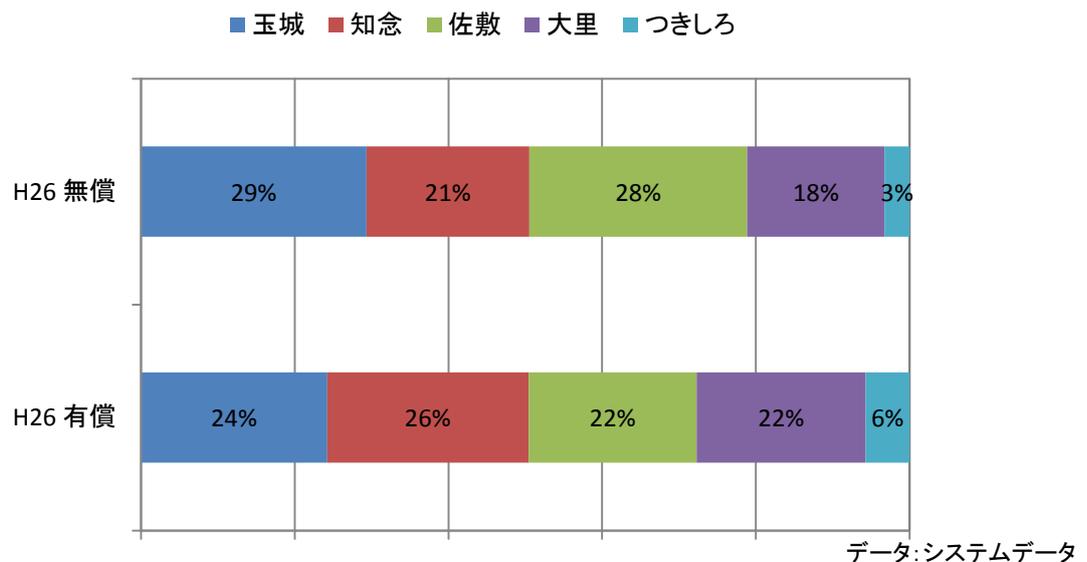
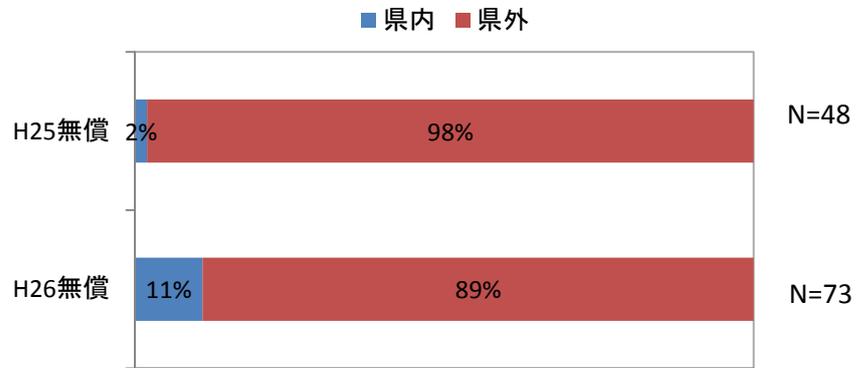


図 4-20.「おでかけなんじい」利用者の地域別構成比(市民、自宅出発)

(3)観光客利用者の属性

1)居住地

- 観光客の居住地は県外が大半を占めているが、県内居住者の割合はH25 無償実験の2%から、H26 無償実験では11%と9ポイント増加している。

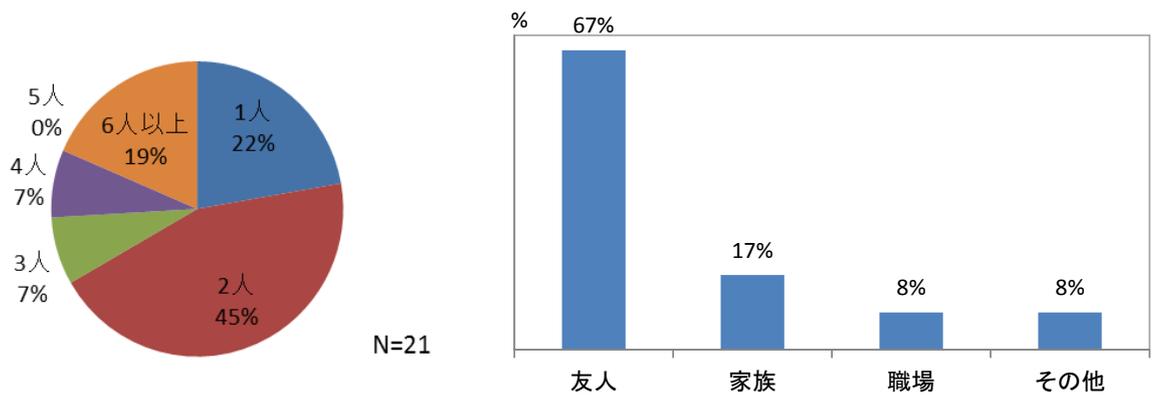


データ: 利用者アンケート調査

図 4-21.「おでかけなんじい」利用者の居住地(観光客)

2)同行者

- H26 無償実験における同行者の状況を見てみると、「2人」利用が45%と最も多く、複数人数での利用は全体の78%を占めている。
- 同行者の内訳は「友人」が67%と7割を占めており、その他では「家族」が17%と多くなっている。



データ: 利用者アンケート調査

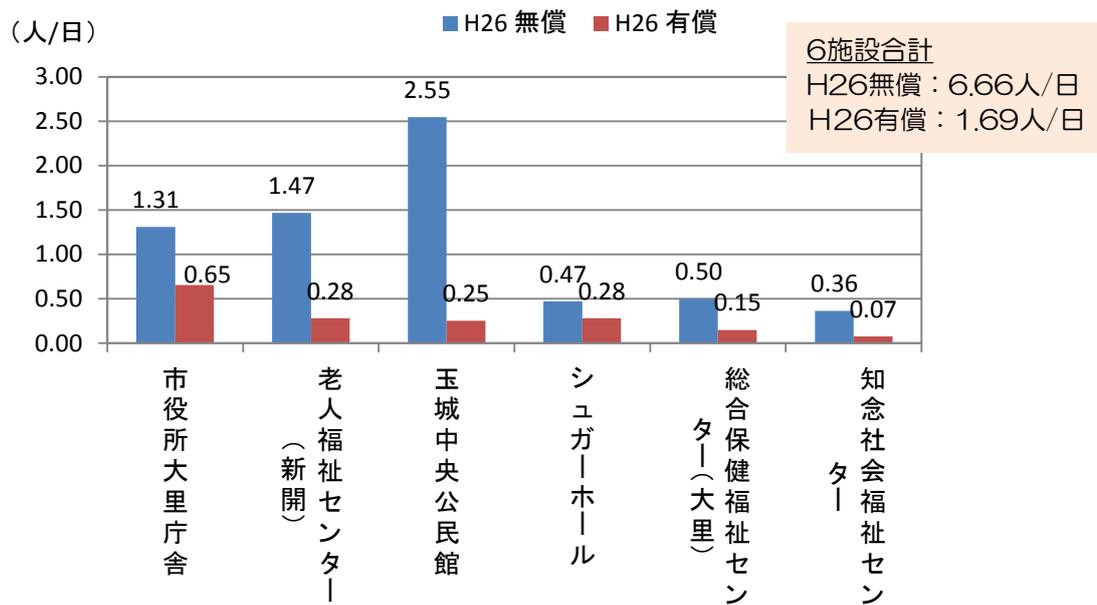
図 4-22.「おでかけなんじい」利用者の同行者数と内訳(観光客、H26 無償)

2-3 「おでかけなんじい」利用での立ち寄り先

(1) 市民の立ち寄り先

1) 公共施設への立ち寄り

- H26 無償実験では、「玉城中央公民館」への立ち寄りが 2.55 人/日と多かったのが、H26 有償実験では 0.25 人/日と 2.30 人/日、90%の大幅な減少となっている。
- その他の公共施設も大幅に利用者が減少、6 施設の合計で H26 無償実験 6.66 人/日から H26 有償実験では 1.69 人/日へと 4.97 人/日、75%減少している。

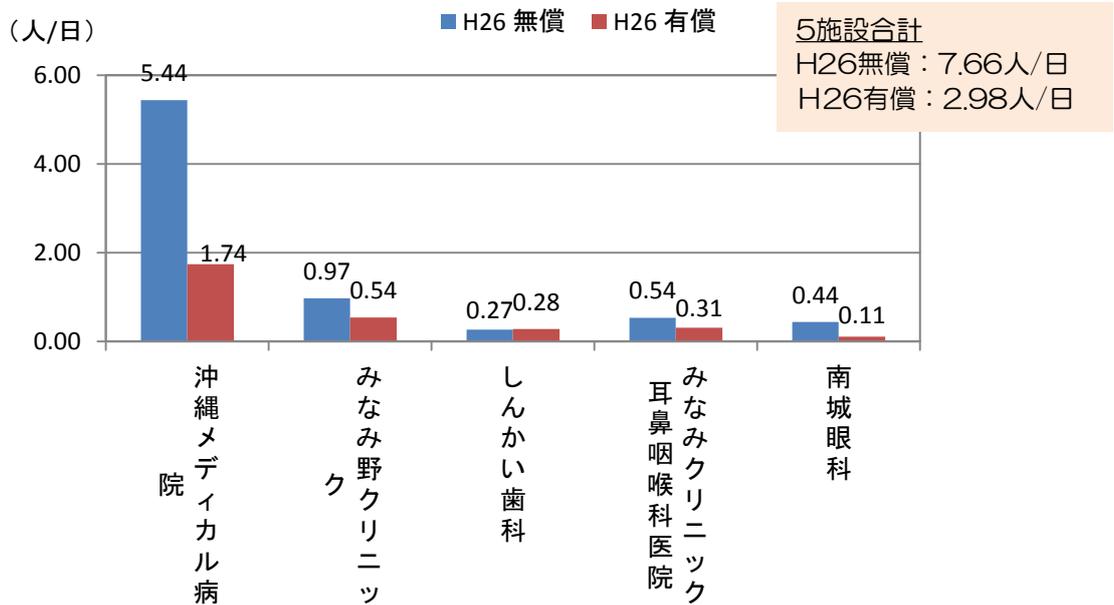


データ:システムデータ

図 4-23.「おでかけなんじい」利用による公共施設への立ち寄り状況の変化(市民)

2)医療機関への立ち寄り

- 主な医療機関への立ち寄りは、5施設合計でH26 無償実験の7.66人/日からH26 有償実験では2.98人/日へと4.68人の減少となっている。
- H26 無償実験では5.44人/日と非常に利用者が多かった「沖縄メディカル病院」であるが、H26 有償実験では1.74人/日と3.70人/日、68%の大幅な減少となっている。(診察以外にも、入院患者のお見舞いでの利用が大きく減少していると思われる)
- なお、「しんかい歯科」はこの5施設の中では唯一、利用者数が増加している。



データ:システムデータ

図 4-24.「おでかけなんじい」利用による医療機関への立ち寄り状況の変化(市民)

3) 商業施設への立ち寄り

- 主な商業施設への立ち寄りは、7施設合計でH26 無償実験の 10.84 人/日からH26 有償実験では 7.82 人/日へと 3.02 人/日、28%の減少となっている。
- 多くの商業施設への立ち寄り者数が半減している中で、「ザ・ビッグ佐敷」はH26 無償実験の 2.25 人/日からH26 有償実験では 2.55 人/日へと 0.30 人/日、13%増加している。

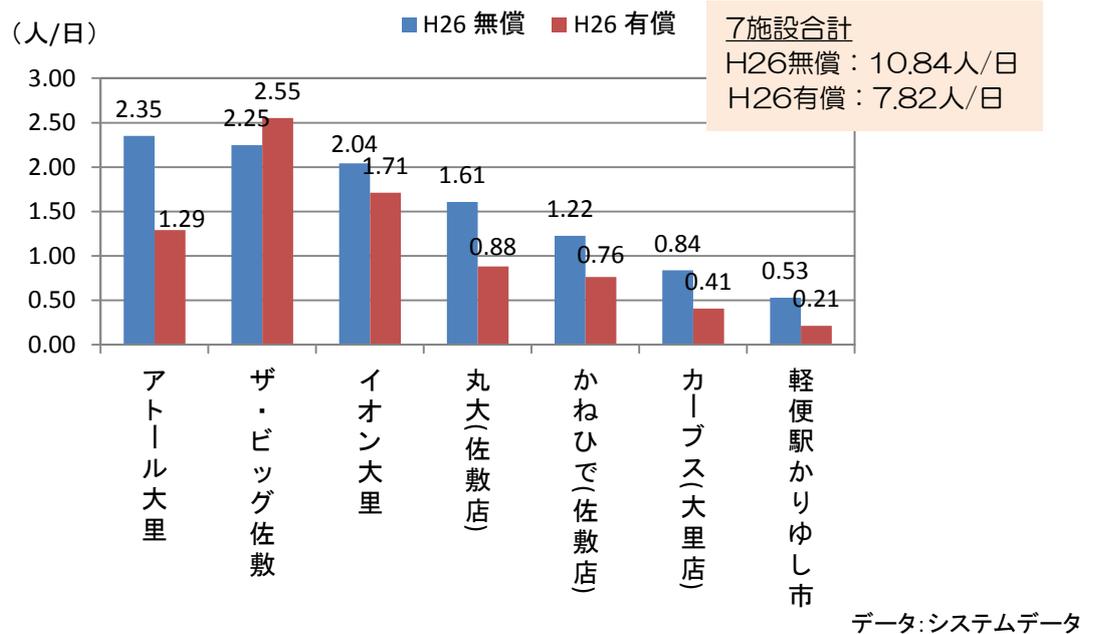
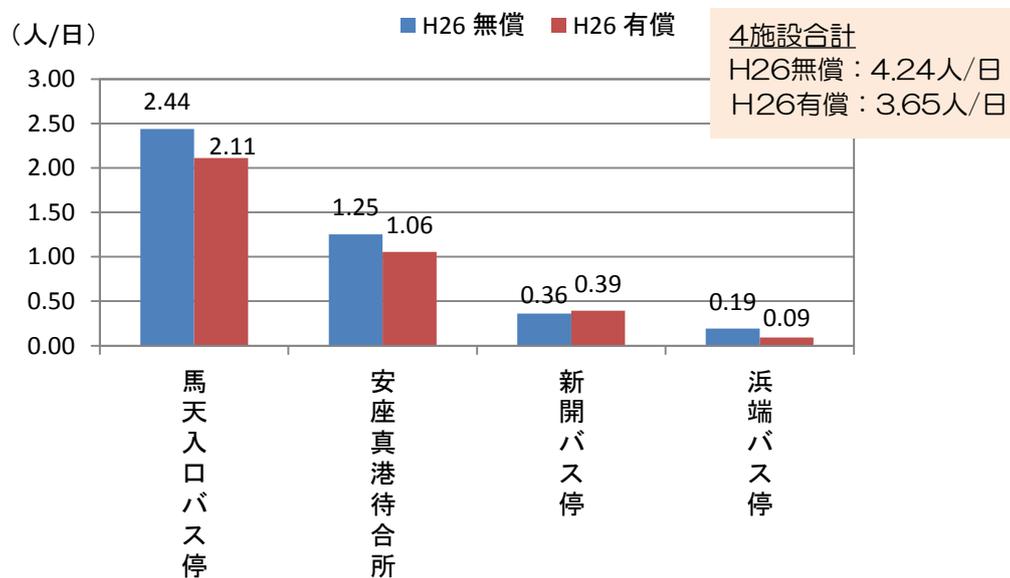


図 4-25.「おでかけなんじい」利用による商業施設への立ち寄り状況の変化(市民)

4)交通施設への立ち寄り

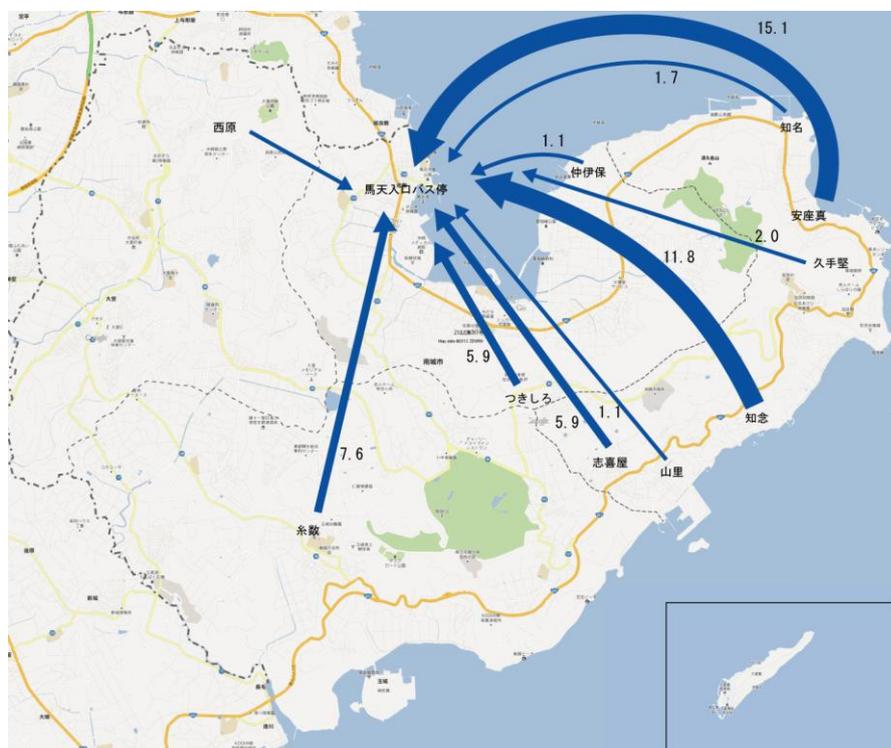
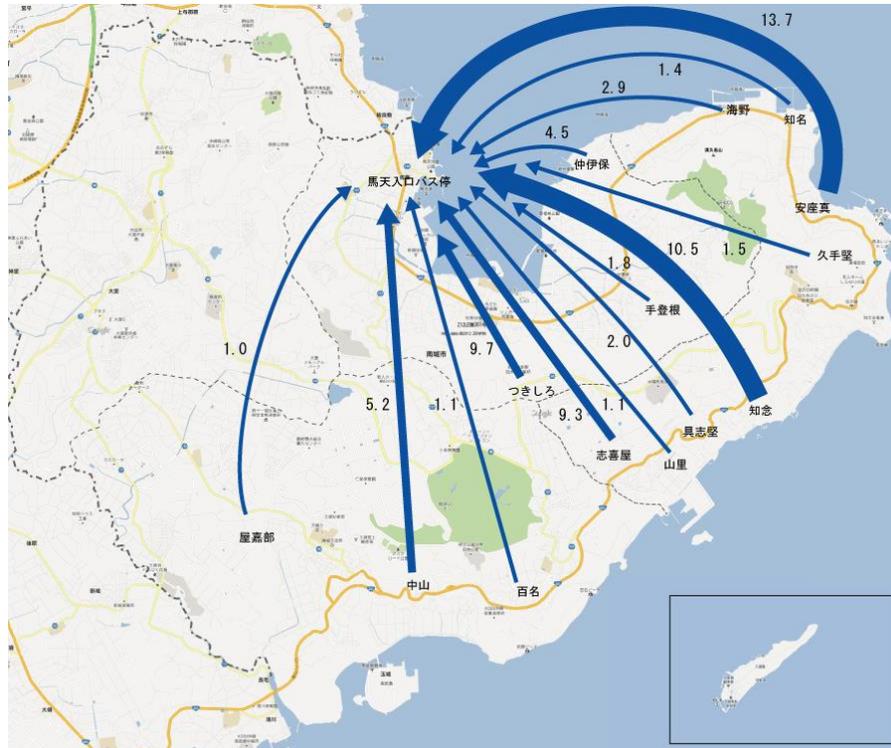
●主な交通施設への立ち寄りは、4施設合計でH26 無償実験の 4.24/日からH26 有償実験では 3.65 人/日へと 0.59 人/日、14%の減少となっている。



データ:システムデータ

図 4-26.「おでかけなんじい」利用による交通施設への立ち寄り状況の変化(市民)

- 市民の馬天入口バス停まで主な出発地をみると、無償、有償ともに「知念地域」からの利用が多くなっている。
- とくに、「安座真」、「知念」からの利用者は1ヶ月あたり10人を超える利用があり、有償時は無償時よりも利用者数がやや増加している。

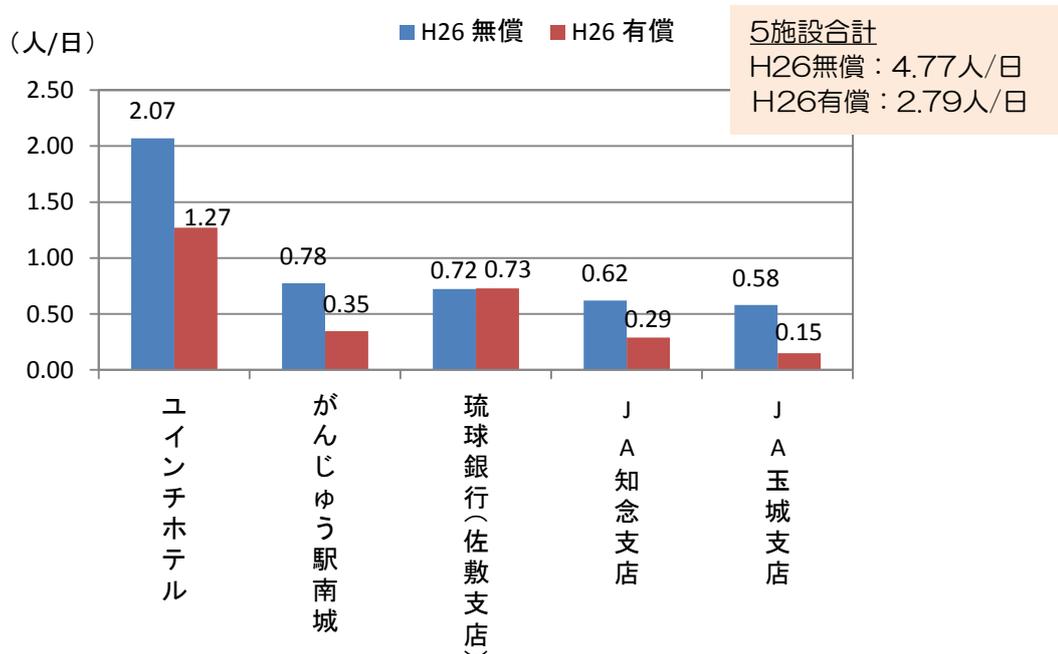


データ:システムデータ

図 4-27.市民の馬天入口バス停まで主な出発地と1ヶ月あたりの利用者数(上:H26 無償、下:H26 有償)

5)その他施設への立ち寄り

- その他施設への立ち寄りは、5施設合計でH26 無償実験 4.77 人/日からH26 有償実験では 2.79 人/日へと 1.98 人/日、42%の減少となっている。
- 市民の「ユインチホテル」、「がんじゅう駅南城」といった観光施設への立ち寄り（おそらく通勤目的の利用と思われる）もみられるが、H26 無償実験に比べ、H26 有償実験では、それぞれ 39%減、55%減と大幅に減少している。
- 「琉球銀行（佐敷支店）」は H26 無償実験の 0.72 人/日から H26 有償実験では 0.73 人/日とほぼ横這いとなっている。
- 「JA 知念支店」、「JA 玉城支店」はそれぞれ 53%減、74%減と大きく減少している。

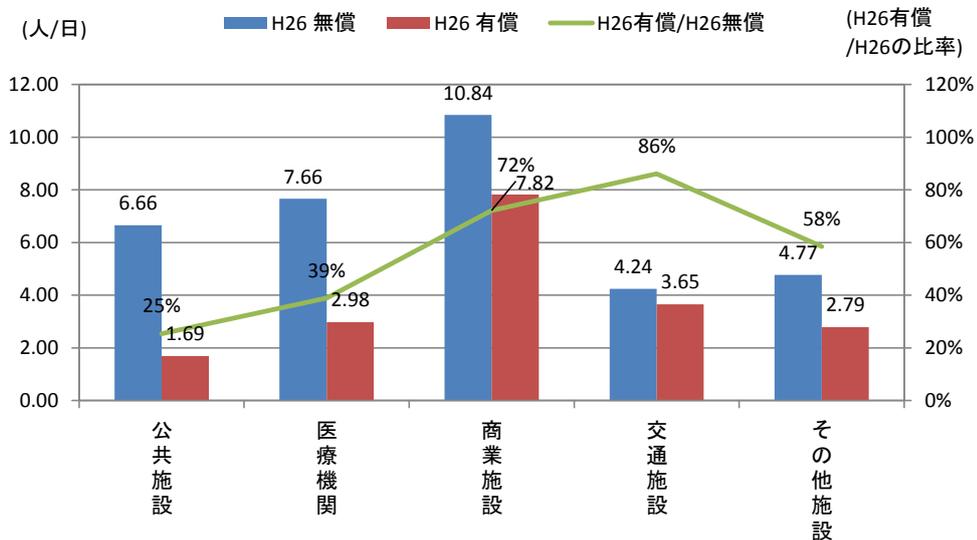


データ:システムデータ

図 4-28.「おでかけなんじい」利用によるその他施設への立ち寄り状況の変化(市民)

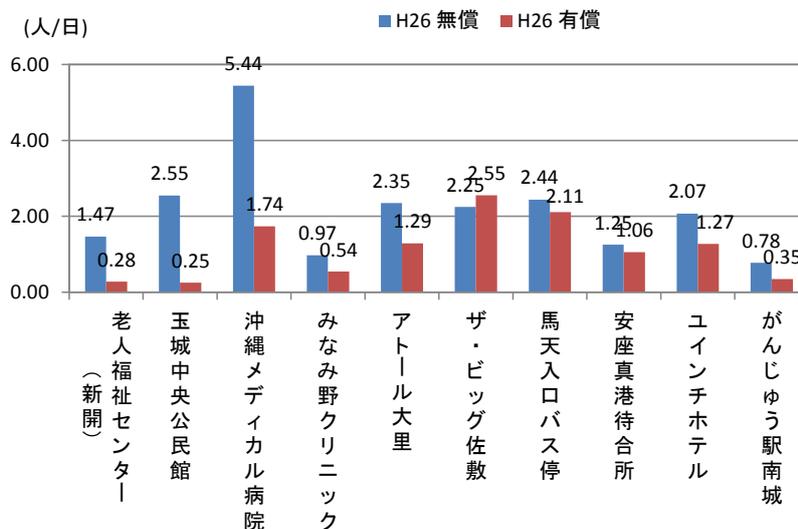
6)市民の立ち寄り先のまとめ

- H26 無償実験から H26 有償実験への移行により、「おでかけなんじい」の利用者数は、92.2 人/日から 53.0 人/日へと 43%減少しているが、市民の立ち寄り先別にみても、「公共施設」の立ち寄りが H26 無償実験に比べ、25%の利用（75%減）と大幅に減少している。
- また、「医療機関」、「その他施設」への立ち寄りもほぼ半減している。
- 一方、「交通施設」については、H26 無償実験の 86%の利用（14%減）にとどまっております、市外へのアクセス拠点となる「馬天入口バス停」等の利用が大幅に減少していないことから、市外への移動のニーズ・重要性は高い、もしくは家族等の送迎での代替が難しい状況であることがうかがえる。



データ:システムデータ

図 4-29.「おでかけなんじい」利用での立ち寄り先の区分別の変化(市民)



データ:システムデータ

図 4-30.「おでかけなんじい」利用での主な施設への立ち寄り状況(市民)

2-4 利用状況の変化のまとめ

- 「おでかけなんじい」の利用者数は、平成25年度12月の実験開始から順調に増加してきたが、H26年度12月の有償化により、市民、観光客ともに利用者数はほぼ半減した。
- 市民の「おでかけなんじい」の利用は、男女比が2：8と女性の割合が高く、有償化によっても比率は変化していない。
- また、年齢構成は、有償化により65歳未満の利用割合が3%から13%に増加、年代別では、「50代」が1,050%増と大幅に増加している。
- 市民の立ち寄り先は、「公共施設」が73%減と大幅に減少、「医療機関」、「商業施設」もほぼ半減しているが、「交通施設」については2割減にとどまっており、市外への移動については、移動の必要性が高く、有償化しても市外の路線バスへのアクセス手段として機能している状況がうかがえる。
- なお、観光客については季節変動が大きいいため、H27有償実験の結果を踏まえ、利用実態や変化の要因分析等を行う。

第5章 実証実験の評価

1 デマンド交通の求められる役割からみた評価

ここでは、平成 24 年度のデマンド運行実験計画策定時に検討したデマンド交通の求められる役割と評価の視点及び評価項目にもとづき、今年度の実証運行の評価を行った。

表 5-1 デマンド交通の評価の視点、評価項目、把握方法

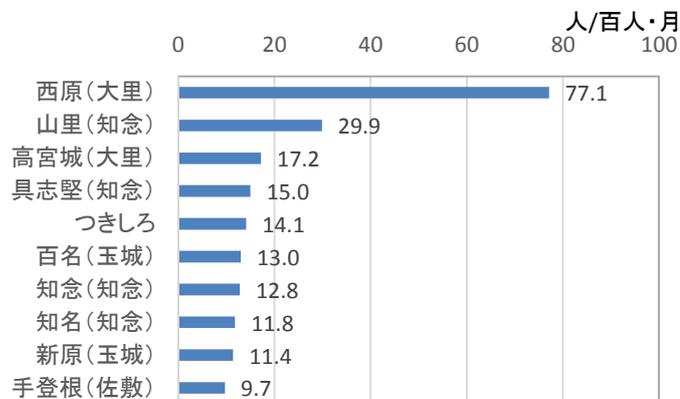
求められる役割	評価の視点	評価項目
公共交通空白・不便地域における路線バスの補完	公共交通の利用が不便な地域で利用されているか	●人口あたりのデマンド利用者数と路線バスの運行本数との関係
既存の路線バス等と一体となった公共交通ネットワークの形成	公共交通と連携した利用がなされているか	●交通結節点までの利用状況
持続可能な公共交通ネットワークの形成	効率的な運用形態となっているか	●デマンド交通の平均乗車人員
	南城市の公共交通に対する財政負担は減少しているか	●デマンド交通の運営コスト
南城市への観光需要の喚起	南城市への観光客の立ち寄りが増加しているか	●デマンドバスがなかった場合の南城市来訪の有無
	これまで南城市をあまり訪れることがない属性の方の来訪が増加しているか	●公共交通（路線バス）で南城市を訪れた方の割合
	通過型観光から滞在型観光への展開が図れているか	●南城市内での滞在状況
	南城市訪問の満足度、再来訪意向は高まっているか	●南城市観光の満足度 ●南城市への再来訪意向
南城市の活性化に向けた交通弱者の外出支援	交通弱者の外出機会は増加しているか	●デマンドバスがなかった場合の外出の有無 ●外出頻度の変化
	これまで移動手段がないためにできなかった活動が行えているか	●外出目的の変化

1-1 公共交通空白地域・不便地域における路線バスの補完

- 有償実験期間中（H27.2）における65歳以上人口百人あたりの「おでかけなんじい」の利用者数を行政区別にみると、最も利用者が多かったのは、「西原」の77.1人/月で、次いで「山里」、「高宮城」、「具志堅」、「つきしろ」の順となっている。
- 65歳以上人口あたりの「おでかけなんじい」の利用者数が多いのは、路線バスの運行本数が少ない知念半島や丘陵地に位置する行政区であり、公共交通の利便性が低い地域において、路線バスを補完する役割を果たしているといえる。



図 5-1.65 歳以上人口あたりの「おでかけなんじい」利用者数が多い行政区と路線バスの運行本数

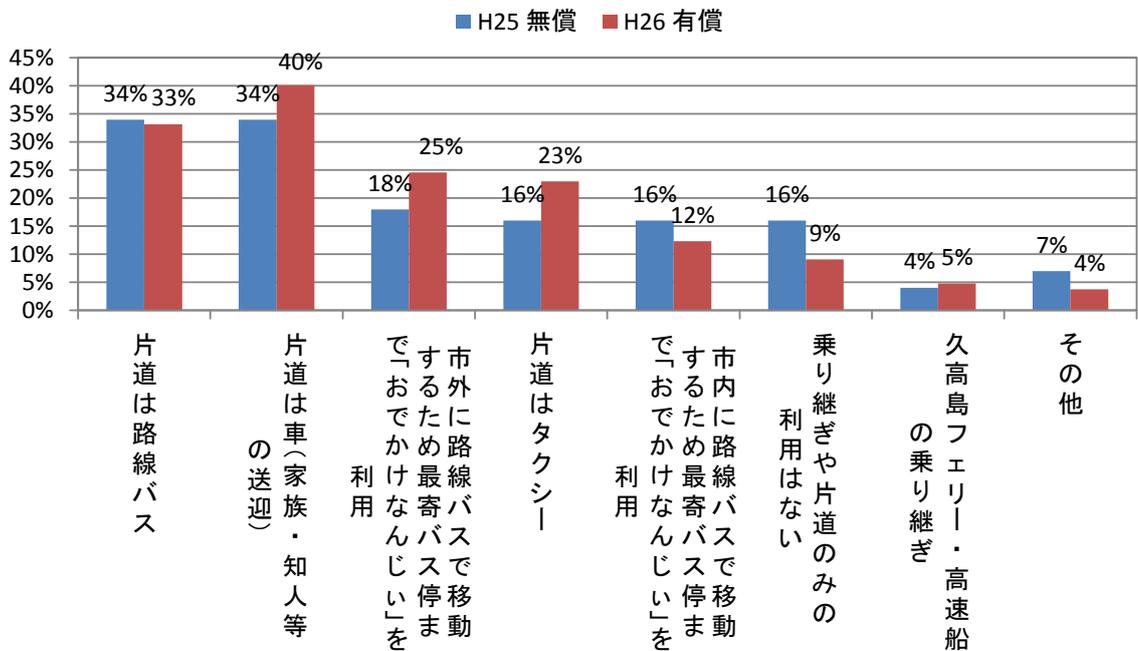


データ:システムデータ

図 5-2.65 歳以上人口百人あたりの「おでかけなんじい」利用者数の上位 10 行政区 (H27.2、自宅発着者)

1-2 既存の路線バス等と一体となった公共交通ネットワークの形成

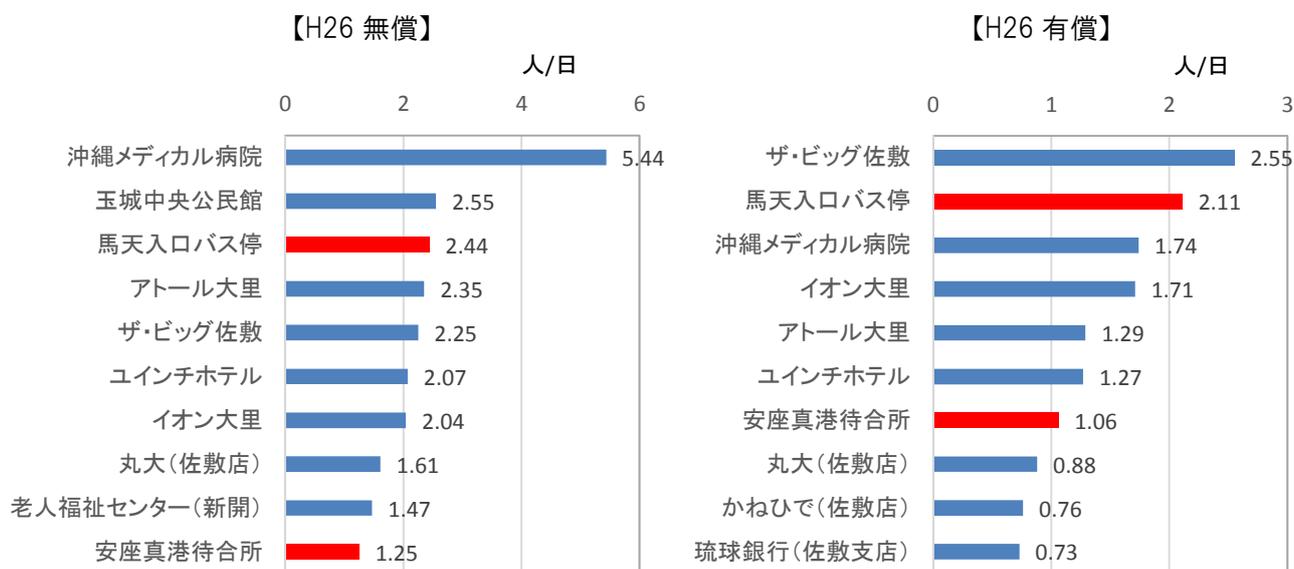
- 「おでかけなんじい」を「乗り継ぎや片道のみ利用はない」と回答した方の割合は、H25 無償実験の 16%から、H26 有償実験では 9%と約半減しており、9 割の方が有償実験中に「おでかけなんじい」と他の路線バス等の乗り継ぎ利用を行っている。
- 「片道は車」が H25 無償実験の 34%から H26 有償実験では 40%と 6 ポイント増加、「片道はタクシー」が H25 無償実験の 16%から H26 有償実験では 23%と 7 ポイント増加しており、有償化に伴い往復とも「おでかけなんじい」利用ではなく、片道は送迎やタクシー利用が多くみられるようになってきている。
- 市内への移動のために路線バスと乗り継ぎをする方は減っているが、「市外に路線バスで移動するため最寄りバス停まで『おでかけなんじい』を利用」した方の割合は、H25 無償実験の 18%から H26 有償実験では 25%と 7 ポイント増加しており、有償化後も「おでかけなんじい」が市外への路線バスの乗り継ぎ手段として利用されている状況がうかがえる。



データ:H25、H26 登録者アンケート

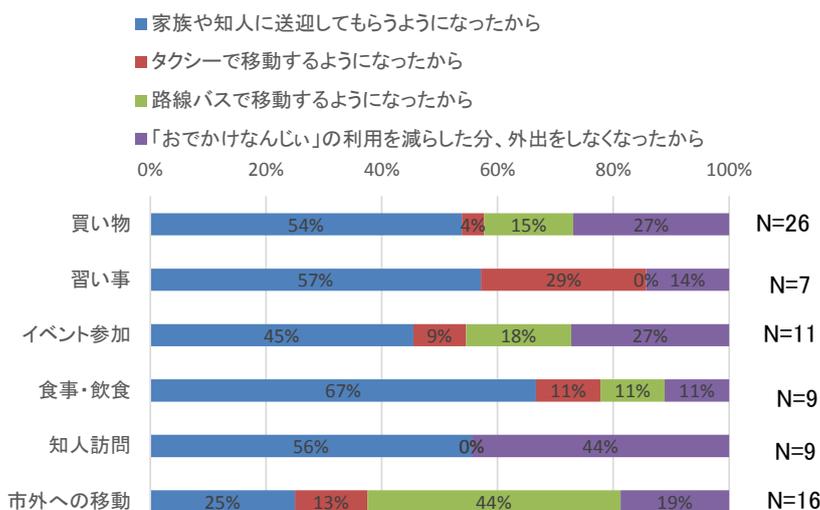
図 5-3.「おでかけなんじい」と他の移動手段を組み合わせた移動の有無(複数回答)

- H26 無償実験、H26 有償実験における市民の「おでかけなんじい」利用での立ち寄り先をみると、H26 無償では「馬天入口バス停」が2.44 人/日で3位、「安座真港待合所」が1.25 人/日で10位と上位に位置している。
- さらに、H26 有償実験時には、「馬天入口バス停」が2.11 人/日で2位、「安座真港待合所」が1.06 人/日で7位とそれぞれ順位をあげており、有償化により「おでかけなんじい」の交通結節点までのアクセス手段としての役割は強まっている。
- なお、有償化後に、市外への移動において「おでかけなんじい」利用が減った理由をみると、他の移動目的に比べ、外出をあきらめた方は少なく、44%の方は「路線バスで移動するようになったから」と回答するなど何らかの形で市外への移動が行われている。



データ:システムデータ

図 5-4.「おでかけなんじい」利用での立ち寄り先上位 10 箇所(左:H26 無償、右:H26 有償)



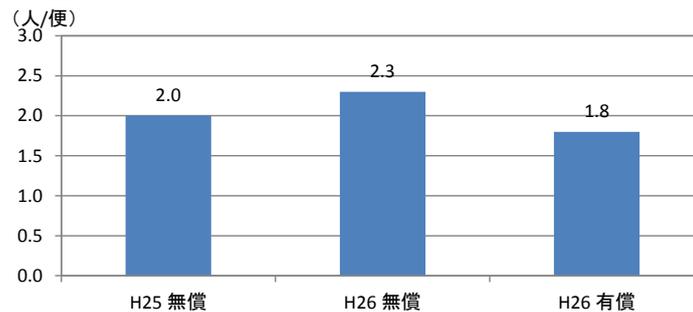
データ:H26 登録者アンケート

図 5-5.有償化で「おでかけなんじい」の利用が減少した目的別の理由(再掲)

1-3 持続可能な公共交通ネットワークの形成

(1) 効率的な運行

- 1 便あたりの利用者数は、H25 無償の 2.0 人/便から H26 無償では 2.3 人/便へと増加したが、H26 有償では利用者数の減少もあり 1.8 人/便まで減少している。
- H26 無償時においても平均乗車人員は 2.3 人/便と、10 人乗り車両（運転手・助手席を除くと乗客は 8 人乗り）においては 5.7 人/便の余裕があり、乗車効率の向上に向けた改善の余地は大きいといえる。

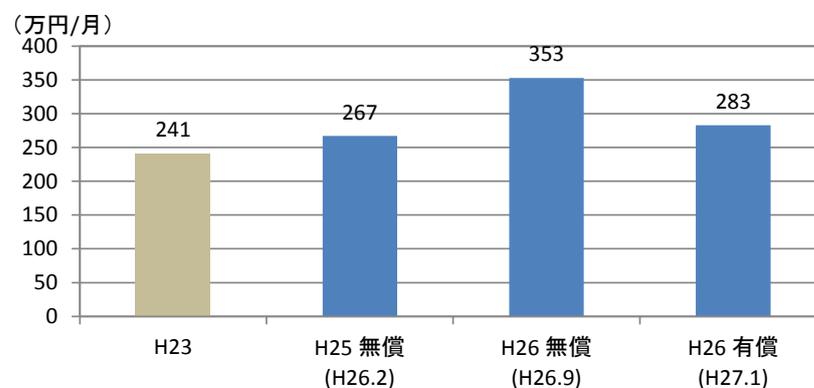


データ:システムデータ

図 5-6.「おでかけなんじい」の 1 便あたりの利用者数

(2) 財政負担の軽減

- デマンド実証運行に運行経費は、H25 無償実験の 267 万円/月から H26 有償 (H26.9) では 353 万円/月へと増加したが、有償化による利用者数の減少により H27.1 には 283 万円に減少している。
- 有償時は、1 人 300 円の運賃収入があり、1 月の利用者数が約 1,200 人であることから、収入は約 36 万円/月であり、これを控除すると 1 月は約 247 万円/月の支出となる。
- なお、H27.1 における「おでかけなんじい」の財政負担は 241 万円/月と、目安となる H23 における南城市の公共交通に関する支出（巡回バス、スクールバス、がんじゅうバス、路線バスへの補助金）241 万円/月をやや上回る水準となっている。



※H23 は、巡回バス、スクールバス、がんじゅうバス、路線バス補助金の合計

データ:南城市

図 5-7.「おでかけなんじい」の運行経費

1-4 南城市への観光需要の喚起

(1) 観光客の来訪促進

- H25 無償、H26 無償の利用者アンケートによると、「おでかけなんじい」又は「観光おまかせなんじい」がなければ、10%~18%の方は南城市を訪問しなかったと回答しており、一定の南城市への来訪促進効果があるといえる。

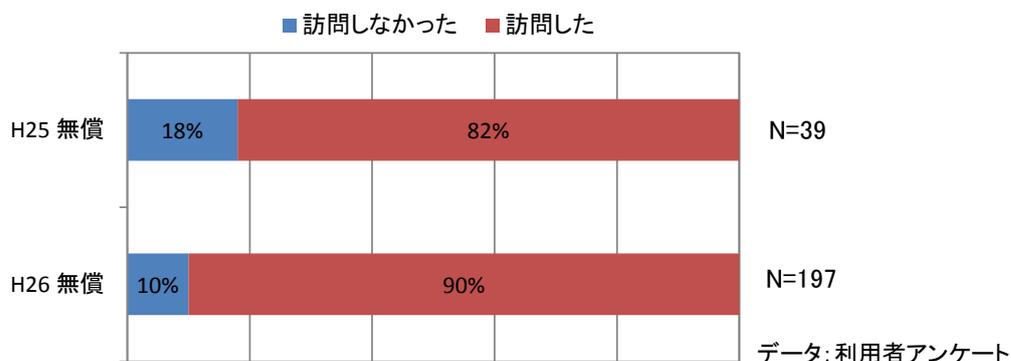
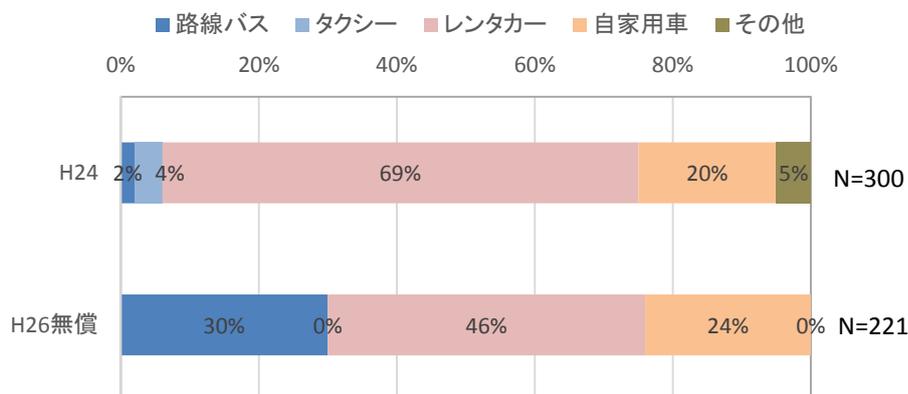


図 5-8.「おでかけなんじい」等がなかった場合の南城市来訪意向

(2) 新たな観光客層の掘り起こし

- H24 に南城市内の観光施設で実施したアンケートでは、南城市への観光客の約 9 割がレンタカー・自家用車で来訪者が占め、公共交通での来訪者がほとんどいない状況であったため、デマンド導入にあたっては、公共交通利用の観光客の取り込みも目的の一つとしていた。
- 「路線バス」で南城市に来訪した観光客の割合は、H24 は 2%に過ぎなかったが、デマンド利用者には限定されるが、H26 無償では 30%に増加しており、路線バス等公共交通での来訪者を取り込んでいる状況がうかがえる。



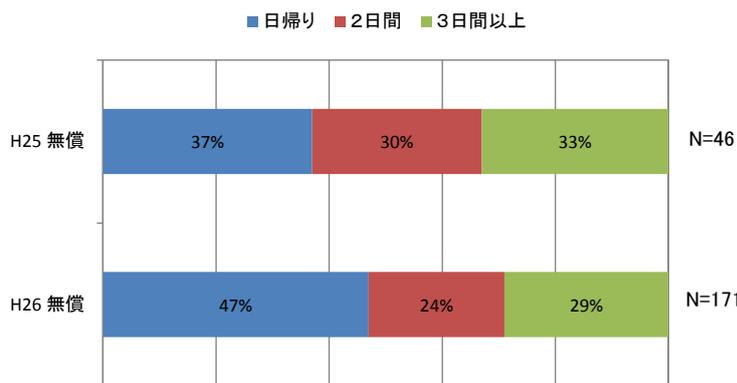
データ: H24 観光客アンケート

H26: 利用者アンケート

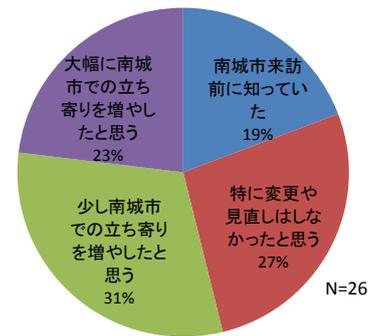
図 5-9.南城市までの交通手段(H24 は観光客全体、H26 はデマンド利用者)

(3) 滞在型観光への展開

- 「おでかけなんじい」、「観光おまかせなんじい」利用の観光客の南城市滞在日数は、「日帰り」がH25 無償実験で37%、H26 有償実験で47%と多くなっている。
- なお、H26 無償実験の利用者アンケートでは南城市来訪前に「おでかけなんじい」を知っていれば、31%の方は「少し南城市での立ち寄りを増やしたと思う」、23%の方は「大幅に南城市での立ち寄りを増やしたと思う」と回答しており、事前の情報提供による滞在型観光への展開可能性があることが把握された。



データ: 利用者アンケート

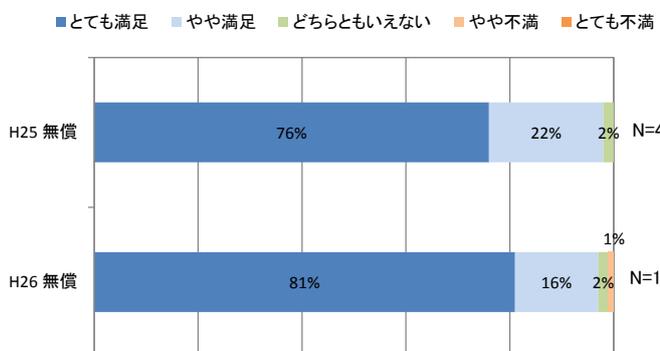


データ: 利用者アンケート(H26 無償)

図 5-10. 利用者の南城市滞在日数 図 5-11. 南城市来訪前の「おでかけなんじい」認知時の行程の見直し可能性

(4) 南城市観光の満足度・再来訪意向の向上

- H25 無償実験、H26 無償実験における利用者アンケートで、8割の方が南城市の観光に「とても満足」、同じく8割の方がまた南城市を訪れたいかという質問に「とても思う」と回答しており、高い満足度、再来訪意向が得られている。



データ: 利用者アンケート



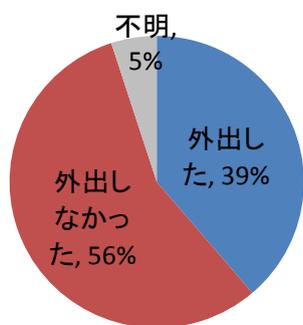
データ: 利用者アンケート

図 5-12. 「おでかけなんじい」等利用者の南城市観光の満足度 図 5-13. 「おでかけなんじい」等利用者の南城市再来訪意向

1-5 南城市の活性化に向けた外出支援

(1) 外出支援の状況

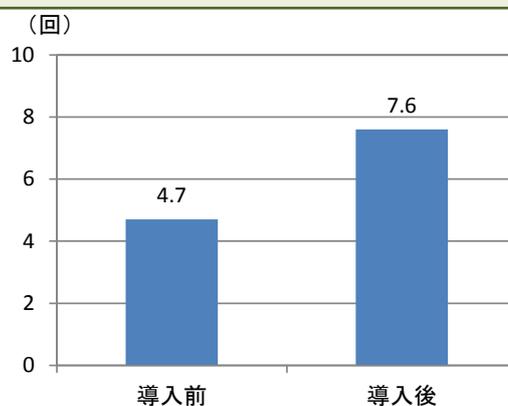
- H25 無償実験の利用者アンケートによると、「おでかけなんじい」がなければ56%の方は外出しなかったと回答している。
- また「おでかけなんじい」導入後に外出回数が増えた方の外出頻度は、導入前の4.7回/月から導入後は7.6回/月へと2.9回/月増加している。
- H26 有償実験時に、「おでかけなんじい」を利用した方の71%は有償後も外出回数は「あまり変わらない」と回答しており、「おでかけなんじい」による外出支援の効果が継続している状況がうかがえる。
- ただし、外出回数が減少した方の外出頻度は無償時の5.7回/月から有償時は2.6回/月へと半減しており、有償時における外出支援の取組検討が課題となる。



(N=80)

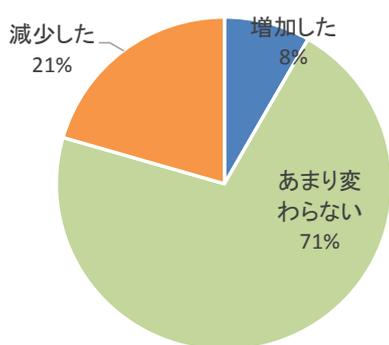
データ: 利用者アンケート(H25 無償)

図 5-14.「おでかけなんじい」がなかった場合の外出の有無

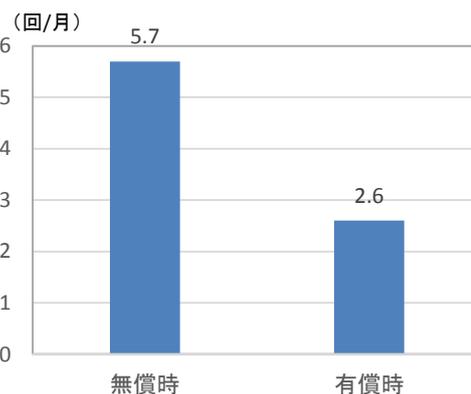


データ: 登録者アンケート(H25 無償)

図 5-15.「おでかけなんじい」導入後の外出頻度の変化



N=229

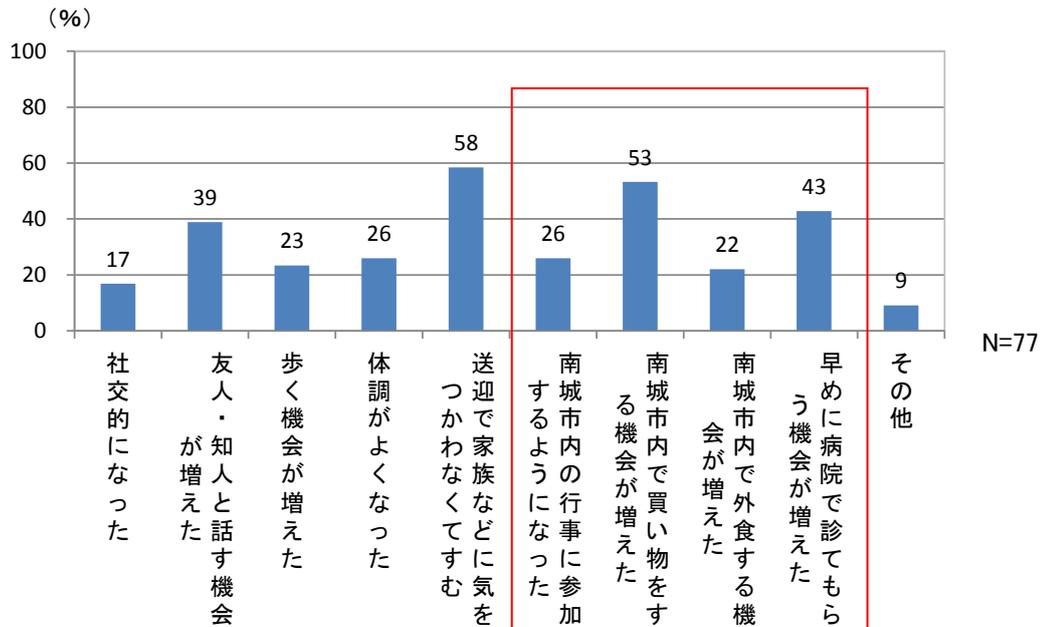


データ: 登録者アンケート(H26 有償)

図 5-16.「おでかけなんじい」有償化後の外出頻度の変化と減少した方の移動頻度の変化

(2)外周機会の創出

●H26 無償時の利用者アンケートによると、「おでかけなんじい」導入により 53%の方は、「南城市内で買い物をする機会が増えた」、43%の方は「早めに病院で診てもらえる機会が増えた」、26%の方は「南城市内の行事に参加するようになった」、22%の方は「南城市内で買い物する機会が増えた」と回答しており、外出機会を創出している状況がうかがえる。



データ: 利用者アンケート(H26 無償)

図 5-17.「おでかけなんじい」導入後の外出機会の変化

1-6 デマンドバスの求められる役割からみた実証実験の評価のまとめ

1-1～1-5 より、デマンドバスの求められる役割からみた実証実験の評価は、以下のように整理される。

表 5-2 デマンドバスの求められる役割からみた実証実験の評価のまとめ

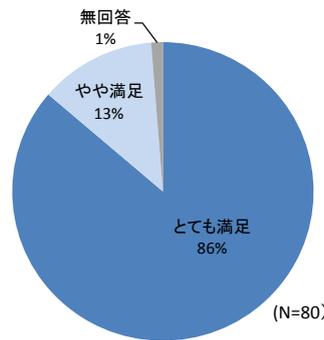
求められる役割	評価の視点	評価結果
公共交通空白・不便地域における路線バスの補完	公共交通の利用が不便な地域で利用されているか	●路線バスの運行本数が少ない行政区での利用が多く、公共交通不便地域で路線バスを補完
既存の路線バス等と一体となった公共交通ネットワークの形成	公共交通と連携した利用がなされているか	●実証実験中に多くの方が乗り継ぎ利用を経験 ●馬天入口バス停や、安座真船待合所まで多くの方が利用、市外への交通機関までのアクセス手段として機能
持続可能な公共交通ネットワークの形成	効率的な運用形態となっているか	●1便あたりの乗車人員が H26 無償時においても 2.3 人/便と余裕があり、改善の余地が大きい
	南城市の公共交通に対する財政負担は減少しているか	●H26 有償時の支出は、既存の公共交通の支出をやや上回る
南城市への観光需要の喚起	南城市への観光客の立ち寄りが増加しているか	●デマンドバスがなかった場合、1～2割の方は南城市を訪れなかったと回答、一定の効果発現
	これまで南城市をあまり訪れることがない属性の方の来訪が増加しているか	●デマンドバス利用者の3割は路線バスでの南城市来訪者であり、一定の効果発現
	通過型観光から滞在型観光への展開が図れているか	●日帰り客は依然として多いものの、評価に向けては利用者の南城市滞在状況の実態把握が必要
	南城市訪問の満足度、再来訪意向は高まっているか	●デマンドバス利用者の南城市観光の満足度、再来訪意向はともに高く、観光需要の喚起に寄与
南城市の活性化に向けた交通弱者の外出支援	交通弱者の外出機会は増加しているか	●過半数の方はデマンドバスがなければ外出をしなかったと回答、外出促進効果を確認
	これまで移動手段がないためにできなかった活動が行えているか	●南城市内での買い物機会や、早めの診察機会の増加などを確認

2 利用者の評価

2-1 市民の評価

(1) 満足度

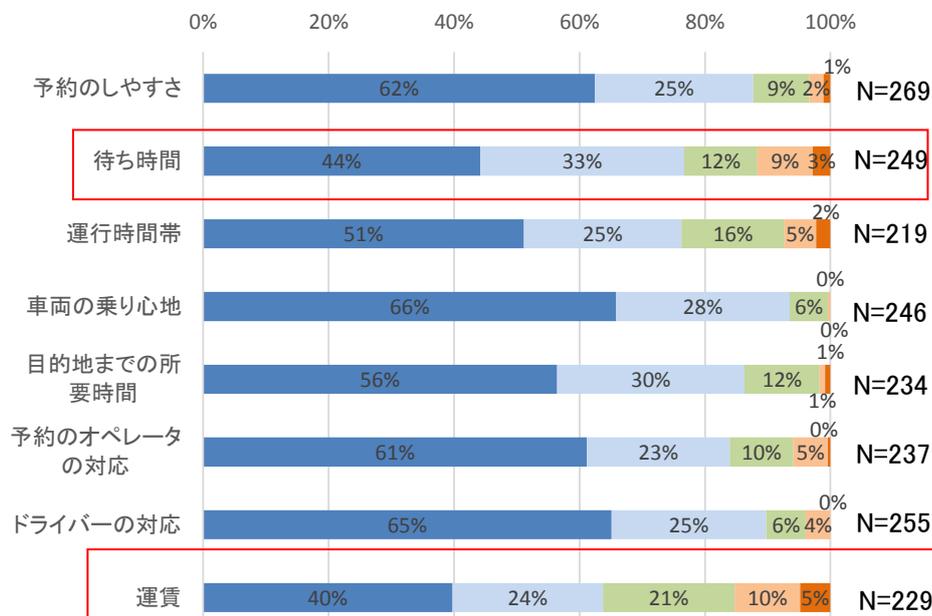
- H25 無償実験における利用者アンケートによると、利用者 86%が「おでかけなんじい」に対して「とても満足」と回答しており、高い満足度を得られている。
- H26 有償実験における登録者アンケートによると、各項目の満足度は概ね高いものの、「待ち時間」については 12%、「運賃」については 15%の方が「不満」又は「やや不満」と回答しており、改善の余地があると思われる。



データ: 利用者アンケート(H25 無償)

図 5-18.「おでかけなんじい」利用の満足度

■ とても満足 ■ やや満足 ■ どちらともいえない ■ やや不満 ■ とても不満

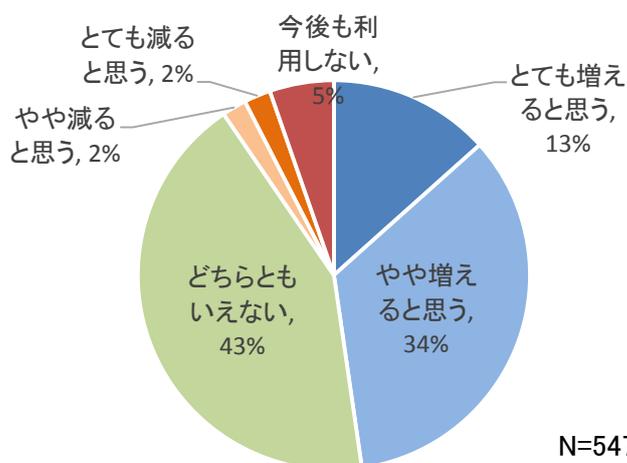


データ: 登録者アンケート(H26 有償)

図 5-19.「おでかけなんじい」利用の項目別の満足度

(2)今後の利用意向

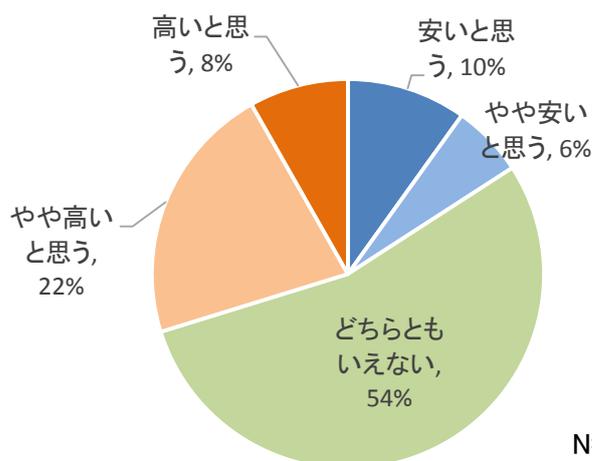
- H26 有償実験時の登録者アンケートによると、今後の利用意向について「とても増えると思う」が13%、「やや増えると思う」が34%とあわせて47%の方が増加意向を示している。
- 運賃については、「どちらともいえない」と回答した方が54%と半数を占め、「やや高いと思う」・「高いと思う」があわせて30%と、「安いと思う」・「やや安いと思う」の16%を上回っている。
- なお、運賃が「高いと思う」又は「やや高いと思う」と回答した方の適正と思われる運賃は平均183円となっている。



N=547

データ:登録者アンケート(H26 有償)

図 5-20.「おでかけなんじい」の今後の利用意向



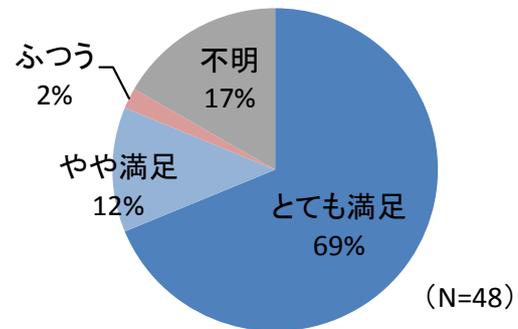
N=537

データ:登録者アンケート(H26 有償)

図 5-21.「おでかけなんじい」の料金に対する意向

2-2 観光客の評価

- H26 無償実験時の利用者アンケートによると、利用者の 69%が「とても満足」と回答しており、高い満足度を得られている。



データ:利用者アンケート(H26 無償)

図 5-22.「おでかけなんじい」利用の満足度

3 実証実験の評価のまとめ

1、2より、実証実験の評価について整理した。

- 公共交通の利便性が低い地域で多く利用されており、「おでかけなんじい」は公共交通不便地域において路線バスを補完する交通手段として機能しているといえる。
- 有償化により、市民の「おでかけなんじい」利用による公共施設、医療機関への立ち寄りには大幅に減少したが、馬天入口バス停をはじめとする交通施設への移動は大きく減少しておらず、交通結節点までのアクセス確保のニーズ・必要性の高さが確認された。
- 「おでかけなんじい」の導入に伴い、南城市内での新たな外出機会が創出されるなど地域の活性化にもメリットがあることが確認された。
- 「おでかけなんじい」等利用の観光客の利用満足度は高く、さらに「おでかけなんじい」の積極的なPR活動を行うことで観光誘客の可能性があると把握された。
- 現時点では65歳未満の利用は、15%にすぎず、これらの方への周知を図るとともに、実験を継続することで65歳未満の方の移動ニーズを見極める必要がある。

第6章 課題の整理と改善策(案)の検討

1 課題の把握

4章で整理した実証実験の利用実態や、5章で整理した評価より実証実験の課題は以下のよう
に整理される。

課題 1: 料金体系の見直し

利用者の満足度の評価は概ね高いものの、料金については12%の方が不満を感じており、特に近距離での利用や、団体での利用が割高に感じられている。また、交通会議では65歳以上の方や、運転免許返納者への料金割引が提案されるなど政策的な面からも料金体系の再検討が求められており、採算性や、既存の路線バス、タクシーとのバランスを考慮しながら、見直しが必要である。

課題 2: 運行時間の見直し

登録者アンケートでは、夜間や、早い時間帯からの運行を望む意見があり、また、65歳未満の利用が進んだ場合の通勤・通学利用を考慮した早朝の運行などが課題としてあげられ、本格実験までに、試行的に、早朝や夜間に運行時間を拡大した運行を行い、本格実施での延長の可能性や条件等を整理する必要がある。

課題 3: 市外への円滑な移動支援

有償化時において「馬天入口バス停」をはじめとする交通施設への利用者の減少幅は小さく、「おでかけなんじい」と市外への路線バスを組み合わせた移動ニーズは高く、また移動の必要性が高いことが把握された。交通会議においても市外への移動を支援するため路線バス乗り継ぎ者への料金割引が提案され、また、H26有償時の登録者アンケートでは、隣接市町村まで運行して欲しいといった要望もあることから、「おでかけなんじい」と路線バスのスムーズな連携など市外への円滑な移動支援が求められている。

課題 4: 地域との連携策の検討

登録者アンケートでは、「おでかけなんじい」を利用しやすくするためのサービスとして、「回数券・定期券の発行」以外にも、「スーパーの割引サービス」や「飲食店の割引サービス」などのニーズがあり、地域と連携した取組の検討及び実施が求められている。

2 他地区事例の収集整理

2-1 事例収集の概要

改善策検討の参考とするため、全国で実施されているデマンド型の乗合バスの事例をインターネットにより収集整理した。

表 6-1 収集整理した事例の概要

都道府 県名	市町村名	バス等の名称	運行形態			料金	運行頻度
			路線 定期 運行	路線 不定期 運行	区域 運行		
青森県	八戸市	南部バス岬台団地⇄ ラピア・ピアドゥ線	●			¥300	1日5~12便
秋田県	能代市	はまなす号	●			¥150	1日6~9便
		デマンド型(予約制) 乗合タクシー			●	¥200	平日4~6便
新潟県	三条市	ひめさゆり			●	¥400~	平日のみ
山形県	川西町	デマンド型乗合タク シー			●	¥500	1日9便
栃木県	栃木市	蔵タク			●	¥300	1日9便
埼玉県	加須市	かぞ絆号	●		●	¥100~	1日8・10便
岡山県	倉敷市	なかよし号		●		¥400	月~土 1日 14便
		やまびこ号	●	●		¥300 ~ ¥500	月~土 1日12便
		大室・高室・菰池団 地地区乗合タクシー		●		¥400	1日6便
		東酒津チェリータク シー		●		¥400	1日10便
		ふれあい号		●		¥300 ~ ¥500	1日4便
		真備地区コミュニテ ィタクシー	●		●	¥300	路線定期3便 区域運行3便
福岡県	八女市	ふるさとタクシー			●	¥300	1日8便
沖縄県	那覇市	ゆいゆい号	●			¥230	1日18便

なお、各事例の概略については次頁以降に整理している。

2-2 個別事例の概略

都道府県名	青森県	市町村名	八戸市		
運営主体	南部バス				
乗合バス等の概略					
名称	運行形態	利用対象	料金	運行時間	運行頻度
南部バス岬台団地⇄ラピア・ピアドゥ線	路線定期	一般	¥300	9:00~17:00	5~12便
運行エリア・利用状況等					

■ 取組の背景

地域と交通の状況

- 八戸市は青森県東部の中心都市である。八戸市には市営バスと民営の南部バスの路線が存在し、近年、市営バスの一部路線が南部バスに移管されている。一方、一部区間では両バスが競合している。
- 市民の交通手段としては自家用車が一般的であり、時間帯によって局所的に渋滞が発生する。

【道路交通渋滞】

活用メニュー(制度・協議会等)

- 市内には国・県・市の補助対象バス路線も存在するが、本件については公的補助や協議会等の関与は全くない。NPOのアイデア提案をもとに、ショッピングセンター2社と南部バスが協同で実施したものである。

【公的補助なし】

■ 実現したサービス

サービス内容

- 八戸市郊外の岬台団地と市内の2つの大型ショッピングセンター「ラピア(長崎屋)・ピアドゥ」(セブン・アンド・アイ・ホールディングス)を結ぶ路線として平成19年4月1日に従来の路線を見直して開設した。
- 同区間の運賃は、従来、距離に応じた運賃で最大400円であったが、300円までは距離に応じた運賃、300円を超える場合は300円と設定しなおした(下図)。
- 両ショッピングセンターのバス停で降車する旅客に、乗務員が「得とくチケット」を配布し、それらを店内で提示すると割引等のサービスを受けることができる。
- ダイヤは買物時間を想定し、岬台団地発が9時~15時台に1~2本/時、ショッピングセンター発が12時~17時台に1~2本/時設定されている。

【ルートの工夫】【他主体連携】【運賃の工夫】

■ プロセスと調整

市民団体の取り組み

- 平成19年1月、公共交通利用の啓発活動に取り組むNPO法人・青森県環境パートナーシップセンターの主催する市民会議が開催された。これはマイカーから公共交通機関への転換により環境的に持続可能な交通を目指すESTモデル地域に八戸市が指定されていることを踏まえたものである。
- この取り組みに南部バスの担当者が参加し、市民からの声に触発されたことが本事例の実現につながった。今後も南部バスは同市民団体からのアイデアを聴いて積極的に取り入れていくとしている。

【連携:NPO】

ショッピングセンターとの連携

- 2つのショッピングセンターとバス事業者は毎月会議を持ち連絡をとっており、「得とくチケット」の他、共通イベントの開催なども連携している。
- 例えばショッピングセンターでハロウィーンの仮装イベントを行った際、仮装してバスに乗った人は運賃を無料にしたり、運転手自ら仮装したりした。

【連携:地元企業】

岬台団地⇄ラピア・ピアドゥ線
～環境とおさいふにやさしいバス～

得とくチケット

- この券で、ラピアとピアドゥの提携店で所定の割引サービスを受け取ることができます。(提携店:割引サービス等別紙チラシに掲載しております。)
- ご利用の際は、必ず精算前にご提示ください。精算後のご提示は無効となります。
- この券の有効期限は下記の通りとさせていただきます。

南部バス・ラピア・ピアドゥ
NPO法人青森県環境パートナーシップセンター
八戸マイバス検討委員会

図. バス事業者、ショッピングセンター、NPO連名で発行している「得とくチケット」

人に、環境に優しいバス発車します!!

ショッピングセンター・市民団体・バス事業者が連携した新しいバス
岬台団地⇄ラピア・ピアドゥ
4月1日 運行開始!!

130円・300円の運賃で乗れる!!
回数券・定期券でもOK!!

南部バス株式会社
八戸営業所
0178-44-7111
http://www.nambu-bus.co.jp



岬台団地～ラピア・ピアドゥ線限定
「得とくチケット」協賛店・サービス内容一覧

ラピア 「得とくチケット」は、ラピアとピアドゥーヨーカードー前でお残りのお客様すべてに無料進呈しています。

- 長崎屋八戸店 ※イフショップ7階
- 当日お買上げレジシート1精算2000円以上のお買上げ100円引き

ピアドゥ

●イトーヨーカードー八戸沼館店	得とくチケット提示の方に、その場で空くひなひの抽選にて粗品プレゼント
●茶比伊	お食事の方 ソフトドリンク無料サービス
●伊達の里	お食事の方 ソフトドリンク無料サービス
●ファミール	お食事の方 ソフトドリンク無料サービス
●芝のラーメン屋さん	お食事の方 ソフトドリンク無料サービス
●バレットフラガ	フロント現像同時仕上げ200円引き
●メガネの玉屋	メガネの洗浄・調整 サービス
●ドールコーヒー	ドリンク全品50円引き
●スキップ	ソフトクリーム210円を80円にて販売
●ミスタードーナツ	ドーナツ商品 どれも10個980円
●THE・丼	全品10%引き
●豊作祭	お食事の方にドリンク1杯サービス
●マドラルドハリバーガー	ポテトSサイズ105円・ドリンクMサイズ105円にてご提供
●しよらく	そば・うどん 50円引き
●リトルスポン	お食事された方にリトルスイーツをサービス

●ご利用の際は、必ず精算前に得とくチケットをご提示ください。精算後のご提示は無効です。
●すべての協賛店におきまして、他の割引券との併用はできません。
●サービスは発行日より有効です。

出典:国土交通省総合政策局 HP

都道府県名	秋田県	市町村名	能代市
運営主体	能代市		

乗合バス等の概略

名称	運行形態	利用対象	料金	運行時間	運行頻度
はまなす号	路線定期	一般	¥150	8:00~16:00 10:00~15:00	月~土/1日9便 日/1日6便
デマンド型(予約制)乗合タクシー	区域運行	一般	¥200	7:30~15:30	平日4~6便

運行エリア・利用状況等

○はまなす号

・運行時間

・月曜日~土曜日(1日9便)

午前8時バスステーション発~午後4時バスステーション発

・日曜日(1日6便)

午前10時バスステーション発~午後3時バスステーション発



・料金

1回150円 ※未就学児童(小学校入学前)は無料

・利用回数が多い方は、秋北バス株式会社が発行する回数券を利用するとお得です。回数券は、車内及びバスステーションでお求めになれます。

・運行コース

約16キロメートルのコースを1時間かけて1周します。

買い物や通院、他の交通機関との乗り継ぎなどにどうぞご利用ください。

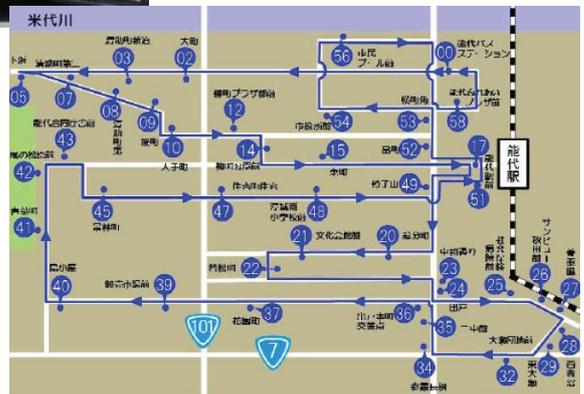
巡行バスに乗って、柳町へ買い物に行こう

市街地巡行バス「はまなす号」または 向能代・落合地区巡行バスに乗って、柳町へ買い物に行きませんか。

柳町商店街振興組合では、

毎月19日・20日の柳町お客様感謝デーに、

巡行バスを利用して下記店舗に来店し、お買い物いただいたお客様に、巡行バスの無料乗車券をさしあげています。



利用料金
1回 200円(未就学児童無料)

利用方法

電話又はFAXで予約をします
秋北タクシー 予約センター
TEL (0185)52-1111
FAX (0185)52-5358

予約内容

- ①お名前
- ②利用日
- ③便名
- ④停留所名

受付時間
1便……前日午後5時まで
2~6便……当日利用便の運行開始時刻60分前まで
●予約受付料金は乗車料に含まれても、直前に変更のある場合は、ご利用いただけません。変更料は別途お支払いとなります。●予約した便がキャンセルされた場合は、お申し付けください。●乗客の乗降は、予約された時刻に準じて行われます。



○デマンド型(予約制)乗合タクシー

運行区間

- ◆東雲地区 (東雲一区 ⇄ 組合病院)
- ◆檜山西部地区 (大森 ⇄ 東能代駅前)
- ◆富田・外面地区 (富田 ⇄ ニツ井駅前)
- ◆濁川地区 (釜谷 ⇄ ニツ井駅前)

利用料金

1回 200円(未就学児童無料)

予約センター

各地区により、下記の予約センターへ電話またはFAXで予約をします。

受付時間:1便のみ前日午後5時まで

それ以外の便は、当日利用便の運行開始時刻60分前まで

予約内容:お名前、利用日、便名、停留所名

運行日

毎週 月曜日~金曜日 の5日間 ※1月1日のみ

運行経路、運行時刻表、停留所

- ◆東雲地区 1日6便
- ◆檜山西部地区 1日6便
- ◆富田・外面地区 1日4便
- ◆濁川地区 1日4便

乗車は、決められた停留所から

降車は、路線上であれば、どこでも降車できます

地区名	運行業者	電話番号	FAX番号
東雲地区	秋北タクシー 能代営業所	52-1111	52-5358
檜山西部地区	第一タクシー (タクシーセンター)	52-2211	54-7622
富田・外面地区	ニツ井観光タクシー	73-2211	73-2121
濁川地区			

出典:秋田県能代市 HP

都道府県名	新潟県	市町村名	三条市		
運営主体	三条市市民部環境課				
乗合バス等の概略					
名称	運行形態	利用対象	料金	運行時間	運行頻度
ひめさゆり	区域運行	一般	¥400～	8:00～18:00	平日のみ
運行エリア・利用状況等					
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>三条市デマンド交通ひめさゆりの特徴、魅力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内全域に停留所が設置されており、ご自宅の近くから利用できます。 ・時刻表がなく、乗る(降りる)時刻を自由に決めることができます。 ・決まったルートがなく、目的の停留所に乗換なしでほぼ直接行くことができます。 ・事前の利用者登録は不要で、タクシー会社へ電話で予約をして利用できます。 </div>					
<p>利用できる方</p> <p>どなたでもご利用できます。 (三条市以外にお住まいの方もご利用いただけます。)</p>		<p>運行範囲</p> <p>三条市内全域 停留所間での移動となりますので、停留所以外での乗車・下車はできません。</p>	 <p>停留所表示</p>		
<p>運行日・運行時間</p> <p>運行日：月曜日～金曜日（土、日、祝日、1月1日～3日は運休） 運行時間：午前8時～午後6時（下田エリアは午前7時～午後6時）</p>					
<p>料金（1人あたり）</p> <p>「1人で乗車する」場合と「乗合いで乗車(複数乗車)する」場合で料金が異なります。 [1] 1人乗車の場合：運行の距離ごとに料金が変わります。(500円～3,000円) [2] 乗合い乗車の場合：エリア間の移動に応じて、1人あたり400円または800円 (いずれも小学生以下は半額) ※1回の運行中に、お客様が2人以上となるケースがあれば、乗合い乗車料金になります。</p>					
<p>ご利用方法</p> <p>[1] <u>ご利用の1時間前までにタクシー会社に電話で予約してください。</u> [2] <u>最初に「デマンド交通」のご利用であることをお伝えください。</u>次に、「名前・電話番号」「利用したい日、時間」「乗る停留所、降りる停留所」「人数」を伝えます。 <u>※乗合い乗車を希望される場合は、あらかじめその旨お申し出ください。</u> (ただし、予約状況によってはご希望に添えない場合もございますので、ご了承ください。) [3] 予約時間までに乗車する停留所前にてお待ちください。 ※往復での利用の場合、帰りの便の予約もできます。 (病院からの帰りの場合に限り、後で時間変更することも可能です。)</p>					
<p>デマンド交通の車両には共通のマークが付いていますので、乗車時にご確認ください。(右図参照)</p>					
 <p>出典：新潟県三条市 HP</p>					

都道府県名	山形県	市町村名	川西町		
運営主体	川西町				
乗合バス等の概略					
名称	運行形態	利用対象	料金	運行時間	運行頻度
デマンド型乗合タクシー	区域運行	登録者	¥500	7:30~17:00	1日9便
運行エリア・利用状況等					
<p>■ 取組の背景</p> <p>地域と交通の状況 【過疎地域】【生活交通の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> 川西町は山形県南部の米沢盆地に位置する過疎の町である。町民バスによる財政負担を軽減すると同時に高齢者などの交通弱者の生活交通を確保することが重要な課題であった。 このため以下の視点により、デマンド交通型乗合タクシーを導入することとした。 <ol style="list-style-type: none"> まちづくりに寄与する。(町民の移動手段の確保による地域の活性化・「このまちで暮らし続けられる」生活基盤の確保。) 受託するタクシー会社の過度な負担を避ける。(デマンドの運行時間に制限を付けることにより、予約外の時間帯は自社営業を可能とする。) 財政負担の軽減。(既存のパソコンを活用することによる徹底したコストの軽減。) <p>活用メニュー(制度・協議会等) 【都道府県の補助(バス等)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 町独自による実証運行として、3ヶ月間の無料運行を行った。 平成18年度から山形県の生活交通確保対策事業により、デマンド型乗合タクシー事業の委託費の1/2の補助を受けている。 <p>■ 実現したサービス</p> <p>サービス内容 【デマンド型交通】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成17年6月より町民バス運行エリアにおいてデマンド型交通の実証実験を行い、平成18年度からみどりタクシー、大京タクシー、川西観光タクシーの3社に運行委託して本格運行となった 運行路線数は4路線(直線コース、内回りコース、外回りコース、山間部コース)を基本に町内全域を対象に1日9便運行している。 運行時間は7時30分から17時まで。運賃は一律500円である。 目的地は公共施設13箇所(病院、診療所、駅、役場、文化施設、宿泊施設、体育館、地区公民館)に限定されている。登録者数は平成20年度3月時点で1,600人である。 運行車両はタクシー会社からの借り上げであり、ジャンボタクシー1台、小型タクシー2台である。ただし、冬期間は、積雪の状況に応じて、ジャンボタクシー1台を増便して対応している。 利用者は電話で前日までに予約。電話を受けたタクシー会社のオペレーターはパソコンで登録者を検索し予約情報を入力する。オペレーターは、毎日運行計画表を作成し、運転手に手渡す。運転手は、運行計画表に基づき、運行する。 <p>■ 創意工夫・知見・教訓</p> <p>財政負担の少ない方式 【創意工夫:運営の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> デマンド運行の運営は、以下のような工夫により極力財政負担の少ない方式を採用している。 <ol style="list-style-type: none"> 登録者のデータは、町職員がエクセルを活用して作成したものを利用しており、システム等の開発費、維持経費はほとんどかからない。(パソコン・住宅地図・タクシー無線の活用) 予約受付を行うオペレーターは、既存のタクシー会社のオペレーターが通常のタクシー予約業務の合間に行う。(人件費の節約) 運行する自動車は、常に安全点検を行っているタクシー会社の現有車両を利用している。(安全な自動車の提供) 運転手は、タクシードライバーであり、町内の道路状況に精通している。(ノウハウの活用) 					
					
出典:国土交通省総合政策局 HP					

都道府県名	栃木県	市町村名	栃木市		
運営主体	栃木県栃木市交通防犯課				
乗合バス等の概略					
名称	運行形態	利用対象	料金	運行時間	運行頻度
蔵タク	区域運行	利用登録 要予約要	¥300	8:00~16:00	1日9便

運行エリア・利用状況等

平成26年改正版

蔵タクご利用案内

栃木市では、市民の皆さんの通院や買い物・社会参加など、日常生活の足として「蔵タク」の運行を行っています。「蔵タク」は、自宅から目的地まで送迎する乗合タクシーで、1時間以内に目的地へお送りします。乗り合う人を順番にお迎えに行き、それぞれの目的地へ順番にお送りします。



【運行日・運行時間】

■運行日 月曜日～金曜日（祝日及び年末年始は運休）

■運行時間	8時便	9時便	10時便	11時便	12時便
	13時便	14時便	15時便	16時便	

※各便の時間は蔵タクが出発する時間で、お迎えの時刻ではありません。予約された方のお迎えの予定時刻を、各便運行開始の15分前にお知らせできますので、お電話でお問合せください。

【蔵タクを利用するために必要なこと】

- ①事前の利用者登録（一度のみ）
- ②利用する際、あらかじめ電話で予約

①事前の利用者登録

蔵タクの利用は、事前の利用者登録が必要です。一度登録すれば有効期限はありません。

【登録方法】

- ・利用登録票に必要事項を記入し、郵送・FAX(0282-21-7771)等により交通防犯課、各総合支所生活環境課、支所出張所へ提出してください。
- ・利用登録票は、本庁・支所等で配布、市のホームページに掲載しております。また、交通防犯課(☎0282-21-2153)・予約センター(☎0282-21-7770)に連絡いただければ郵送いたします。
- ・登録は世帯ごとを基本とし、個人での申請も可能です。
- ・登録完了の電話連絡や利用者登録証などの発行は行っておりません。



【運賃】

区分	初乗り	※乗り継ぎ
大人(中学生以上)	300円	200円
子ども(3歳児～小学生)	3歳未満は無料	
障がい者(手帳提示)及び介護者	150円	100円
老人福祉センター等利用者		

※乗り継ぎ：北部エリアと南部エリアとの間を乗り継ぐ場合、乗り継いだ後の運賃

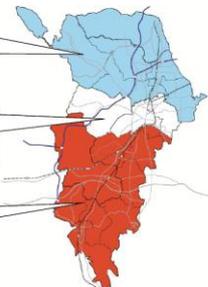
■回数券 3,000円(300円券×11枚)、1,500円(150円券×11枚)
販売場所：「蔵タク」車内、市内タクシー事業者の営業所

【運行エリア】

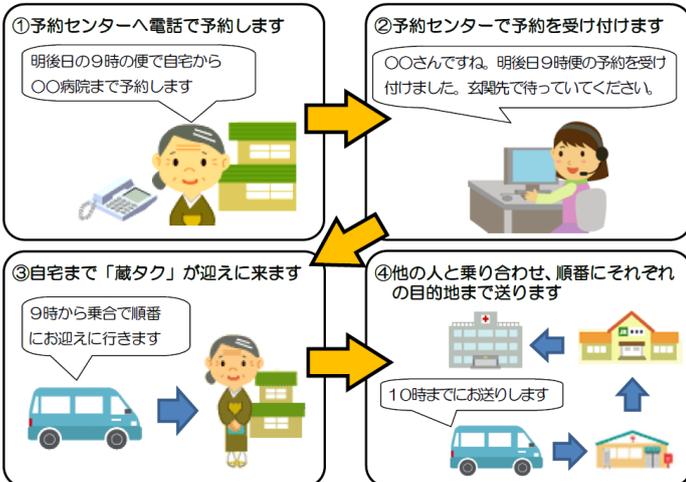
栃木市内のみ運行で、市外へ行くことはできません。市内を以下の3つのエリアに分けて運行します。

- 北部エリア** 西方地域、都賀地域、栃木地域の一部（吹上地区^{*1}、寺尾地区、国府地区）
・北部エリア内、中央エリアへの移動ができます^{*2}
- 中央エリア** 栃木地域の一部（栃木地区、大宮地区、皆川地区）
・中央エリア内、北部・南部エリアへの移動ができます
- 南部エリア** 大平地域、藤岡地域、岩舟地域
・南部エリア内、中央エリアへの移動ができます^{*2}

※1 吹上地区のうち栃木市総合運動公園は、中央エリアとなります。
※2 北部エリアと南部エリアとの間の移動については、乗り継ぎポイント(市役所本庁舎)で、次の便に乗り換えます。



ご利用の流れ



※ 帰りの便の利用時間があらかじめ分かる場合は、行きの便を予約する時に帰りの便も一緒に予約することができます。

出典：栃木県栃木市 HP

都道府県名	埼玉県	市町村名	加須市
運営主体	加須市コミュニティバス円滑運行協議会		

乗合バス等の概略					
名称	運行形態	利用対象	料金	運行時間	運行頻度
かぞ絆号(循環バス)	路線定期		¥100	7:00~19:30	1日10便
かぞ絆号(シャトルバス)	路線定期		¥200	7:00~19:30	1日8便
かぞ絆号(乗合タクシー)	区域運行	利用登録要 予約要	¥300	7:00~17:00	1日10便

運行エリア・利用状況等

加須市 コミュニティバス かぞ絆号 運行ガイド

「デマンド型乗合タクシー」「シャトルバス」「循環バス」の3つの運行方法でさらに便利になりました。

デマンド型乗合タクシーとはどのように運行するの?

市内を下記MAPの3つのエリアに分け、10人乗りのワンボックス車両により運行します。
 北エリア(循環1便)・中エリア(循環2便)・南エリア(循環3便)
 エリアをまたぐような利用の場合は、乗り継ぎ場所(加須駅、花輪駅)、「道の駅」のあるエリア(おとろけ)で、行き先のエリアを走るデマンド型乗合タクシーに乗り換えで利用します。ただし、北エリア・中エリア、南エリアの車までエリアごとに設定するエリア乗り入れポイントについては、エリアをまたぐ乗継ぎが利用できません。また、北エリアの車で乗り継ぎ場所の「道の駅」のあるエリアについても直接行くことができます。

2 デマンド型乗合タクシー(北エリア)
 乗り入れポイント
 ●大森病院 ●100の道の駅(加須駅前) ●加須駅前 ●カインズモール(大森駅前)

3 デマンド型乗合タクシー(中エリア)
 乗り入れポイント
 ●いなほの湯 ●加須駅前 ●カインズモール(大森駅前)

4 デマンド型乗合タクシー(南エリア)
 乗り入れポイント
 ●加須駅前 ●カインズモール(大森駅前) ●加須駅前 ●カインズモール(大森駅前)

5 シャトルバス
 【加須駅前・花輪駅前】
 ●シャトルバス(加須駅前)

6 循環バス
 【加須駅前・花輪駅前】
 ●デマンド型乗合タクシーの乗り継ぎ場所
 【加須駅、花輪駅、道の駅のあるエリアおとろけ】

デマンド型乗合タクシーのご利用には、まず、利用登録が必要です!

デマンド型乗合タクシーのご利用には、まず、事前に住所、氏名、連絡先などの利用登録をしていただく必要があります。市内に居住する市民の方であれば、ご自分で利用登録を申請することができます。

デマンド型乗合タクシーをご利用の際は必ず予約をしましょう!

予約センター ☎0120-62-7203(フリーダイヤル)

利用予約の受付日時
 月曜日から土曜日まで(日曜日・年末年始(12/29)から1月3日までを除く。)
 7時から16時30分まで。

利用予約の方法
 ・利用したい日の1週間前から当日の希望する便の30分前までに予約センターへ電話し、ご利用になるお名前、利用日、出発地の時間、どこからどこまで行きたいかを伝えてください。
 ・午前7時出発便(第1便)を希望する場合は、利用したい日の1週間前から前日の16時30分までの受付となりますのでご注意ください。また、月曜日の7時出発便(第1便)を希望する場合は、前週の土曜日の16時30分までに予約してください。
 ・利用予約が多い場合、真季となり希望する便を予約できない場合があります。

循環バス路線図

「市民プラザ」の南を南北に走る「加須循環バス」を境に、西循環コース(加須駅前から加須のコース)と東循環コース(加須循環バスから加須のコース)の2つのコースを設け、1便が数字の「8の字」をかくように運行します。西循環コース・東循環コースともに「右回り」と「左回り」を設け、停留所は全体的に2箇所です。

利用料金(1人1回当たり片道)
 デマンド型乗合タクシー300円 シャトルバス200円 循環バス100円

●乗車時に現金または利用券をお支払いください。(併用可)
 ●乳幼児(小学生未満)のお子様は無料です。
 ●中学生がデマンド型乗合タクシーの乗車に当たり、1つの利用予約によってエリアをまたぐ場合は、乗り継ぎ場所(加須駅)、「道の駅」のあるエリア(おとろけ)でデマンド型乗合タクシーからデマンド型乗合タクシーに乗り換えて乗り継ぎを行っても300円で利用できます。

お支払い利用券をご利用ください

1枚1,000円(枚は100円券の1枚につき1円で、100円枚です。)
 ①取換場所・取替時期
 ・市役所庶務課(各総合支所市民相談課)
 8時30分から17時15分まで(土日・祝日及び1/29日から1/3日までを除く。)
 ・朝日自動車部品加須支所、加須タクシー(各営業所、加須タクシー(各営業所)
 8時30分から17時15分まで(土日・祝日及び1/29日から1/3日までを除く。)
 ・各コミュニティバスの車内
 ・月曜日から土曜日の、各コミュニティバスの運行時間内。

000デマンド型乗合タクシー時刻表 (利用料金 300円)

北エリア・中エリア・南エリア共通	1便	2便	3便	4便	5便	6便	7便	8便	9便	10便
	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	14:00	15:00	16:00	17:00

4 シャトルバス時刻表 (利用料金 200円)

バス停留所名	1便	2便	3便	4便	5便	6便	7便	8便
●新古河駅前	17:00	19:45	11:00	11:30	11:35	11:60	11:65	11:85
●北川辺体育館入口	17:03	19:42	11:03	11:30	11:32	11:57	11:58	11:82
●北川辺総合支所	17:06	19:39	11:06	11:33	11:31	11:54	11:51	11:84
●朝日新田	17:09	19:36	11:09	11:31	11:34	11:51	11:54	11:84
●朝日新田	17:12	19:33	11:12	11:28	11:37	11:58	11:57	11:83
●朝日新田	17:15	19:30	11:15	11:25	11:34	11:55	11:56	11:84
●北川辺総合支所	17:18	19:27	11:18	11:25	11:34	11:55	11:53	11:83
●東豊島	17:20	19:25	11:20	11:26	11:35	11:56	11:55	11:83
●道の駅のあるエリア(おとろけ)	17:24	19:21	11:24	11:24	11:34	11:55	11:56	11:83
●朝日新田	17:27	19:18	11:27	11:23	11:32	11:53	11:54	11:82
●北川辺総合支所	17:34	19:11	11:34	11:26	11:35	11:56	11:55	11:82
●朝日新田	17:36	19:09	11:36	11:24	11:31	11:52	11:51	11:81
●本郷	17:38	19:07	11:38	11:27	11:33	11:52	11:53	11:81
●朝日新田	17:41	19:04	11:41	11:29	11:36	11:53	11:54	11:81
●朝日新田	17:43	19:02	11:43	11:27	11:36	11:51	11:52	11:81
●上三保	17:47	18:58	11:47	11:23	11:31	11:51	11:52	11:80
●加須駅前	17:51	18:54	11:51	11:19	11:26	11:50	11:50	11:80
●加須駅前	18:02	18:43	11:02	11:28	11:27	11:58	11:57	11:83
●白鳥	18:05	18:40	11:05	11:25	11:30	11:55	11:54	11:80
●朝日新田	18:10	18:35	11:10	11:20	11:35	11:45	11:25	11:75

●コミュニティバスの利用方法、時刻表、運行状況について
 加須市コミュニティバス円滑運行協議会
 〒347-8501 加須市下三保290 加須市役所内
 ☎0120-62-7203(フリーダイヤル)

●コミュニティバスの運行状況について
 加須市役所 政策調整課
 ☎0480-62-1111

都道府県名	岡山県		市町村名	倉敷市	
運営主体	庄新町地区乗合タクシー運営委員会、NPO法人「地域の公共交通を守る会」他4地区				
乗合バス等の概略					
名称	運行形態	利用対象	料金	運行時間	運行頻度
なかよし号	路線不定期	一般	¥400	8:00~20:00	月~土 1日14便
やまびこ号	路線定期 路線不定期	一般	¥300 ~ ¥500	7:00~20:00	月~土 1日12便
大室・高室・菟池団地地区乗合タクシー	路線不定期	一般	¥400	7:00~16:30	1日6便
東酒津チェリータクシー	路線不定期	一般	¥400	7:00~19:00	1日10便
ふれあい号	路線不定期	一般	¥300 ~ ¥500	9:00~16:00	1日4便
真備地区コミュニティタクシー	路線定期 区域運行	一般	¥300	8:30~16:00	路線定期3便 区域運行3便

運行エリア・利用状況等

	庄新町地区	西坂地区	大室・高室・菟池団地地区
運行主体	庄新町地区乗合タクシー運営委員会	特定非営利活動法人「地域の公共交通を守る会」	大室・高室・菟池団地地区乗合タクシー運営委員会
運行事業者	平和タクシー(株)	平和タクシー(株)	岡山県タクシー協会児島支部
運行開始	平成17年2月1日~	平成17年7月13日~	平成17年10月1日~
運行便数	1日14便(土曜6便) ・JR中庄駅方面 7便 ・庄新町方面 7便	1日12便(土曜6便) ・JR倉敷駅方面 6便 ・西坂地区方面 6便	1日6便(土曜2便) ・JR児島駅方面 3便 ・大室方面 3便
利用料金	片道 400円 (6歳未満無料)	片道 大人 500円 (生坂口~300円) 高校生以下300円 (生坂口~200円) (6歳未満1人目無料)	片道 大人 400円 子ども 80円 (大室~菟池1丁目までは、大人300円)
予約体系	予約制(デマンド型) 1時間前までに予約	定時制と予約制(デマンド型) 1時間前までに予約	予約制(デマンド型) 1時間前までに予約
使用車両	セダン型タクシー	セダン型タクシーまたはジャンボタクシー	セダン型タクシーまたはジャンボタクシー
運行日	平日・土曜日(日祝日は運休)	平日・土曜日(日祝日は運休)	平日・土曜日(日祝日は運休)
停留所数	15箇所	21箇所	7箇所
運行距離	片道5.0km	片道11.2km	片道5.7km
所要時間	片道 巡回便 26分 直行便 15分	片道 37分 (西坂台~倉敷駅~倉敷中央病院前)	片道 14分
利用者数(H25年度)	3,843人/年	5,723人/年	1,657人/年
平均乗車数(H25年度)	1.7人/便	2.3人/便	1.6人/便
名称・リンク	庄新町地区乗合タクシー なかよし号	西坂地区乗合タクシー やまびこ号	大室・高室・菟池団地地区乗合タクシー

	東酒津地区
運行主体	東酒津地区コミュニティタクシー運営委員会
運行事業者	平和タクシー(株)
運行開始	平成26年3月10日~
運行便数	1日10便(土曜6便) 東酒津~JR倉敷駅~倉敷中央病院前 5便(土曜3便) 倉敷中央病院前~JR倉敷駅~東酒津 5便(土曜3便)
利用料金	大人 400円 高校生以下 200円 (6歳未満 無料)
予約体系	予約制(デマンド型) 1時間前までに予約
使用車両	セダン型タクシー
運行日	平日・土曜日(日曜・祝日は運休)
停留所数	17箇所
名称・リンク	東酒津チェリータクシー

	倉敷ハイツ地区	真備地区
運行主体	倉敷ハイツ地区乗合タクシー運営委員会	真備地区コミュニティタクシー運営委員会
運行事業者	平和タクシー(株)	(株)日の丸タクシー
運行開始	平成22年3月1日~	平成25年8月1日~ (真備さいくるバスから移行)
運行便数	1日4便 ・JR中庄駅方面 2便 ・倉敷ハイツ方面 2便	各ルート1日6便 東・西・南ルート (南ルートは別便で船橋公民館行き有り)
利用料金	倉敷ハイツ~倉敷市役所 300円 倉敷ハイツ~中央病院 500円 高校生以下は半額(6歳未満無料)	片道 大人 300円 子ども(小学生) 150円 (小学生未満無料)
予約体系	予約制(デマンド型) 1時間前までに予約	定時制と予約制(デマンド型) 1時間前までに予約

	セダン型タクシー	セダン型タクシーまたはジャンボタクシー
使用車両	セダン型タクシー	セダン型タクシーまたはジャンボタクシー
運行日	月~金曜(祝日も運行)	平日・土曜日(日祝日は運休)
停留所数	倉敷ハイツ内14箇所 倉敷市内15箇所	東ルート19箇所 西ルート28箇所 南ルート27箇所(船橋行き10箇所) その他、利用施設として11~14箇所
運行距離	9.2km	東ルート10.5km+a 西ルート15.1km+a 南ルート13.7km+a(船橋行き6.4km)
所要時間	2.5分	東ルート30分+a 西ルート42分+a 南ルート36分+a(船橋行き17分)
利用者数(H25年度)	313人/年	11,350人/年 真備さいくるバス(7月まで)の実績を含む
平均乗車数(H25年度)	1.2人/便	2.4人/便
名称・リンク	倉敷ハイツ地区乗合タクシー ふれあい号	真備地区コミュニティタクシー

出典:岡山県倉敷市HP

都道府県名	福岡県	市町村名	八女市		
運営主体	福岡県八女市総務部地域支援課				
乗合バス等の概略					
名称	運行形態	利用対象	料金	運行時間	運行頻度
ふるさとタクシー	区域運行	利用登録要 予約要	¥300	8時～16時	1日8便
運行エリア・利用状況等					

八女市予約型乗合タクシー
ふる里タクシー
保存版 **利用方法** 33-2002
※オペレーターが対応します

◇予約専用ダイヤル◇

ご利用には、事前登録が必要です。
ご利用の際には、必ず「予約センター」に電話で予約してください。
同一エリア内であれば1回の乗車につき300円でご利用できます。
※運行エリア・エリア間の移動については、裏面運行エリア図を参照してください。
※未就学児の利用は、無料です。
乗合タクシーですので、お迎えの時間、目的地到着時間にゆとりをもってご利用ください。

***運行時刻について**
(全エリア共通)
※1日8便の運行、平日のみ運行

便	受付締切時間
8時便	前日午後4時30分
9時便	午前8時30分
10時便	午前9時30分
11時便	午前10時30分
正午～1時 昼休み	
1時便	午後12時30分
2時便	午後1時30分
3時便	午後2時30分
4時便	午後3時30分

※土曜、日曜、祝日及び年末年始(12月29日から1月3日)は、運休です。

***予約時間について**

- 受付時間は、午前7時30分から午後4時30分までです。
- 利用日の2日前(運休日を除く)から予約できます。
- 当日予約は、右表の受付締切時間までにお願います。
- 8時出発便は、前日までに予約してください。

***予約センター** (八女市黒木総合支所内)
TEL 0943-33-2002

***ご利用の流れ**

- 各利用者: 電話で予約 (電話予約)
- 予約センター: オペレーター対応
- 順番に利用者宅へ: タクシーに指示
- それぞれの目的地へ: 商店街や病院へ
- 自宅からの目的地へ: 自宅からの目的地へ
- それぞれの自宅へ: 商店街や病院から乗車
- それぞれの乗車場所へ: タクシーに指示
- 予約センター: オペレーター対応
- 各利用者: 商店街や病院から電話で予約

八女市地域公共交通協議会事務局 八女市役所 総務部 地域支援課 TEL23-1224

1回300円で、ご利用できます!

八女市予約型乗合タクシー
ふる里タクシー
八女市全域で運行中!

***運行エリア[全域]図**

◆乗合タクシーで、移動できるのは、同一エリア内に限ります。
※ただし、右記の場合は、エリアを越えて利用できます。

***共通乗入エリア八女**

白木・迎春エリアと八女市中心部を行き来する場合[400円]

下記の赤い線で囲んだ場所のみ、行き来できます。
共通乗入エリア以外であっても、旧迎春、旧白木、旧大淵バス路線であれば乗入できます。
その他のエリア間の移動には、堀川バスをご利用ください!

***共通乗入エリア黒木**

串毛・木屋エリアと黒木町中心部を行き来する場合[300円]
豆原・大淵
上陽エリアと黒木町中心部を行き来する場合[400円]

下記の赤い線で囲んだ場所のみ、行き来できます。
※黒木町中心部の場合は、共通乗入エリア以外であっても、堀川バス路線(回数442号扱い)であれば乗入できます。

都道府県名	沖縄県	市町村名	那覇市		
運営主体	那覇市観光協会				
乗合バス等の概略					
名称	運行形態	利用対象	料金	運行時間	運行頻度
ゆいゆい号	路線定期	一般	¥230	9:00~19:00	1日18便

運行エリア・利用状況等

那覇ま〜いゆいゆい号とは?

忙しい日常を忘れて
ゆっくり沖縄観光を
楽しみたい!
そんなあなたを
サポートします!



乗車料金	
1回運賃	大人 230円 小児 120円 身障者割引 大人120円 小児 60円
1日乗車券	大人 660円 小児 330円 身障者割引 大人・小児 330円
ゆいレールもバスも乗り放題! バスモノパス	
大人	1,000円
小児	500円
フリー区間: 沖縄都市モノレール全線 那覇バス市内均一区間	

ゆいゆい号の魅力 その1

那覇空港から出発!!



国内でも有数の乗降客数を誇り、日本の南の玄関口として重要な役割を果たしている那覇空港。隣接する国際線ターミナルビルもリニューアルオープンし、さらなる賑わいを見せている。
ゆいゆい号は那覇空港から出発し、ビーチ→バスターミナル→識名園→首里城→おもろまち→国際通りを一方に回るので、どのバス停から載っても市内線バスと同じ運賃 大人230円 小児120円です。

ゆいゆい号の魅力 その2

沖縄の中心地、那覇市内の観光スポットをゆっくりまわれる!!

沖縄の中心地、那覇市内の観光スポットをゆっくり楽しくまわれる!
那覇には国際通りや首里城の他にも色々な見所がいっぱい。ゆっくりと那覇市内の観光スポットを回りたい方には周遊バスがおすすめです。紅型柄を施したバス停も分かりやすい場所に設置しており、1日18便と豊富にありますので便数の少ないバスのような時刻表を気にする事もありません。
また、「那覇ま〜いゆい」などの地元ガイドが案内するまち歩きも多数のコースがありますので、自分のペースに合わせてスケジュールをたてれば今まで巡れなかった場所なども楽しむことができます。



5/3/18

ゆいゆい号の魅力 その3

一日乗車券なら、何回乗っても660円でお得!!



ゆいゆい号で那覇観光! | 那覇市内観光周遊バスゆいゆい号
一日乗車券なら、どれだけ利用しても660円でお得!!
周遊バスゆいゆい号は1周約120分を約30分毎に出発。1日18便出発しています。一日乗車券(大人660円・小児330円)を使用すれば何度でも乗り降り可能ですので、ゆっくりと観光も楽しめます。
車内には色々なパンフレットなども置いてありますので途中下車して観光なども可能です。
一日乗車券は那覇バス市内線でも利用することもできます。

ゆいゆい号の魅力 その4

バス利用で渋滞や、わずらわしい駐車場の心配も必要なし

那覇市内をドライブする時には駐車場や渋滞にたびたび不便を感じる事も!周遊バスなら、駐車場やガソリンスタンドを探したり、時間を気にする事無く那覇観光を楽しむ事ができます。車を運転することがないので泡盛の酒造所巡りなど幅広く楽しみも増えます。



出典: 那覇市観光協会 HP

2-3 事例収集のまとめ

個別の事例収集の結果を、課題に対応して下表のように整理した。

表 6-2.課題に関連する事例における工夫

項目	工夫等
運賃	<ul style="list-style-type: none"> ●乗合時は割引料金を設定（新潟県三条市） ●区域運行ではあるが、距離制の料金設定（新潟県三条市） ●11枚綴りの回数券を販売（栃木県栃木市）
運行時間	<ul style="list-style-type: none"> ●時間がない時間帯は、委託先タクシー会社の自社営業を認める（山形県川西町） ●学生の利用を考慮し、始発を6:50に設定（岡山県倉敷市）
市外等への接続	<ul style="list-style-type: none"> ●市域が広いため、市内でエリア分けを行い、デマンドを乗り継ぐ場合は割引料金を設定（栃木県栃木市、福岡県八女市） ●1回の利用でデマンドを乗り継ぐ場合は1回分の運賃で対応（埼玉県加須市） ●既存のモノレール、バスの1日乗車券で利用可能（沖縄県那覇市）
地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ●2つのショッピングセンターを結ぶ路線を設定（青森県八戸市） ●買い物時間に合わせてダイヤを設定、デマンド利用者にはショッピングセンターの割引券を配布（青森県八戸市） ●商店街の買い物客の巡回バスの無料券を進呈（秋田県能代市）

3 改善策(案)の検討

1,2 の検討を踏まえデマンド運行計画の改善策(案)を検討した。

ただし、以下に改善策(案)を示してはいるが、有償実験は開始3ヶ月強と期間が短いことから、当面は現在の実施計画での実施が望ましいと考えられる。

表 6-3.課題に関連する事例における工夫

項目	改善(案)
運賃	<ul style="list-style-type: none"> ●旧町村のエリアで料金設定。同一エリア内は200円、他のエリアへの移動は300円 ●回数券の発行
運行時間	<ul style="list-style-type: none"> ●運行時間の繰り上げ(6~7時、繰り上げ時間帯は、馬天入口バス停までの定路型等も検討) ●21時以降は従来通り運行せず、片道デマンド利用者に対して、夜間のタクシー割引券を配布
市外等への接続	<ul style="list-style-type: none"> ●路線バス、久高島フェリーとの乗り継ぎ利用における料金割引(乗り継ぎ利用の証明方法については要検討)
地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ●特定店舗での一定金額購入による「おでかけなんじい」利用券の進呈 ●ポイントカードの導入と、提携店舗における割引

第7章 平成27年度デマンド交通運行実施計画(案)の策定

1 運行計画

1-1 概略

- 平成27年度も基本的には平成26年12月から開始している有償での実験を、同じ枠組みで継続実施する。
- ただし、下半期においては、有償実験の利用状況を踏まえた見直し(料金の改定、運行時間の変更等)を検討する。

表 7-1.平成27年度デマンド交通の運行計画の概要

項目	内容	備考
利用対象	南城市民及び南城市を訪れる観光客で、一人で乗り降りできる方。 南城市民は登録が必要	
運行エリア	久高島を除く南城市全域	
運行形態	ドア to ドア方式の区域運行	
運賃	一人一律、1回300円	未就学児は無料
実験期間	平成27年4月1日 ～平成28年3月31日まで	年末年始(12/31～1/3は運休)
運行曜日	平日・休日の毎日	
運行時間	8～21時	8時台～20時台(1時間 間隔便の計13便)
予約方法	電話による予約制(各便30分前までの事前予約)	8時の便は前日までに予約
予約時間	8～21時	
導入車両	10人乗り3台	南城市がリースで契約

※下半期に利用状況を踏まえ料金等の見直しの可能性あり

1-2 各項目の概略

(1) 利用対象

- 南城市民及び南城市を訪れる観光客を利用対象とする。(福祉車両ではないため、ひとりで乗降できることが条件)
- 年齢制限はなく利用できる。

(2) 運行エリア

- 久高島を除く南城市全域を運行エリアとする。
- 運行エリア内は細分せず、「おでかけなんじい」は全域を移動できるものとする。
- 運行エリア外の久高島との連絡は、安座真港での船との乗り継ぎ、市外との連絡は馬天入口バス停など市境のバス停で、路線バスとの乗り継ぎとなる。



図 7-1.デマンド交通の運行エリア

(3)運行形態

- 実証実験ではドア to ドア方式で区域運行の「おでかけなんじい」を運行する。
- なお、無償実験時に運行していた「観光おまかせなんじい」は、利用者数が少なく観光客も「おでかけなんじい」を利用していたことから、平成27年度も有償実験では運行しないこととする。

(4)運賃

- 「おでかけなんじい」の運賃は一律300円/回とする。
- 運賃の支払は、現金のみとし、乗車時に支払う。
- 未就学児は無料とする。

(5)実験期間

- 実験期間は、平成27年4月1日(水)～平成28年3月31日(木)の1年間とする。

(6)運行曜日・時間帯

- 年末年始を除く、平日・休日の毎日運行する。
- 運行時間帯は、8～21時で、予約に応じて1時間毎に運行する。
- なお、台風接近等の荒天時は運休する。

表 7-2.「おでかけなんじい」の運行曜日・時間帯

項目	内容	備考
期間	平成27年4月1日～ 平成28年3月31日まで	年末年始(12/31～ 1/3は運休)
運行曜日	平日・休日	
運行時間	8～21時	8時台～20時台(1時 間 間隔便の計13便)

(7)予約方法及び予約時間

- 「おでかけなんじい」は予約制とし、予約はすべて利用者からの電話でのみ受け付ける。
- 予約時間は8時～21時で、出発の30分前まで受け付ける。(8時の便は、前日までに予約)

(8)導入車両

- 「おまかせなんじい」は、10人乗り3両で運行する。
- 車両は、リース車両を使用する。(南城市がリース契約)

2 平成27年度のデマンド交通の運営体制(案)

- 運営体制は、今年度同様に、「オペレート」と「運行」の2つの体制で構成される。
 - 「オペレート」は地方自治法に基づく随意契約、「運行」は公募型プロポーザル方式により委託先を選定する。
- ※ただし、「運行」については、委託先が決定し実施体制を調えるまでの間は、現在の委託先である「(株)鏡原第一交通」に委託する予定。

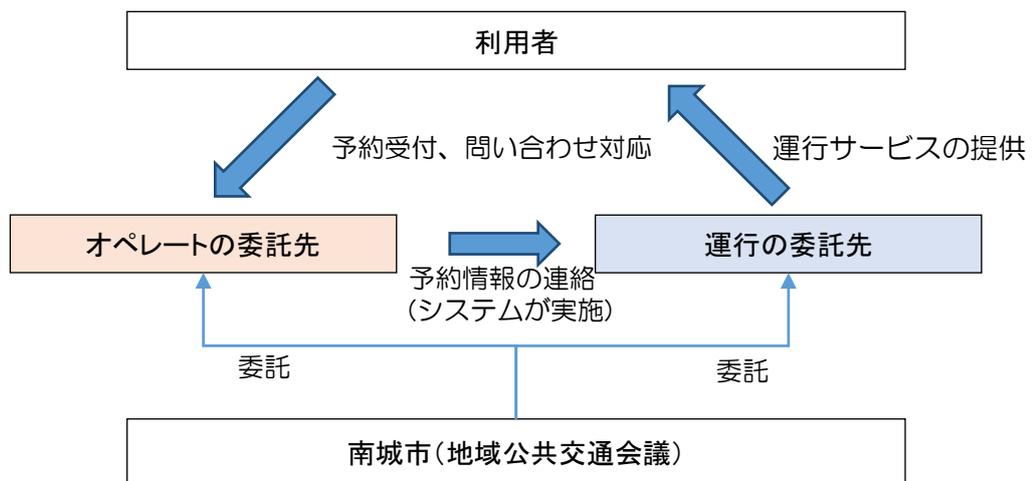


図 7-2.デマンド交通の運営体制の概略

3 その他

6章で検討した改善策(案)について、交通会議において検討し、必要性が高い改善策については、運行計画に採り入れ、平成27年度下半期での実施を考える。

<主な改善策(案)>

- 運賃体系の見直し(旧同一町村内の移動は200円など)
- 運行時間の繰り上げ
- 路線バス、久高島フェリー利用時の料金割引
- 特定店舗での一定金額購入による「おでかけなんじい利用券」の進呈

第8章 南城市地域公共交通会議の運営

1 第1回会議

1-1 議事次第

日時：平成26年5月21日(水) 14:00～16:00

場所：南城市役所 2F 玉城農村改善センター ホール

1. 開会	14:00～
2. 委員紹介	14:05～
3. 第3回会議の議事録確認	14:20～
4. H25年度実証運行結果報告	14:30～
<u>議 事</u>	
1. 平成26年度の進め方について	15:10～
2. 有償実験計画の素案について	15:25～
3. 有償実験の公募について	15:40～
5. 閉会	16:00



図 8-1.第1回交通会議の実施状況

1-2 出席者

団体名等	氏名	備考
南城市	座波 一	会長
琉球大学工学部環境建設工学科	神谷 大介	副会長
沖縄総合事務局 運輸部 企画室	小野 協子	
沖縄総合事務局 運輸部 陸上交通課	古堅 宗安	
沖縄県 企画部 交通政策課	嘉数 登	
沖縄総合事務局 南部国道事務所	照屋 悟	
沖縄県（南部土木事務所）	吉田 繁	
一般社団法人 沖縄県バス協会	慶田 佳春	
一般社団法人 沖縄県ハイヤー・タクシー協会	津波古 修	
私鉄沖縄県労働組合連合会	當間 正秀	
沖縄バス株式会社	親川 武司	
株式会社琉球バス交通	大城 幸和	代理
東陽バス株式会社	普久原 朝啓	
合名会社 山一交通	安波根 直義	代理
南城市老人クラブ連合会	金城 文雄	代理
南城市民生委員児童委員連絡協議会	大城 宏光	
南城市区長会	新城 辰夫	

(敬称略)

1-3 議事要旨

(1)H25 年度実証運行結果報告について

発言者	発言
委員	登録はどのように募ったのか。
事務局	区会長の説明、民生員の活動、市の広報誌などで行った。
委員	「おでかけなんじい」と同じように、「観光おまかせなんじい」の結果も、1日何便で何日運行したなどと詳細な説明があると良い。
事務局	「観光おまかせなんじい」は予約にかかわらず、1日5便運行している。期間中の運行本数について資料に記載する。
委員	実際のデマンド交通の利用は、想定よりも「多かった」、「少なかった」のどちらだと感じているか。
事務局	登録者数は、想定よりも早いペースで増えた。南城市は昼間人口が少ないため、多くの利用は望めないと考えていたが、日中の少ない時間でもお年寄りの利用がありよかった。
委員	平均的な走行キロのデータはあるか。
事務局	便数はあるが、距離のデータはない。
委員	労働条件等に関係するので、把握したほうが良い。
事務局	把握方法を検討する。
副会長	公民館の利用者が多いが高齢者向けの何かあるのか。がんじゅう駅やおきなわワールドもあるが、市民と観光客の利用があるのか。
事務局	公民館は、サークルがある。がんじゅう駅・おきなわワールドは、市民が利用しているかは不明であるが、通勤での利用者もいた。
副会長	登録で市民と観光と分けているので、観光か通勤など分ける必要があるので、集計も別でしたほうが良い。
事務局	市民と観光客と分けて整理する。
委員	4月は加入促進を行うとあるが、集計に反映されているか。また、登録者数は増えているのか。
事務局	集計は3月末時点であるが、4月以降のこの2ヶ月で200人以上登録が増えた。
副会長	3割が外出の機会が増えたと結果があるが、外出の前回とサンプル数が違うので、次回、支払い意思額等も含め最終的なとりまとめが必要。

(2)平成 26 年度の進め方について

発言者	発言
委員	「観光おまかせなんじい」の許認可は、どのようになるか。定期観光バスのような扱いになるのか。
委員	路線定期運行の一般乗合旅客自動車運送事業となる。
委員	南城市外の人なら、誰でも観光客となるのか。
事務局	市内を観光するのであれば、基本的に縛りはない。
委員	市内では 65 歳未満の人は利用できないが、車を持っていない人は利用できるが良い。
事務局	市内の交通手段は、市内・市外とも脆弱であるが、一気に進めるのではなく、まずはお年寄りの外出の機会を増やすのと、それから観光客と順を追って進めている。
委員	デマンド車両は、「おでかけなんじい」と「観光おまかせなんじい」で区分けはあるのか。
事務局	10 人乗り 1 台は、「観光おまかせなんじい」となる。残りの 10 人乗り 1 台と 8 人乗り 3 台が、「おでかけなんじい」になる。
副会長	<p>現在、65 歳以上人口が約 9,000 人、うち登録者数が約 1,000 人、うち利用している人は 470 人というのは、高齢者の外出支援に資しているのか。</p> <p>前回、予約の仕方が分からないという意見があったので、登録や利用も実際に一緒にしてあげる等、独居や高齢夫婦の支援が必要である。本当に必要な人に利用できるシステムの確認が必要である。</p> <p>路線バスでさえ、30～40 年前に乗ったきりという人もいるので、民生員の方に協力をお願いして、イベントなど設けて試しに一緒に乗ってみるのも良いのではないか。</p>
事務局	もっと親切的な広報やレクチャーを強化する。また、必要な人が利用できるのかデータの取り方を工夫する。

(3)有償実験計画の素案について

発言者	発言
委員	運行経費は市が負担するが、予想以上に収入があったり、逆に収入が少なかったりする場合には、誰が貰い、誰が負担するのか。
事務局	足りない部分は市が負担する。委託先とは概算契約になる。
委員	300円は妥当か。那覇市内が230円なので一つの目安になるかと思うが。
事務局	支払意思額は300円には満たない。200円では意思額から離れる。現金なので10円単位をなくしたい。まずは300円で実験したい。
委員	現金であれば、記録やエビデンスはどうなるのか。一括交付金であれば、会計検査があるはずだが対応できるのか。
事務局	システムが構築されており、誰がどこまで乗ったのかが記録される。
委員	H25年では、いくらを経費がかかったのか。
事務局	1ヶ月あたり270万かかった。
委員	ドライバーが、現金を扱うのか。路線バスではドライバーは現金を扱えないようになっている。
事務局	收受方法の詳細は受託業者との協議で決定する。
委員	現在使っている車両ではなくて、改めてリースをするのか。
事務局	現在は、レンタカーを利用しているが、緑ナンバーでの運用は出来ない。改めて緑ナンバー用の車両を用意する。
委員	「おでかけなんじい」も「観光おまかせなんじい」も、基本的には一般乗合事業である。使用する車両は緑ナンバーにすることで、保安基準もあるため、事前に相談してもらえれば調整したい。
副会長	利用者アンケートはするのか。
事務局	実施予定である。
副会長	経費について、270万/月とざっくりとしたものではなく、システム・人件費・ガソリンなど細かく出すほうが良い。
事務局	いくらかかったか、細かい経費を報告する。

有償実験の公募について

発言者	発言
委員	選定基準の環境への配慮は、ハードルが高すぎないか。アイドリングストップだけで良いのでは。
事務局	(左の)細目は国交省のガイドラインである。南城市では、右側(アイドリングストップ)で進めていく。

2 第2回会議

2-1 議事次第

日時：平成26年10月31日(金) 14:00～16:00

場所：南城市役所 2F 玉城農村改善センターホール

1. 開会	14:00～
2. 会長あいさつ	
3. 委嘱状交付	
4. 第1回会議の議事録確認	14:10～
5. 無償実験の実施状況報告	14:20～
6. 無償実験の評価について	14:30～
7. 運行委託公募の実施状況報告	15:00～
8. 議事	
有償実験計画(案)について	15:10～
9. 閉会	15:40



図 8-2.第2回交通会議の実施状況

2-2 出席者

団体名等	氏名	備考
南城市	座波 一	会長
琉球大学工学部環境建設工学科	神谷 大介	副会長
沖縄総合事務局 運輸部 企画室	山口 泰史	代理
沖縄総合事務局 運輸部 陸上交通課	古堅 宗安	
沖縄県 企画部 交通政策課	新城 和久	代理
沖縄総合事務局 南部国道事務所	照屋 悟	
沖縄県 (南部土木事務所)	吉田 繁	
一般社団法人 沖縄県バス協会	慶田 佳春	
一般社団法人 沖縄県ハイヤー・タクシー協会	新垣 良勝	代理
私鉄沖縄県労働組合連合会	喜屋武 悟	代理
沖縄バス株式会社	親川 武司	
株式会社琉球バス交通	大城 幸和	代理
東陽バス株式会社	幸喜 信明	代理
南城市老人クラブ連合会	金城 文雄	代理
南城市民生委員児童委員連絡協議会	大城 宏光	
南城市区長会	新城 辰夫	

(敬称略)

2-3 議事要旨

(1)無償実験の運行状況について

発言者	発言
委員	登録者の二重アカウントの内訳と、利用者数の計上方法を教えてほしい。
事務局	登録者は個人で申し込んだ方と、団体に申し込んだ方がおり、個人で申し込んではいないが、別途団体の代表が申し込んだ場合に二重登録となっている。3月精査した時は100人強が二重登録となっていた。利用者数は往復ではなく1回の片道利用を1回の利用としてカウントしている。

(2)無償実験の評価について

発言者	発言
委員 代理	観光客アンケートで年齢、男女別など属性を聞かなかった理由を聞かせてほしい。また、サンプル数5という調査結果があるが、これはどのように捉えればよいか。
事務局	調査票をA4用紙1枚に納めるため簡易なアンケートにしている。他の項目との優先順位から今回の調査については把握していない。また、サンプル数5の調査結果は参考値として認識している。
委員 代理	座間味では観光客の利用で収入が多く、国の補助申請を取り下げており、南城市でも観光客の詳しい実態を把握したほうが良い。
委員	南城市の高齢者の外出を運行するという趣旨は良いと思う。既存の路線バスと路線バスの走っていない空白の地域の人々を外へ向けるような、バスとデマンドバスの相互作用について、本格実施までに検討してほしい。
事務局	南城市ではユインチホテル南城の近くに土地を所有し公共駐車場の整備を進めている。南部東道路とこの駐車場を核とした交通体系の再編を検討しており、次年度では補助事業による計画立案を検討している。
委員	アンケート調査結果より、観光客に事前に知らせることで南城市の回遊向上の可能性が把握されているが、今後、観光客への周知は何か計画しているのか。
事務局	観光客の周知については、空港、県外の旅行代理店などでの情報発信を検討している。
副会長	「観光おまかせなんじい」は有償実験では行わないのか。
事務局	ドア to ドアのおでかけなんじいの方が観光客の方も利用していたため、「観光おまかせなんじい」は有償実験を行わない。

発言者	発言
副会長	ヒアリングでは帰りの予約方法がわからない方がいるといった意見があることから、行き予約の時点で帰りの予約について一声かける工夫が必要。帰りのバスがスーパーのどの辺りで待っているのか決まっていなければ、場所を決めてあげる。携帯電話を持っていない方もいるのでスーパーでの公衆電話の設置も考えた方がよい。デマンドバスと路線バスの相互作用については、デマンドバスから路線バスに乗り換えると一日有効のバス割引券がもらえるなど路線バスに乗り換えるメリットを出すと良いと思う。観光面では南城市のみではなく、沖縄本島全域で検討すべき課題であるが、那覇空港から観光地までのアクセスなどでは路線バスでどのくらい遊べるか考えた方がよい。
委員	県の公共交通対策は、交通対策課が担っているが、公共交通は広域的に検討するのがよいと考えている。
委員代理	交通対策課では H29 に国道 58 号線久茂地～普天間～沖縄市までの基幹バスの導入を検討している。H32 には鉄軌道の導入を検討しており与那原まで LRT が導入される計画となっている。那覇空港から 2 次交通、路線バスの遊び方については今後、検討が必要であると考えている。

(3)有償実験計画(案)について

発言者	発言
委員	「おでかけなんじい」の免許における位置づけを教えてください。
委員	フルデマンドで運行形態はタクシーと同じであるが、乗り合いであるため、一般乗合旅客事業となる。
事務局	本日、交通会議で有償運行計画について了承していただいた内容で運輸局に申請し、有償実験を行う。
委員	タクシー事業者か一般乗合旅客事業の許可を得るには時間がかかるため、12月中旬からの実施は難しいことも想定される。
代理	有償実験は平成 27 年 3 月 31 日までとなっているが、次年度の予定はどうなっているのか。一括交付金での実施となると、3 月 31 日まで実施するとなると報告が間に合わないと思われるがどのように対応するのか。
事務局	4 月以降も有償での実験を予定している。今年度の有償実験の一括交付金分は 3 月 20 日までを対象経費として報告する。3 月 21 日から 3 月 31 日は単独で実施する。
委員	どこでも乗れるということは、路線バスのバス停でも乗れるということなのか。
事務局	登録住所が登録者の自宅になっているので基本的には自宅まで行くようにしているが、バス停を指定されればバス停へ向かう。

発言者	発言
委員	通常では路線バスで乗り換えするところを、デマンドバスでは300円で行けるので、バス事業は収入減少が懸念される。平成27年もプロポーザルで入札となるのか。
事務局	入札方法については現在検討中。
委員代理	外出支援にむけ、タクシー協会でもできることも検討したい。
委員	本格運行に向けての協議会も設けるのか。
事務局	同じように地域公共交通会議を設ける予定。この事業だけではなく国交省の事業も含め、詳細なデータをとりどのような連携が可能か議論しながら本格運行に向けて検討したい。
副会長	変動費が変わるのは、利用人数によってガソリンの料金が異なるからということだけでの変化なのか。
事務局	9月の実績では1日平均104人利用されており、9月の変動費が285万円となっている。これから1日あたりの利用者と月あたりの変動費がおおよそどれ程かかるのか出している。変動費の内訳としては、オペレーター人件費、運転手人件費、ガソリン代となっており、これをもとに有償時の利用者数1人あたりの単価27000円をかけたものが変動費を推計で出している値となっている。
副会長	利用者が多くても少なくても人件費は変わらないのではないかと。
事務局	便の運航状況によってオペレーターや運転手の人数が変わる。便が動かなければ早めに帰宅という運用をしているため、人件費の変化が出る。
副会長	頑張った分だけ収入が増えるという方法も含めて考えてみては。
委員	南城のタクシー会社さんは、地域に根ざした運用をされているのか。
委員代理	地域の高齢者でタクシーを利用された方に500円券を渡している。
委員代理	変動費の設定の仕方はどのようにしているのか。また、利用客がいなければ、運転手やオペレーターが早く帰るとはどういうことなのか。1回300円の料金設定の理由も知りたい。
事務局	あくまでも今と同じ運用だと、この変動費ということ。料金設定を300円としたのは、いくらであれば利用するかというアンケートで得られた支払意思額をもとに300円に設定した。
代理	デマンドバスにより、既存の路線バスの見直しもあると、雇用の不安定化につながるので留意してほしい。また、本格運用ができずに改めて新規の事業を行う場合、このデマンドバスでの一般乗合旅客事業の許可は継続されるのか。
委員	有償実験期間内は一般乗合旅客事業の許可になる。本格運用となればまた別の許可が必要となる。
委員長	有償実験の運行計画については、みなさま概ね了承ということですので、この内容で実験を進めていきます。

3 第3回会議

3-1 議事次第

日時：平成27年3月5日(木) 10:00～12:00

場所：南城市役所 2F 玉城農村改善センター ホール

- | | |
|------------------------------|--------|
| 1. 開会 | 10:00～ |
| 2. 会長あいさつ | |
| 3. 委嘱状交付 | |
| 4. 報 告 | |
| (1) 第2回会議の議事録確認 | 10:10～ |
| (2) 実証実験の実施状況 | 10:20～ |
| (3) 実証実験の利用状況(中間報告) | 10:35～ |
| (4) 実証実験の評価(中間報告) | 11:15～ |
| 5. 議 事 | |
| (1) 平成27年度の有償実験事業の進め方(案)について | 11:40～ |
| 5. 閉会 | 12:00 |



図 8-3.第3回交通会議の実施状況

3-2 出席者

団体名等	氏名	備考
南城市	座波 一	会長
琉球大学工学部環境建設工学科	神谷 大介	副会長
沖縄総合事務局 運輸部 企画室	成田 佳奈子	
沖縄総合事務局 運輸部 陸上交通課	古堅 宗安	
沖縄総合事務局 南部国道事務所	照屋 悟	
沖縄県（南部土木事務所）	吉田 繁	
与那原警察署 交通課	平 晃	
一般社団法人 沖縄県バス協会	慶田 佳春	
一般社団法人 沖縄県ハイヤー・タクシー協会	津波古 修	
私鉄沖縄県労働組合連合会	佐久川 正実	代理
沖縄バス株式会社	親川 武司	
株式会社琉球バス交通	大城 幸和	代理
東陽バス株式会社	普久原 朝啓	
南城市民生委員児童委員連絡協議会	大城 宏光	
南城市区長会	新城 辰夫	
南城市観光協会	屋我英樹	代理

(敬称略)

3-3 議事要旨

(1) 実証実験の利用状況(中間報告)について

発言者	発言
委員	有償の際、運賃収入はどれくらいあったか。今後の運賃について再検討するのか。有償になると利用者が減ると想定していたが、減り幅は想定内か予想より減ったか教えてほしい。
事務局	運賃収入は、約 36 万円/月。運賃については、アンケート結果等を踏まえ、必要があれば変更も検討する。利用者の減少幅は、想定したよりも小さかった。年末年始の利用者は落ち込んでいるが、2～3 月には増えてきている。
委員	50 代の利用が大幅に増加しているように見えるが、65 歳未満の登録者は全体の 0.7%に留まっているので、浸透していないのではないか。また 4 月以降、通学や通勤の利用も見込めるのであれば、積極的に 65 歳未満の登録もするべきではないか。
事務局	通勤通学の場合には市外も多いので車や路線バスを利用していると考えられる。50 代が増加しているのは、市内の飲食などでデマンドバスを利用しているのではないか。65 歳未満の登録者に関しては、アンケート結果を踏まえ、解決策を見出したい。
委員	有償化しても、市外へのアクセスにデマンドバスを活用しているのかがうかがえるが、バス停などで降りられた人の目的地はどこか分かるのか。その調査もするのか。
事務局	実施中ではあるがアンケートで、市外に向かった方にはどこに行ったのか聞いている。改めて集計結果は報告する。
副会長	もし通勤通学を考えるのであれば、6～7 時台が必要になる。その場合には、入学などの資料と一緒に配布するのも良い。医療機関への利用の減少が大きいのが気になる。デマンドバスは高齢者の外出など福祉的な意味合いもあるので、高齢者や障がい者割引など検討してはどうか。
事務局	通勤通学での利用は、地域公共交通の利用実態調査実施を検討しており、その調査で対応したい。医療機関への利用は、見舞いでの利用が減少したことが要因と考えられる。また高齢者への割引についても、現在実施しているアンケート結果を踏まえ検討したい。
委員	次年度の国交省の調査の中で、タクシーの利用状況もアンケートに組み入れることはできないか。
事務局	できるだけ多くのデータを取るようにする。

(2)実証実験の評価(中間報告)について

発言者	発言
委員	デマンドバスにはルートがないが、国交省のフィーダの補助を考えているのであれば、幹線への結合が重要となる。馬天営業所の利用が多いというアンケート結果もあるので、それも踏まえて検討すべきである。
事務局	幹線結合等も含めて調査を進める。
委員	調査結果で、待ち時間に対しての不満が多いが、予約して迎えに来る時間はどれぐらいなのか。
事務局	1時間に1便の運行であるが、予約を受けた際にオペレータが、到着予定時間に10分前後余裕をみてもらうように伝えている。人によっては10分待たされたのを待ったと感じられる人もいる。タクシーのような貸切ではなく乗合という公共交通なので、理解してもらいながら運行していきたい。
委員代理	通過型観光から滞在型観光へ至ってないとあるが、確かに宿泊施設は、ユインチホテル以外には、古民家やペンションなど個人向けの宿泊施設ではあるが、デマンドバスは、おきなわワールドや奥武島などバス便が悪い場所へ行くのに便利であり、滞在型観光に寄与している面もある。
事務局	滞在型観光は、南城市内での宿泊に視点が行きがちである。日帰りが多いが、市外に宿泊しても、イベント期間中に南城市を往復して観光するのも滞在型観光として取り扱ってとりまとめたい。
副会長	沖縄県全体でもビギナーの割合が2割程度に下がっているので、デマンド利用者に占めるビギナーの割合2割は、問題視する数値ではない。 デマンドバスにロガーは付いているのか。
事務局	ロガーは付いており記録も残している。
副会長	待ち時間が長い理由をロガーで確認できる。時間通りに迎えに行ったが、利用者の準備が遅くなり、次の迎えが遅れたのか、それとも、迎えるのに時間がかかったのかについて確認する必要がある。 利用者の増加に向けては、高齢者はあまり生活スタイルを変えないので、イベントなどで実際に乗って体験して、乗り方を分かってもらいと良い。他の都道府県に事例もあるのでイベント的に考えても良いと思う。 路線バスだとバスナビなどでどう行くか検索できる。観光客向けに公共交通機関での遊び方を提示する必要がある。他の市町村でもコミュニティバスなど運営しているが、市町村だけでは路線バスとの連携はできない。コミュニティバスや路線バスの情報をつなげる仕組みが必要である。
事務局	デマンドバスが遅れている原因については、確認し調べる。体験乗車は、前々からご意見いただいているが、次年度に実施できるように努力する。県と市町村との連携については、検討しながら進めていきたい。

(3)平成 27 年度の有償実験事業の進め方(案)について

発言者	発言
委員	料金の見直しについて、適正と思う運賃が 199 円とあるが、料金は引き上げるのか引き下げるのか。
事務局	引き上げるのは厳しいと思う。高齢者など条件付で引き下げるのはあると思う。アンケート結果等をもとに検討したい。
委員	通勤通学にも使うのなら時間の見直しが必要ではないか。デマンドでバス停まで行ってバスに乗り継ぐ人には、割引があると良い。
事務局	検討したい。
委員	H27 年度は公募だが、H26 年度の企業とは別の会社になるのであれば、実験が途切れないように運輸局と調整をお願いしたい。
事務局	公募で運行会社が決まり次第調整をお願いしたい。
副会長	無償と有償のときで、1 台あたりのピークは何人ぐらい乗っていたか。10 人乗りが必要かどうかも含めて検討が必要。
事務局	正確な数字ではないが、1 時間に 10 人ほどで 3 台に割り振っている。
副委員	実態に合わせた車のサイズでも良いのではないか。また、運転経費について、H26 年度の 5 台のときと H27 年度の 3 台のときがあるが、台数が変わっても人件費はあまり変わらないものなのか。
事務局	シルバー人材への委託から、交通事業者への委託と委託先が変わり、台数が減っても人件費はあまり変わらない結果となった。
委員	車両の管理などはどうなっているのか。
事務局	事業所は、那覇市識名にある。そこで点呼して出発している。運転手の入れ替えは、南城市で行っている。
会長	H27 年度の有償実験の進め方、運行計画、運営体制について、本議会です承を得た旨を、会長名で提出することに異議はないか。
全委員	異議なし。

第9章 今後の課題

課題 1: 市民・観光客へのさらなる周知(特に男性、65 歳未満)

65 歳以上人口に占める登録率は 16.2%、65 歳未満に占める登録率は 0.7%と低く、「おでかけなんじい」の本格実施に向け、需要を見極めていくには、まだまだ登録者を増やし、利用促進を図る余地は大いにあると考えられる。特に、市民においては男性の利用が 2 割と少なく、登録、利用喚起が必要である。

また、観光客の利用も全体の 8%と低く、こちらについても利用促進の余地は大きいと考えられ、市民、観光客へのさらなる周知が求められる。

課題 2: 乗車効率の向上、待ち時間の短縮等運用における改善

「おでかけなんじい」の 1 便あたりの平均利用者数は、ピークの H26 無償実験においても 2.3 人/便と非常に余裕がある状況であり、乗車効率に向けた改善の必要がある。また、登録者アンケートでは、待ち時間に対する評価が低くなっており、予約を受け付けてから、迎えに行くまでの時間短縮など運用における改善とともに、問題発生要因を探るための実態調査も必要である。

課題 3: 観光客を対象とした詳細な調査実施

車内で実施している簡便な利用者アンケートでは、観光客の詳細な南城市の回遊状況や、消費行動等を把握できないため、南城市内を「おでかけなんじい」で回遊している方の実態や利用による効果が、レンタカー等で回遊している方との比較により把握できていない状況である。

このため、「おでかけなんじい」導入による観光面での評価を、他の交通手段利用者と比較分析を行うため、「おでかけなんじい」利用者以外も含めた観光客を対象とした調査実施が求められる。